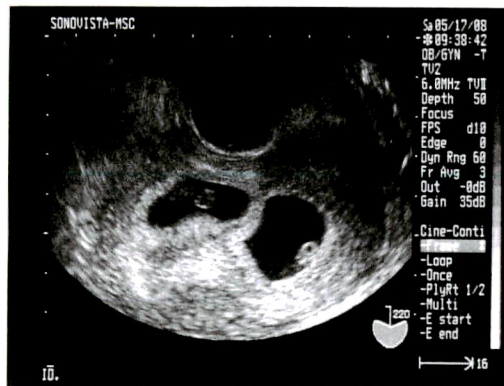


- 1 妊娠7週の経腔超音波所見を示す。



経腔超音波所見

今後の妊娠、分娩経過で発症する可能性が少ないのはどれか。

- a 切迫早産
- b 前置胎盤
- c 弛緩出血
- d 妊娠高血圧腎症
- e 双胎間輸血症候群

次の文を読み2～4の問いに答えよ。

75歳の女性。今朝から何となく普段と様子が違うとのことで、家人に付き添われ救急外来を受診した。自発開眼しており、医師の指示に従って緩慢ながらも上下肢を動かすことができるが、今日が何月何日かわからず会話にやや混乱がみられる。

- 2 この状態を示す意識レベルの記載として適切なのはどれか。

- a JCS I -1
- b JCS I -3
- c JCS II -10
- d GCS E4V4M6
- e GCS E4V5M5

- 3 患者には50歳代から高血圧があり他院より降圧薬を処方されていた。最近の処方内容に変化はなく、血圧も安定しており、健康状態にも特に異常はなかった。飲酒歴・喫煙歴はない。

身体診察で、体温 38.2℃、呼吸 24回/分、血圧 140/90 mmHg、脈拍 100/分、整。経皮酸素飽和度は 98%（室内気）。頭頸部および胸部に特記すべき異常はない。腹部は平坦・軟で、圧痛や腫瘍を認めない。右の肋骨脊柱角に叩打痛を認める。四肢に浮腫はなく、皮疹を認めない。眼底にうっ血乳頭は認めず、神経学的に明らかな異常はない。

まず行うのはどれか。2つ選べ。

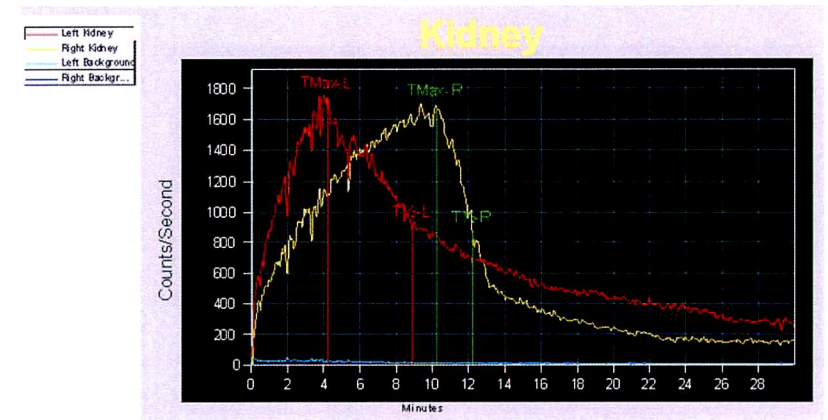
- a 尿検査
- b 髄液検査
- c 血糖値測定
- d 胸部エックス線
- e 頭部単純CT検査

- 4 この患者の意識障害の原因として考えられるのはどれか。

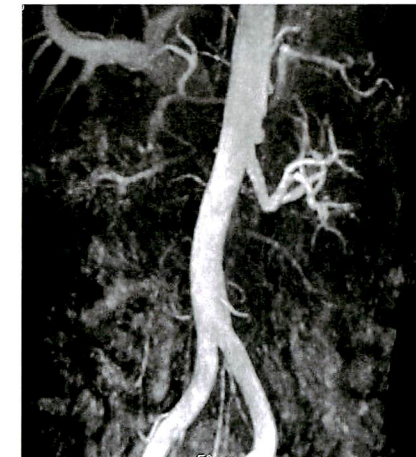
- a 脳卒中
- b 髄膜炎
- c 市中肺炎
- d 副腎不全
- e エンドトキシン血症

- 5 前立腺癌について、正しいのはどれか。
- a 肝臓は好発転移部位である。
 - b 50歳以下の若年男性に多く発症する。
 - c 血清腫瘍マーカーとして、PSAが有用である。
 - d 組織型として、95%以上が扁平上皮癌である。
 - e 腫瘍増殖因子として、エストロゲンが関与する。

- 6 32歳の男性。主訴：めまい、頭痛、労作時の動悸と息切れ。
- 現病歴：3年ほど前より、会社の健康診断で高血圧を指摘されていたが放置していた。2か月前より、労作時の動悸と息切れを自覚するようになり、突然のめまい、頭痛を生じることが多くなり来院した。
- 聴診上、心音心雑音に異常はなく、肺野も清であった。腹部は平坦で、肝脾は触れず、ぐる音は正常であるが、血管性雑音を聴取した。
- 以下に、腎血流シンチグラムおよび腹部MRIアングリオを提示する。



腎血流シンチグラム



腹部MRIアングリオ

本疾患について誤っているのはどれか。

- a 若年者では線維筋性増殖によるものが多い。
- b 腎血流シンチグラムで患側腎の血流異常が示されている。
- c 収縮期と拡張期血圧のいずれも上昇する。
- d バルーンカテーテルを用いた腎血管拡張術の適応がある。
- e アンジオテンシンII受容体拮抗薬は禁忌である。

7 21歳の女性。最近になって労作時に息切れを感じるようになった。本例の左足を示す。

考えられる疾患はどれか。

- a 僧帽弁閉鎖不全症
- b 原発性肺高血圧症
- c Eisenmenger症候群
- d 不安定狭心症
- e 閉塞性肥大型心筋症



本例の左足

8 51歳の男性。機械製造工場勤務。妻と息子、娘と同居している。30歳代から、慢性的な過量飲酒を認め、5年前から、手指振戦が出現。会社の定期健診で肝機能障害を指摘されるが、病院には行かずに放置していた。ここ半年は、会社も休みがちで、朝から飲酒することもあった。昨日から、急に歩けなくなり、息子がなんとか立たせてもよろめいてしまった。また、家族が話しかけても、「うん、うん」と答えるのみで、会話が成立せず、ときに「泥棒が来てる。警察に連絡しろ」、「地獄に落ちろぞ」などの発言を認めた。心配した家族が救急車を要請し、病院に搬送された。診察時には、見当識障害と眼球運動障害を認めた。

診断はどれか。

- a アルコール幻覚症
- b Korsakoff症候群
- c 複雑酩酊
- d 統合失調症
- e Wernicke脳症

9 40歳の男性。交通事故で受傷し、救急車で搬送され受診した。左脛骨の皮下骨折を認める。

急性期・亜急性期合併症として誤っているのはどれか。

- a 偽関節
- b 肺塞栓症
- c ショック
- d 脂肪塞栓症候群
- e コンパートメント症候群

10 66歳の男性。肝硬変に伴う脾腫による血小板減少症に対する治療目的で入院。下記の図1が治療前、図2が治療後の血管造影像である。

この治療法について誤っているのはどれか。

- a 血小板の増加が期待される。
- b 副作用に、発熱や疼痛がある。
- c 治療後にも脾静脈は描出されている。
- d 脾臓の下極を中心に塞栓されている。
- e 血小板3万以下の症例には禁忌である。

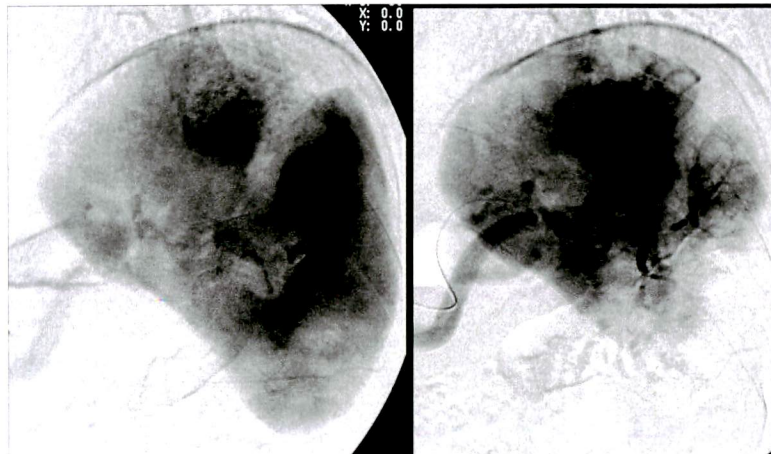


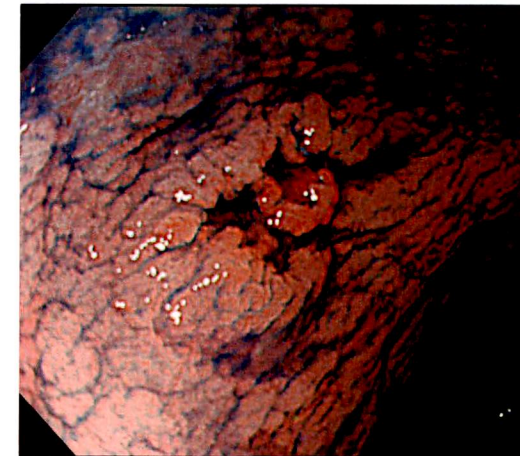
図1

図2

11 68歳の男性。近医で胃に病変を指摘され来院した。内視鏡写真を示す。

この内視鏡検査で使用された色素はどれか。

- a ルゴール
- b メチレンブルー
- c トルイジンプルー
- d インジゴカルミン
- e クリスタルバイオレット



内視鏡写真

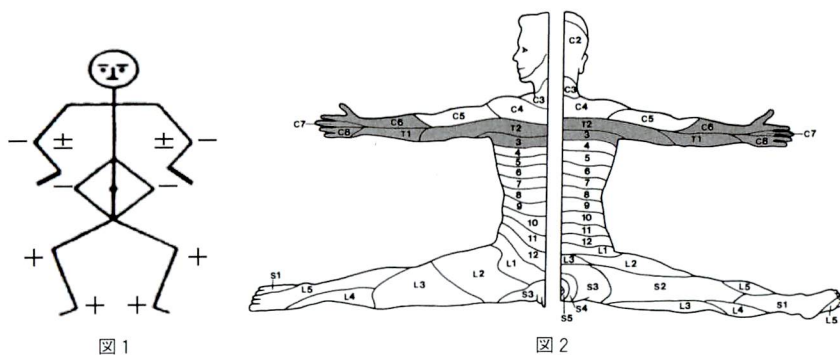
12 36歳の男性。

現病歴：半年前頃から、右手次いで左手の感覚が鈍くなった。熱さが分かりにくく、火傷をしても痛みを感じなかった。1か月前より両手の脱力と、腕が細くなったことを自覚し来院した。

神経学的所見：意識清明、脳神経に異常なし。両手および前腕筋の筋萎縮を認め、握力も低下している。深部腱反射を図1に示す。両手に温痛覚だけの感覚鈍麻を認める（図2の着色部分）。膀胱直腸障害なし。

本症例の神経症状を典型例が示す疾患はどれか。

- a 横断性脊髄炎
- b 脊髄空洞症
- c 前脊髄動脈症候群
- d Brown-Sequard症候群
- e 筋萎縮性側索硬化症



13 図1において ☆印のCT値がもっとも近いのは図2のA～Eのうちどれか。

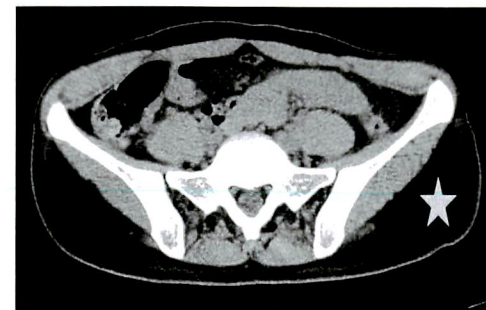


図1

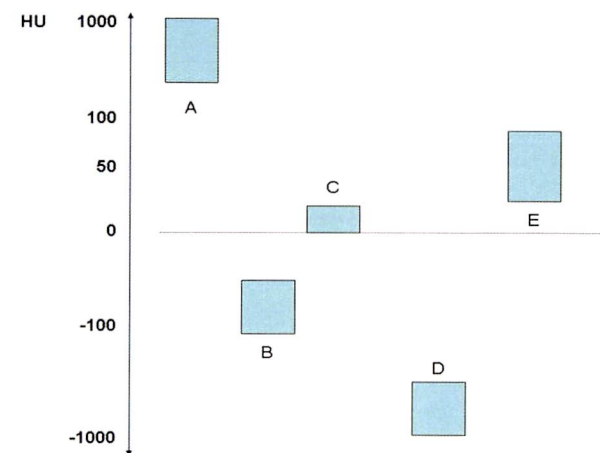


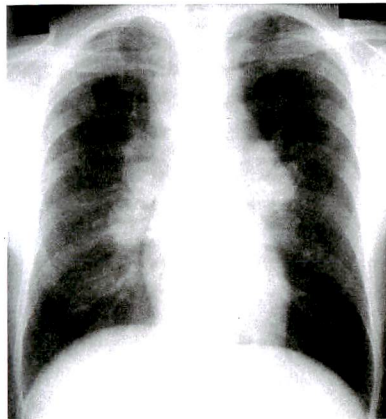
図2

- a A
- b B
- c C
- d D
- e E

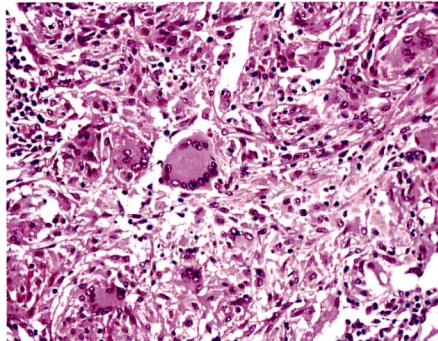
14 血液透析について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 除水は透析膜を介して透析液と血液の間に生じる圧差で行う。
- b 透析液の浸透圧は正常の血漿浸透圧より高く調整されている。
- c 体外循環の血流量は、80 ml/min で十分な効率が得られる。
- d 透析液のカリウム濃度は血中濃度の基準値より低く設定されている。
- e ブラッドアクセスの穿刺は、脱血側は返血側より近位側で行う。

15 35歳の男性。健診にて胸部異常陰影を指摘され来院した。胸部エックス線写真と病変部の組織像（H-E染色）を示す。



胸部エックス線写真



病変部の組織像（H-E染色）

この疾患について、正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 自然寛解が多い。
- b 血清LDHが高値である。
- c 病変内に抗酸菌が同定される。
- d ツベルクリン反応が陰性化する。
- e 気管支洗浄液内の好中球が増加する。

16 35歳の女性。めまいを主訴に来院。この時点で疾患Aである確率は20%であった。そこである検査をしたところ陽性であった。この検査結果を考慮した場合、この女性が疾患Aである確率は検査をする前の何倍か（小数点第2位以下は四捨五入）。但し、この検査の疾患Aに対する感度は70%、特異度は90%である。

- a 1.5倍
- b 1.8倍
- c 3.2倍
- d 3.6倍
- e 6.4倍

17 B型急性大動脈解離の合併症として発症しないのはどれか。

- a 腸管虚血
- b 下肢虚血
- c 急性腎不全
- d 大動脈破裂
- e 急性心筋梗塞

18 24歳の女性。複視と歩行時のふらつきで来院した。10日前に感冒症状があったが数日で軽快した。2日前より物が二重に見え、歩行時にふらつくようになり、徐々に増悪してきた。診察にて水平方向の眼球運動制限を認め、左方視で複視が出現する。四肢筋力は正常だが四肢の深部腱反射は両側とも消失。両上下肢の協調運動障害を認めた。脳脊髄液検査では細胞数は正常、蛋白については軽度の上昇を認めた。

この疾患について誤っているのはどれか。

- a 自然軽快し予後良好である。
- b 1か月以上の進行はみられない。
- c ステロイドパルス療法が有効。
- d 免疫グロブリン大量静注が有効。
- e 血液中抗GQ1b抗体陽性率が高い。

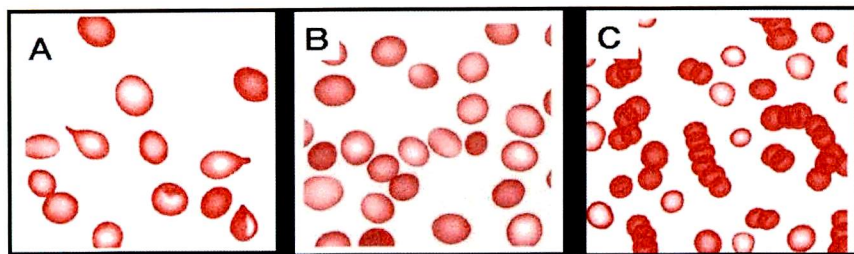
19 56歳の男性。1か月前から起き上がると急に後頭部が引っ張られるような痛みが出現した。安静臥床ですぐに消失するが、起きると頭痛が出現するため寝て過ごすようになった、近医を受診し緊張型頭痛と診断され、鎮痛剤を処方されたが改善しないため当院を受診した。既往歴に特記事項なし。受診時、一般身体的には異常なし。神経学的には眼底、髄膜刺激徴候も含め異常所見は認めない。頭部CTは異常なし。

考えられる診断はどれか。

- a 脳出血
- b くも膜下出血
- c 脳脊髄液減少症
- d 片頭痛
- e 群発性頭痛

20 図に示す末梢血の赤血球像を呈する疾患名の組み合わせ（A－B－C順）で正しいのはどれか。

- a 骨髄線維症－溶血性貧血－寒冷凝集素症
- b 骨髄線維症－遺伝性球状赤血球症－多発性骨髄腫
- c 鉄欠乏性貧血－遺伝性球状赤血球症－寒冷凝集素症
- d 鉄欠乏性貧血－溶血性貧血－マクログロブリン血症
- e 血栓性血小板減少性紫斑病－溶血性貧血－多発性骨髄腫

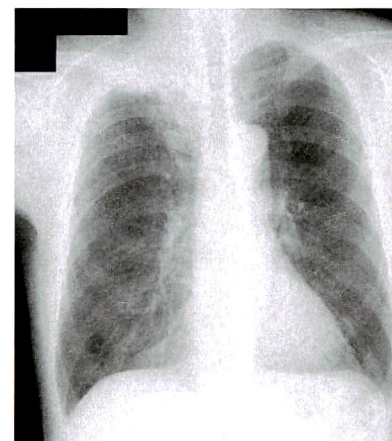


図

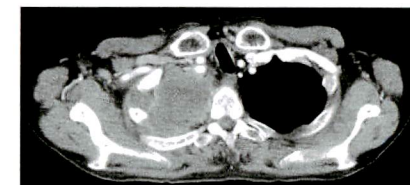
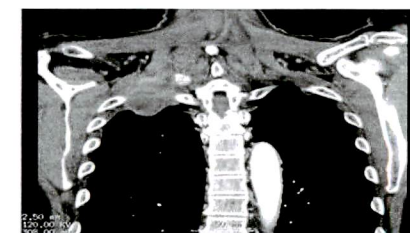
21 60歳の男性。胸部異常陰影の精査にて非小細胞肺癌（cT3N3M0）と診断された。胸部エックス線写真と胸部造影CTとを示す。

出現しにくいのはどれか。

- a 縮瞳
- b 背部痛
- c 発汗異常
- d けいれん
- e 上肢のしびれ



胸部エックス線写真



胸部造影CT

22 65歳の男性。2週間前より咳嗽と労作時呼吸困難が出現したため来院した。胸部エックス線写真で右胸水貯留を認めた。胸水の原因精査のために、胸腔穿刺を実施することになった。

胸腔穿刺施行に有用な検査はどれか。

- a 胸部造影CT
- b 超音波検査
- c FDG-PET
- d ^{67}Ga シンチグラフィー
- e 気管支内視鏡検査

23 23歳の男性。重症型潰瘍性大腸炎と診断され10日前に入院した。禁食で点滴治療とステロイドの静脈内投与を行っていたが、昨日から腹痛が増強した。意識は清明だが表情は苦悶状である。腹部は全体的に膨満し、臍周囲を中心に強い圧痛を認めた。血圧78/36mmHg、脈拍数120/分、体温39.5℃。腹部単純エックス線写真を示す。

治療方針として正しいのはどれか。

- a 結腸全摘術
- b 免疫抑制剤投与
- c 抗コリン剤投与
- d 白血球除去療法
- e ステロイド強力静注療法



腹部単純エックス線写真

次の文を読み、24～25の問いに答えよ。

54歳の女性。生来健康。昨日の夕食後に心窩部痛が出現した。その後、腹痛は消失し発熱も認められなかったが、心配になり来院した。来院時の腹部超音波検査写真と内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)施行時の胆管造影を示す。

24 正しいのはどれか。

- a 胆嚢癌が疑われる。
- b 胆管癌が疑われる。
- c 総胆管結石がみられる。
- d 胆嚢ポリープが疑われる。
- e 音響陰影がみられる。



腹部超音波検査写真

25 適切な治療法はどれか。

- a 肝切除術を予定する。
- b 緊急手術で胆嚢を摘出する。
- c 脾頭十二指腸切除術を予定する。
- d 腹腔鏡下胆嚢摘出術を予定する。
- e 緊急に経皮経肝胆嚢ドレナージをする。



ERCP施行時の胆管造影写真

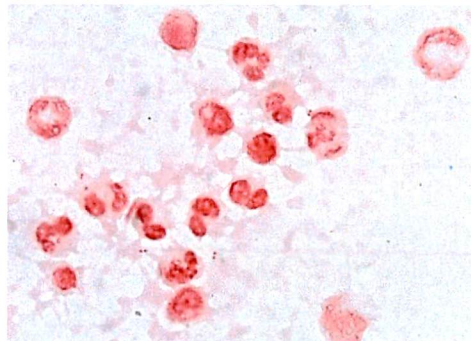
26 気道異物について誤っているのはどれか。

- a 異物は豆類が最も多い。
- b 気道確保して酸素投与を行う。
- c 症状は突然の咳嗽と嘔吐、チアノーゼである。
- d まずは口の中に指を入れて異物があるかどうか確かめる。
- e 意識があり、気道が確保されている場合にはハイムリッヒ法を行う。

27 18歳の男性。3日前より発熱を自覚していた。本日早朝より頭痛、嘔吐、項部硬直を認め来院した。髄液検査により、細菌性髄膜炎が疑われた。髄液のグラム染色を示す。

原因菌として考えられるのはどれか。

- a *Haemophilus influenzae*
- b *Neisseria meningitidis*
- c *Streptococcus pneumoniae*
- d *Klebsiella pneumoniae*
- e *Bacillus cereus*



髄液のグラム染色

次の文を読み、28～30の問いに答えよ。

急性膿胸、原発性肺癌、縦隔腫瘍に関して答えよ。

28 急性膿胸に関して正しいのはどれか。

- a 発熱は軽度である。
- b 胸腔穿刺で診断する。
- c 抗菌薬は局所投与する。
- d 結核由来が多い。
- e 肺炎は原因とならない。

29 原発性肺癌について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 扁平上皮癌は女性に多い。
- b 小細胞癌は化学療法薬に感受性が低い。
- c 大細胞癌は閉塞性肺炎を合併することが多い。
- d 扁平上皮癌は喫煙が危険因子である。
- e 腺癌の頻度が最も高い。

30 縦隔腫瘍と好発部位の組合せで正しいのはどれか。

- a 神経原性腫瘍——前縦隔
- b 心膜嚢胞——後縦隔
- c 縦隔内甲状腺腫——中縦隔
- d リンパ腫——後縦隔
- e 奇形腫——前縦隔

31 40歳の女性。自宅内での火災で熱傷を受傷し搬送されてきた。

最も優先される初期治療として適切なものはどれか。

- a 気道の確保
- b 静脈路の確保
- c 減張切開
- d 局所の冷却
- e 膀胱カテーテルの留置

32 55歳の女性。視力低下を主訴に来院した。小さい頃から暗いところではよく見えなかったという。矯正視力は両眼とも（0.2）であった。左眼の眼底写真を示す。右眼も同様の所見であった。

診断に有用な検査はどれか。

- a 眼圧検査
- b 暗順応検査
- c 角膜知覚検査
- d 網膜電図検査
- e 中心フリッカー検査



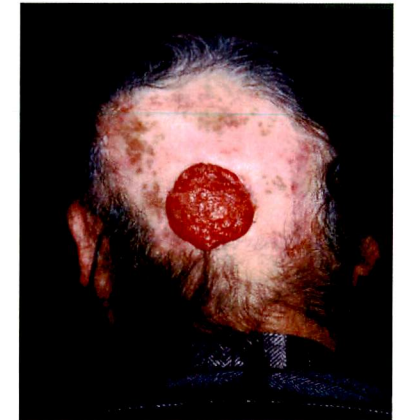
左眼の眼底写真

33 82歳の女性。13歳時に頭部に熱傷受傷、同部がケロイドになっていた。

1年前から一部が隆起しはじめ、1か月前から急速に拡大したため来院した。

もっとも可能性のある疾患はどれか。

- a 粉瘤
- b Bowen病
- c 悪性黒色腫
- d 皮膚扁平上皮癌
- e 乳房外Paget病

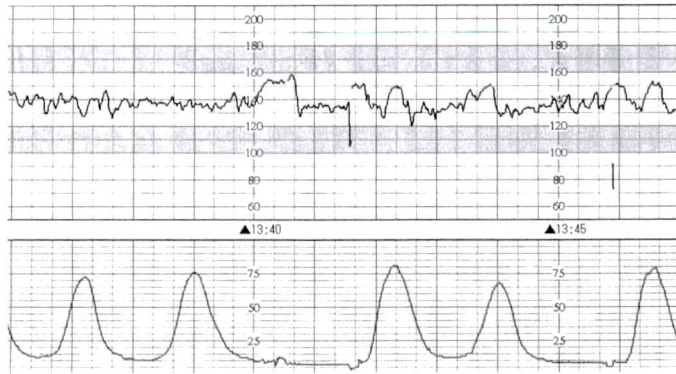


34 星状神経節ブロックで出現しないのはどれか。

- a 縮瞳
- b 眼裂狭小
- c 眼球結膜充血
- d 顔面皮膚温上昇
- e 上肢筋弛緩

次の文を読み、1～3の問いに答えよ。

30歳の1回経産婦。前回の妊娠は妊娠40週0日で3,100gの男児を自然経陰分娩した。今回の妊娠経過は順調であった。妊娠38週2日に陣痛が発来し入院となった。入院時の超音波検査による胎児推定体重は3,000gであった。内診所見は先進部は児頭を触れ、SP-2、子宮口4cm開大、胎胞を触知した。入院時の胎児心拍数図を示す。



胎児心拍数図

1 入院時の胎児超音波所見として正しいのはどれか。

- a 羊水量の減少
- b 頭囲/腹囲比の高値
- c 胎動を確認できる。
- d 臍帯動脈RI (resistance index) の増加
- e 中大脳動脈RI (resistance index) の低下

2 胎児心拍数図所見で正しいのはどれか。

- a 胎児頻脈を認める。
- b 一過性頻脈を認める。
- c 遅発一過性徐脈を認める。
- d 変動一過性徐脈を認める。
- e 基線細変動が消失している。

3 この時点で対応として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 帝王切開術
- c 子宮収縮抑制薬の投与
- d 子宮収縮促進薬の投与
- e 副腎皮質ステロイド薬投与

4 第2前方後頭位分娩の児頭回旋で正しいのはどれか。

- a 第1回旋で方位点は大泉門となる。
- b 第2回旋で大泉門が恥骨結合側に回旋する。
- c 骨盤澗部で矢状縫合は第1斜径に一致する。
- d 骨盤出口部で矢状縫合は横径に一致する。
- e 第4回旋で児頭は反時計回りに90度回旋する。

次の文を読み、5～6の問いに答えよ。

70歳の女性。駅のホームで突然倒れたところを目撃された。近くにいた人が、呼びかけに反応せず、脈も触れないことを確認した。5分後に救急隊が到着したところ一般人が心臓マッサージを施行中であった。

5 あなたがこの状況のとき現場にいたとする。周囲には倒れた人とあなた以外誰もいない。

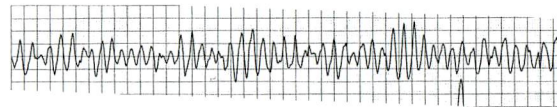
あなたが行う処置で誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 胸部を圧迫する。
- b 下肢を挙上させる。
- c AEDを自分で取りに行く。
- d 頭部後屈させ気道を確保する。
- e 頸動脈触知にて脈拍の有無を確認する。

6 救急隊が到着し、救急車内から持参したAEDを装着したところ、下記のようなモニター波形であった。

この心電図所見で正しいのはどれか。

- a 心室頻拍
- b 心室細動
- c WPW症候群
- d 心室性期外収縮
- e 発作性上室性頻拍

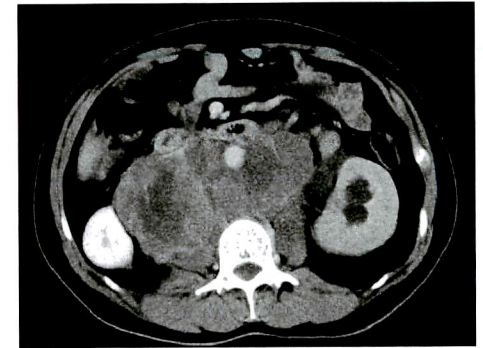


モニター波形

7 28歳の男性。無痛性の陰嚢腫大を主訴に来院。超音波検査では右精巣に充実性腫瘍を認めた。血液検査では、AFP 44,800ng/ml（基準値；20未満）、LDH 2,300 IU/l（基準値；115-245）と高値を示した。腹部造影CTを示す。

対応として正しいのはどれか。

- a 導尿
- b 経過観察
- c 陰嚢穿刺
- d 高位精巣摘除術
- e 経直腸的前立腺生検



腹部造影CT所見

8 42歳の男性。会社員。38歳時から、現在まで、うつ病の診断で精神科への入院歴が2回ほどある。1年前に退院してからは、精神科の外来に通院しており、抗うつ薬と睡眠薬の内服を継続していた。元々は真面目で控えめな性格であったが、3週間くらい前から、「この会社を良くするためには、組織を改革しないと駄目だ」と言い出し、上司に「あなたのやり方では会社がつぶれる」と文句を言うようになった。また、「俺みたいな一流の男は、着る服も一流じゃないとね」と言い、ブランド物の洋服をキャッシュカードで衝動買いしたりするようになった。1週間前からは、「世界は常に動いている。世界の動向をつかまなくては！」と言い、テレビのニュース番組をノートにメモ書きしながら観るようになったり、「この報道はおかしい」とテレビ局にクレームの電話を掛けたりするようになったため、心配した妻が患者を通院先の精神科に連れてきた。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 睡眠薬を中止する。
- b 抗うつ薬を増量する。
- c 炭酸リチウムを開始する。
- d 塩酸ドネペジルを開始する。
- e パルプロ酸ナトリウムを開始する。

次の文を読み、9～10の問いに答えよ。

3歳の男児。いすから転落して、自宅近くの整形外科医院で右肘部の骨折と診断された。4週間のギプス包帯による外固定で骨折部は癒合した。しかしギプスを除去したところ写真に示すような変形が明らかになった。

9 この変形の名称は何か。

- a 軸転位
- b 反張肘
- c 内反肘
- d 外反肘
- e 屈曲拘縮

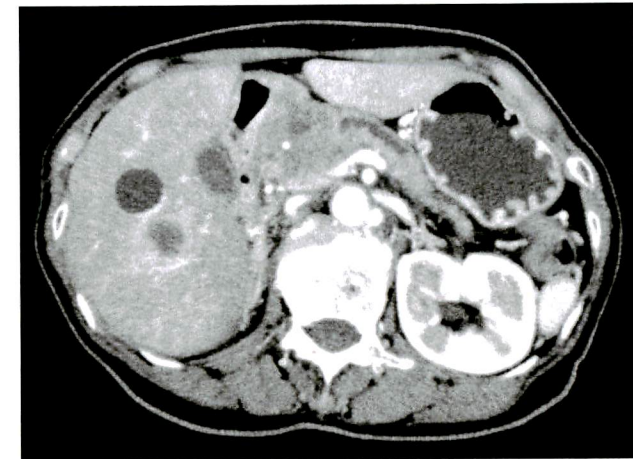
10 原因となる骨折として最も考えられるのはどれか。

- a 肘頭骨折
- b 肘関節脱臼骨折
- c 上腕骨小頭骨折
- d 上腕骨顆上骨折
- e 上腕骨外顆骨折



11 CT画像の症例について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a CA19-9が上昇する。
- b 耐糖能障害が出現する。
- c Hypervascularな腫瘍である。
- d 最も多い主訴は、背部痛である。
- e アルコール過摂取が原因である。



CT画像

12 56歳の男性。2年前から便に血液が付着するのを自覚していた。最近、下痢と便秘を繰り返すようになり来院した。来院時、身長 172cm、体重 70kg、腹部所見は異常なし。血液所見：赤血球数 450万、Hb 13.5g/dl、白血球数 6,200。血清生化学所見：総蛋白 7.2g/dl、総コレステロール 230mg/dl、CRP 0.3mg/dl。横行結腸部の注腸造影写真を示す。

適切な治療法はどれか。

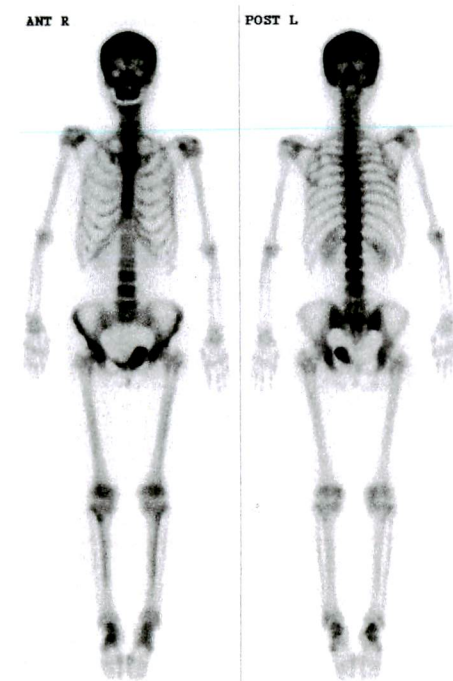
- a 放射線治療
- b 外科的腸切除
- c 内視鏡的摘除
- d 抗癌化学療法
- e 経肛門的局所切除



横行結腸部の注腸造影写真

13 核医学画像を示す。この画像診断で転移性骨腫瘍の診断をする際に原発巣として最も可能性が高い疾患は次のうちどれか。

- a 腎細胞癌
- b 肝細胞癌
- c 前立腺癌
- d 肺癌
- e 甲状腺癌

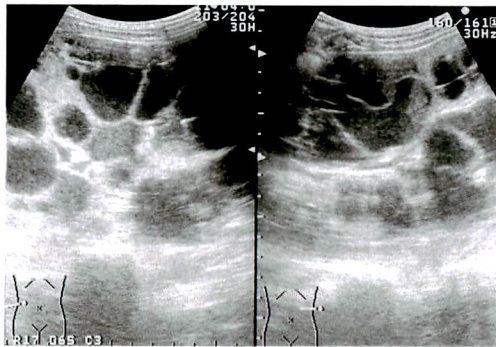


核医学画像

- 14 50歳の女性。人間ドックの腹部超音波検査で異常を指摘され来院。当院での腎臓超音波検査写真を示す。母親が慢性維持透析療法を受けている。

みられるのはどれか。

- a 低血圧となる。
- b くも膜下出血を発症する。
- c 副腎皮質ステロイド剤が有効である。
- d 腎臓移植の適応がない。
- e 腹膜透析が第一選択となる。



腎臓超音波検査の所見

- 15 術中迅速病理組織診断について誤っているのはどれか。

- a 手術切除範囲決定に有効。
- b 永久組織標本より診断精度は劣る。
- c 所要時間は30分～1時間程度。
- d ホルマリンによる組織の急速浸透固定。
- e 病変の良性・悪性の鑑別診断が可能。

- 16 1960年代に撮影された富山神通川流域に居住する女性の写真を示す。

大腿骨部の痛み、腰痛を訴え、この写真を撮られたときは常に「痛い、痛い」と訴えていた。また股関節の開排制限がある。

このような症状を訴える患者に共通して見られる検査所見はどれか。

- a 血中メトヘモグロビン検出
- b 血清コリンエステラーゼ低下
- c 尿中 β_2 -ミクログロブリン上昇
- d 尿中コプロポロフィリノーゲン上昇
- e 赤血球中 δ -アミノレブリン酸脱水素酵素低下



- 17 55歳の女性。眼瞼下垂、複視、軽度の四肢筋力低下で発症し、筋電図の反復刺激検査で眼輪筋と四肢筋にwaningを示した。胸腺摘除術施行予定で入院し、抗コリンエステラーゼ薬とステロイド80mg隔日投与で症状はほぼ消失し手術を施行した。

術後、嚥下困難、四肢筋力の重度低下、呼吸困難を生じ、呼吸不全となり人工呼吸器管理となった。

まず行うべき治療はどれか。

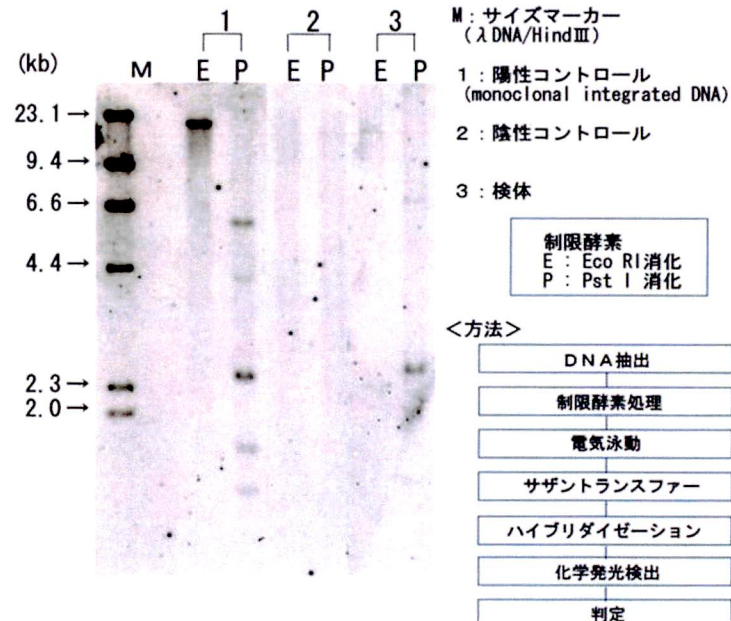
- a 免疫抑制剤の追加
- b 血漿交換療法
- c ステロイドの減量
- d ステロイドパルス療法
- e 抗コリンエステラーゼ薬の増量

18 62歳の男性。1 か月前より易疲労感があり、近医を受診した。貧血と白血球増加を指摘され、紹介受診した。

WBC 16,000、異型リンパ球が23%認められた。HTLV-1陽性であった。sIL-2R値は未着である。北海道出身。兄2名、姉1名、妹1名に血液疾患の罹患者はいない。さらに施行したリンパ球のサザンブロット検査結果を示す。

正しいのはどれか。

- a HIV発症と診断してよい。
- b HTLV-I 陽性であるので、高価なサザンブロット検査は不要である。
- c 北海道出身であり、同胞も発症していないので、伝染性単核球症と診断される。
- d 同胞4名のHTLV-I 陽性の確率は50%である。
- e sIL-2Rは高値が予想される。

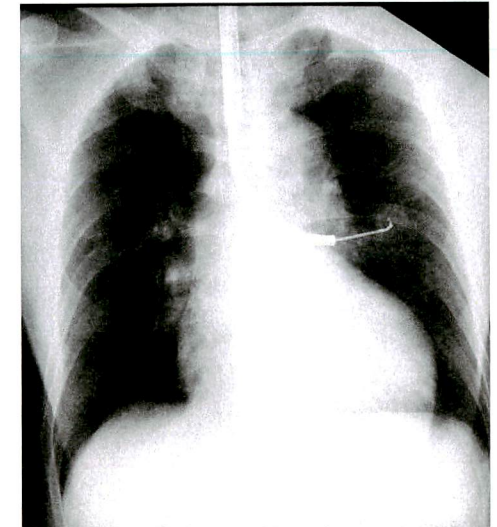


19 60歳の男性。健康診断の胸部エックス線写真で異常を指摘されて来院した。胸部異常陰影に対して気管支内視鏡検査を行った。

気管支内視鏡検査中の胸部エックス線写真を示す。

行っている検査手技はどれか。

- a 気管支洗浄
- b 気管支肺胞洗浄
- c 経気管支肺生検
- d 経気管支針生検
- e 末梢病巣擦過



胸部エックス線写真

20 75歳の男性。労作時呼吸困難を主訴に来院した。10年前から慢性肺気腫にて通院している。2日前より38℃の発熱、咳嗽および膿性痰が出現し、労作時呼吸困難が強くなったので来院した。呼吸困難はHugh-Jones IV度である。胸部エックス線写真では浸潤影を認めない。

行うべき検査として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 胸部CT
- b スパイロメトリ
- c 喀痰グラム染色
- d 動脈血ガス分析
- e 気管支内視鏡検査

21 65歳の男性。20年前に糖尿病を指摘されたが放置していた。

数日前より、右足のゆびに傷ができ、自分で消毒していたが傷が次第に大きくなりまた色も黒ずんできたので心配になり来院した。

身長167cm、体重70kg。体温36.6℃、血圧146/90 mmHg。足背動脈、後脛骨動脈、膝窩動脈の拍動は左右とも触れる。左右のアキレス腱反射の消失と振動覚の低下を認める。眼底検査で、増殖性網膜症を認めた。

創部周囲の熱感を認めるが、明らかな疼痛はない。患部の写真を示す。

来院時検査で、尿蛋白陽性、随時血糖 263mg/dℓ、HbA1c 9.7%であった。

足病変の原因として正しいのはどれか。

- a 動脈瘤
- b Raynaud病
- c Buerger病
- d 血栓性静脈炎
- e 多発性末梢神経障害



患部の写真

次の文を読み、22～23の問いに答えよ。

26歳の女性。

現病歴：2か月前より、時々高熱が出るようになった。1か月前、咳嗽と胸痛のため近医を受診し、エックス線写真で左胸膜炎と診断された。抗菌薬を処方されたが、高熱と胸痛は持続した。「昨晚から妹の様子がおかしい。今朝は話のつじつまが合わないし、場所と時間が分からないようだ。自分の名前も分からないみたいだ。目は覚ましているが、ぼんやりとしていて眠そうだ。」と、同居する姉は心配になり、妹を病院につれてきた。

既往歴：海水浴の後、日焼けをし易く、微熱や関節痛が続くことがあった。

家族歴：特記事項なし。

来院時の現症：身長148cm、体重42.1kg、体温40度。脈拍140/分、血圧142/56 mmHg。眼瞼結膜に貧血なし。顔面に、「鼻根部をまたがり両側頬部に広がる紅い隆起した皮疹」を認めた。眼瞼結膜：貧血、充血なし。眼球結膜：黄疸なし。口腔内にアフタは認めなかった。呼吸音は整。心音は正常で、過剰心雑音は聴取されなかった。肝脾腫なし。両側頸部および右鼠径部に柔らかいリンパ腺を触知した。髄膜刺激徴候はなく、両側上下肢にバレー徴候はなかった。

検査所見：

尿検査：蛋白2+、血尿3+、沈渣で赤血球円柱20～30/1視野、白血球20～30/1視野、顆粒球+。

血液検査：赤沈44mm/1時間値。赤血球448万、ヘモグロビン12.5g/dℓ、ヘマトクリット36.6%、白血球5,200、血小板8万。

血清生化学検査：総蛋白8.3g/dℓ、アルブミン3.1g/dℓ、クレアチニン0.83mg/dℓ、CRP7.73mg/dℓ、CH50 18U/ml（基準値30～40）。

経過：その日に入院となり髄液検査が施行された。初圧と終圧は11cmと6cm水柱で、蛋白30mg/dℓ（基準10～40mg/dℓ）、糖43mg/dℓ（基準40～70mg/dℓ）、細胞数43/3/μℓ（基準15/3未満）であった。アシクロビルの点滴静注を開始されたが解熱はせず、第3病日に幻覚、妄想を認めるようになった。初日に行った検査のうち、抗核抗体2,560倍（基準値20以下）、抗DNA抗体24IU/dℓ（基準値7以下）、抗SSA抗体陽性、抗RNP抗体陽性、抗Sm抗体陽性であることが分かった。この時点での髄液における一般細菌培養の結果も陰性である。

22 Japan coma scale（いわゆる3-3-9度方式）における、この患者の来院時の意識レベルはどれか。

- a 1
- b 2
- c 3
- d 10
- e 20

23 第3病日に行う処置として最も妥当なのはどれか。

- a グリセオールを投与する。
- b 塩酸ドネペジルを投与する。
- c インターフェロン治療を行う。
- d ステロイドパルス治療を行う。
- e セフトキシムナトリウムを投与する。

以下の文を読み、24～25の問いに答えなさい。

58歳の男性。直腸Raの深達度SEの進行癌に対し、腹腔鏡下低位前方切除術＋リンパ節郭清（D3）を施行した。本症例の手術時に用いられた器械写真（A、B）を示す。

24（A）の使用方法として適切なのはどれか。

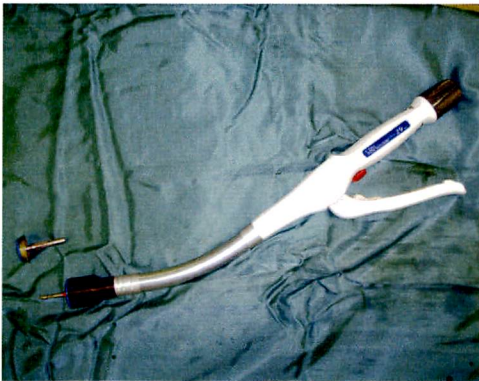
- a 肝生検
- b 腹壁穿刺
- c 直腸切断
- d ドレーン挿入
- e リンパ節郭清



手術時に用いられた器械写真（A）

25（B）の使用方法として適切なのはどれか。

- a 腹壁穿刺
- b 直腸切断
- c ドレーン挿入
- d リンパ節郭清
- e S状結腸直腸吻合



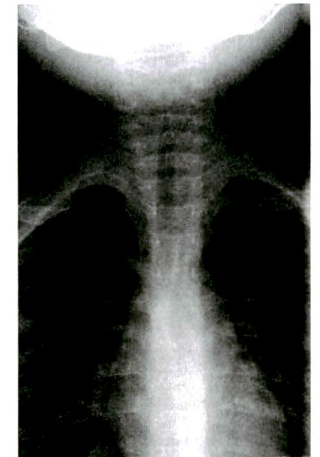
手術時に用いられた器械写真（B）

以下の文を読み、26～28の問いに答えよ。

生後7か月の乳児。数日前より咳嗽と鼻汁を認め近医を受診し、上気道炎の診断で去痰剤を処方された。夜になって咳嗽が増強し、吸気性喘鳴を認めるようになり、睡眠障害を主訴に救急外来を受診した。

受診時、体温37.0℃、心拍数135回/分、呼吸数35回/分、血圧 88/56mmHg、SpO₂ 98%（Room air）胸骨上窩の陥没呼吸を認めた。啼泣時嗄声を認め、犬吠様咳嗽を呈した。聴診上、吸気性喘鳴を著明に聴取した。心音、腹部所見に明らかな異常所見はなかった。

喉頭高圧エックス線写真を以下に示す。



喉頭高圧エックス線写真

26 この患者で異常なVital signはどれか。

- a 体温37.0℃
- b 呼吸数35回/分
- c 心拍数135回/分
- d 血圧 88/56mmHg
- e SpO₂ 98%（Room air）

27 この患児にまず行うことはどれか。

- a 静脈路を確保して血液検査を行う。
- b 上気道狭窄を考え経鼻air wayを挿入する。
- c 原因検索の為にウィルスの迅速検査を行う。
- d 酸素飽和度を確認しながら酸素投与を行う。
- e 啼泣により呼吸状態が悪化することを考えて鎮静剤を投与する。

28 この疾患に対する処置として適切なのはどれか。

- a 抗菌剤の投与
- b β 刺激薬の吸入
- c エピネフリン吸入
- d 抗アレルギー剤の投与
- e 確定診断のために気管支内視鏡を行う

- 29 62歳の男性。約20年前から会社健診で高血圧を指摘されていたが、放置していた。最近、一過性の視野障害やめまいを生じるようになり来院した。

まず行うべき検査はどれか。

- a 脳 波
- b 脳血管造影検査
- c 頸動脈超音波検査
- d 心臓超音波検査
- e 末梢血管脈波検査 (ABPI/PWV)

- 30 25歳の男性。ナイフで右環指と小指の基節骨レベルを切って受傷。来院時所見を写真で示す。環指と小指のDIP関節とPIP関節の自動屈曲運動はできなかった。

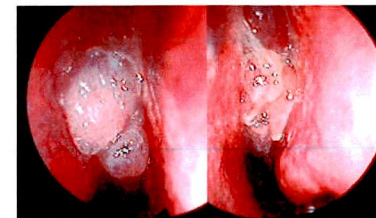
損傷組織で正しい組み合わせを選べ。

- a 深指屈筋腱——小指外転筋
- b 浅指屈筋腱——深指屈筋腱
- c 浅指屈筋腱——尺骨神経運動枝
- d 深指屈筋腱——正中神経運動枝
- e 深指屈筋腱——尺骨神経運動枝



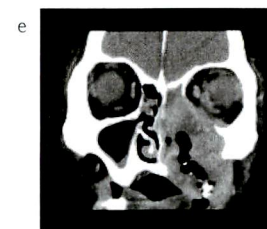
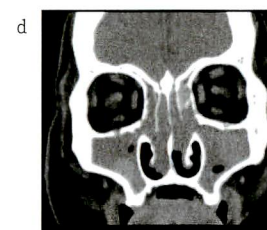
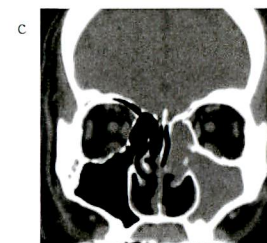
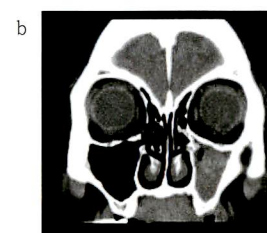
来院時の写真

- 31 64歳の男性。1年前から鼻閉が持続するために受診した。顔面の異常や鼻出血はない。この患者の鼻腔所見を示す。



鼻腔所見

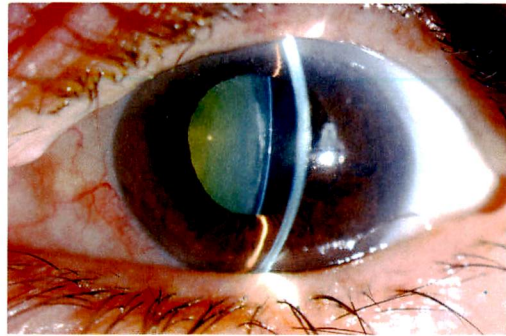
この患者の副鼻腔CT所見はどれか。



32 70歳の女性。左眼の視力低下、眼痛、頭痛、嘔吐を訴え来院した。矯正視力は右眼（1.0×＋3.50D）、左眼は（0.3×＋2.50D）、眼圧は右眼12mmHg、左眼40mmHgであった。来院時の左眼前眼部写真を示す。眼圧上昇の為、即座に点眼治療、内服治療、点滴治療を開始した。

次に行うべき処置はどれか。

- a 線維柱帯切開術
- b 線維柱帯切除術
- c レーザー虹彩切開術
- d レーザー毛様体破壊術
- e レーザー線維柱帯形成術



左眼前眼部写真

33 52歳の女性。1週間前から左前頭部疼痛出現、3日前より同部に水疱と紅斑が出現した。臨床写真を示す。診断はどれか。

- a 丹毒
- b 麻疹
- c 水痘
- d 虫刺症
- e 帯状疱疹



臨床写真

34 麻酔中の頻脈の原因として誤っているのはどれか。

- a 疼痛
- b 出血
- c 貧血
- d 迷走神経反射
- e 高CO₂血症の初期

- 1 33歳の女性。0 経妊 0 経産。無月経 7 週を主訴に来院した。経膈超音波検査を示す。



経膈超音波検査

正しいのはどれか。

- a 一卵性双胎の可能性はない。
- b 結合双胎の可能性はある。
- c 双胎間輸血症候群を合併しない。
- d 早産は起きにくい。
- e 過強陣痛が起きやすい。

- 2 38歳の女性。多量の不正性器出血を主訴に来院した。MRIのT2協調画像を示す。

考えられるのはどれか。

- a 胞状奇胎
- b 子宮外妊娠
- c 子宮体癌
- d 子宮頸癌
- e 卵管癌



MRIのT2協調画像

- 3 19歳の男性。2 日前からの咽頭痛を主訴に受診した。経過中の体温は最高で37.5℃、嘔声や嚥下時痛はなく、胸痛・咳嗽・呼吸困難もない。性交渉歴はなく、最近の渡航歴もない。特記すべき既往歴はない。

身体診察では、意識清明、体温37.3℃、血圧100/60mmHg、脈拍80/分、呼吸数16/分。咽頭後壁に軽度の発赤はみられるが、扁桃腫大や扁桃渗出物はなく、副鼻腔や前頭部の圧痛を認めない。表在リンパ節を触知しない。胸部と腹部とに異常所見を認めない。皮疹や浮腫はない。

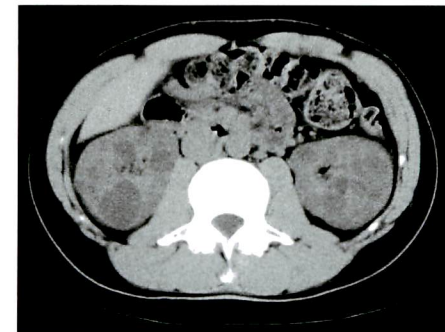
この患者への対応として適しているのはどれか。

- a 採血を行う。
- b このまま経過観察とする。
- c インフルエンザウイルス検査をする。
- d ペニシリン系抗菌薬を10日間投与する。
- e マクロライド系抗菌薬を5日間投与する。

- 4 24歳の男性。腹部膨満あり、精査を希望して来院。以前から健康診断で蛋白尿、血尿を指摘されていた。父、祖父が人工透析を受けている。受診時尿所見：蛋白（1+）、糖（-）、潜血（1+）。血液所見：クレアチニン2.4mg/dl。腹部単純CTを示す。

この患者について正しいのはどれか。 2つ選べ。

- a 腎摘出が必要である。
- b 常染色体劣性遺伝である。
- c 多臓器に嚢胞形成を認める。
- d 人工透析は必要にならない。
- e くも膜下出血を起こす危険性がある。



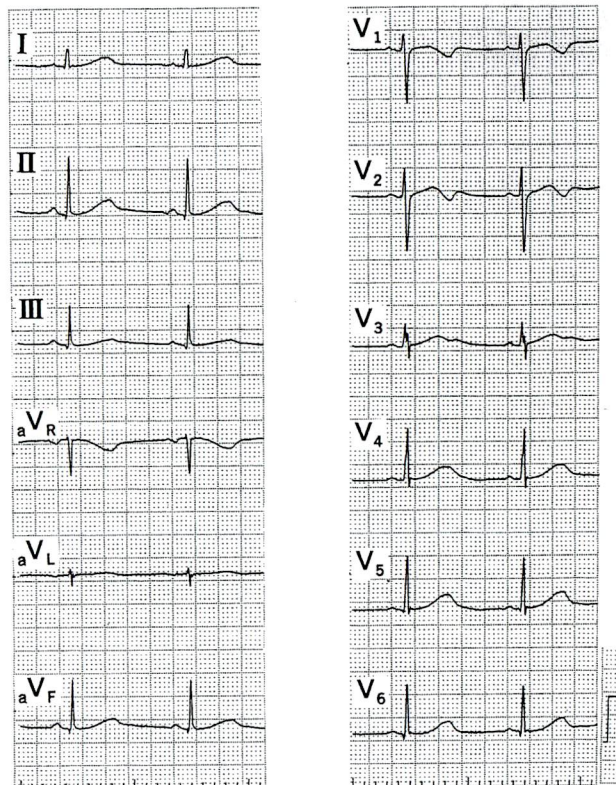
腹部CT写真

5 53歳の女性。うつ病で加療中である。出勤途中に駅のホームで意識消失発作を生じたため救急車で来院した。

来院時、意識清明。神経学的な異常所見はなし。血圧134/78mmHg。この症例の来院時の心電図を示す。

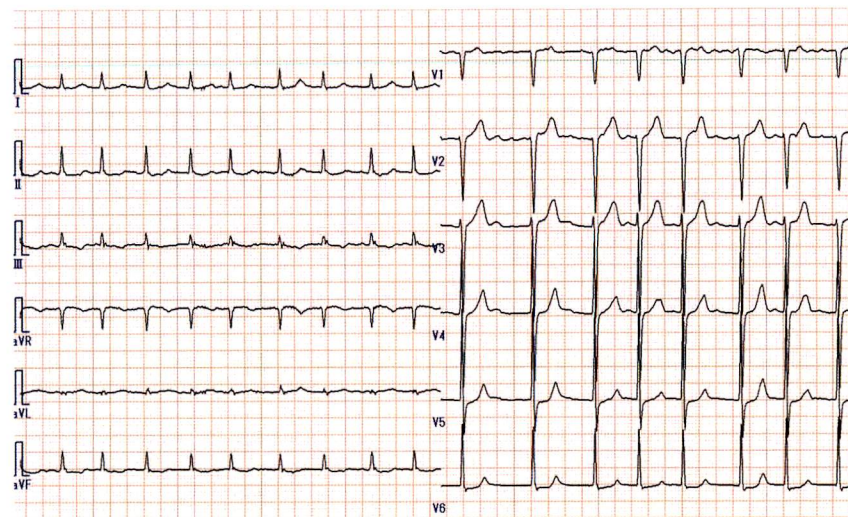
この症例の意識消失の原因が不整脈であるとしたら最も可能性が高いのはどれか。

- a 心房細動
- b 上室性頻拍
- c 洞停止
- d 房室ブロック
- e 心室細動

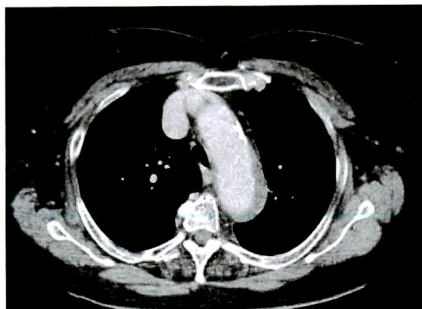


心電図

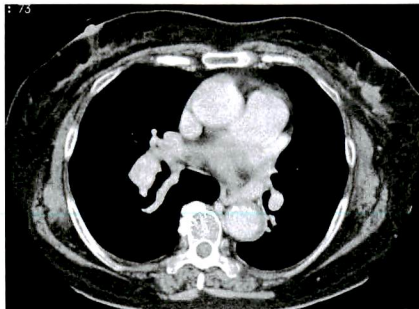
6 56歳の男性。トイレにて排便中に、突然の胸背部痛が出現し持続するため来院した。意識は清明。顔貌は苦悶様で冷汗を伴っていた。呼吸数26/分、脈拍104/分 不整、血圧：右上腕150/82mmHg、左上腕122/70mmHg、心電図と胸腹部CT（造影）を以下に示す。



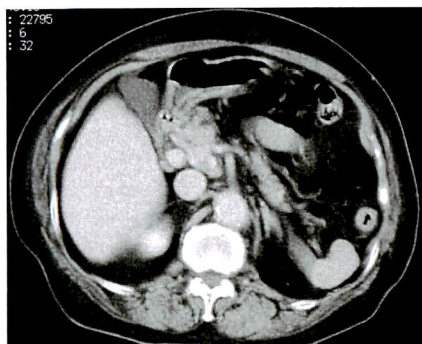
心電図



胸腹部CT（造影）



胸腹部CT（造影）



胸腹部CT（造影）

処置として適切でないのはどれか。2つ選べ。

- a 酸素投与
- b 心嚢ドレナージ
- c 降圧薬投与
- d 緊急手術
- e 鎮痛薬投与

- 7 68歳の女性。1年ほど前から物のしまい忘れが目立つようになり、大事な通帳などを盗まれたと騒ぐことがあった。昨日あったことを聞いても答えられず、ここ3か月は意欲の低下が目立ち、何をするでもなく座って一日の大半を過ごすため、家事も夫が代わりに行うことが多くなった。

この疾患の初期の症状として特徴的なものはどれか。

- a 幻視
- b 歩行障害
- c 人格変化
- d 近時記憶障害
- e パーキンソン（Parkinson）症状

- 8 38歳の男性。2か月におよぶ右下腿外側の痛みとしびれを主訴に来院した。さらに腰痛も自覚している。

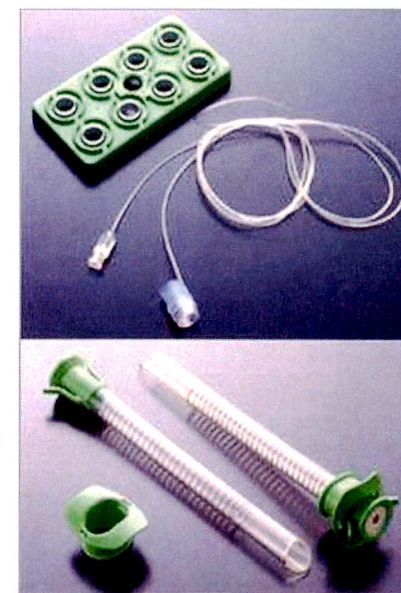
診断にもっとも有用な検査はどれか。

- a 筋電図
- b 頭部CT
- c 頸椎CT
- d 腰椎単純MRI
- e 下腿超音波検査

- 9 60歳の女性。食道静脈瘤に対する治療が施行された。下記に本症例に用いた治療器具の一部を示す。

この治療法の名称として正しいものはどれか。

- a 経静脈的静脈瘤塞栓術
- b 内視鏡的食道静脈瘤結紮術
- c 内視鏡的食道静脈瘤切除術
- d 経皮的肝内門脈静脈短絡術
- e 内視鏡的食道静脈瘤硬化療法



治療器具の一部

10 70歳の男性。食欲不振、体重減少を主訴に来院。上部消化管内視鏡検査（図1）、およびCT検査（図2）施行。

診断として正しいのはどれか。

- a 出血性胃潰瘍+肝膿瘍
- b 胃血管腫+肝血管腫
- c 胃癌+肝のう胞
- d 胃癌+肝転移
- e GIST+肝転移

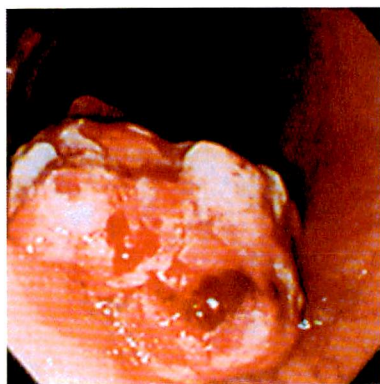


図1：上部消化管内視鏡検査

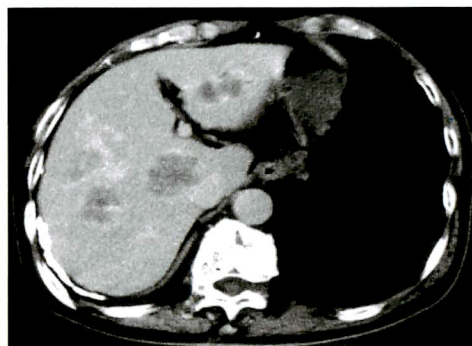
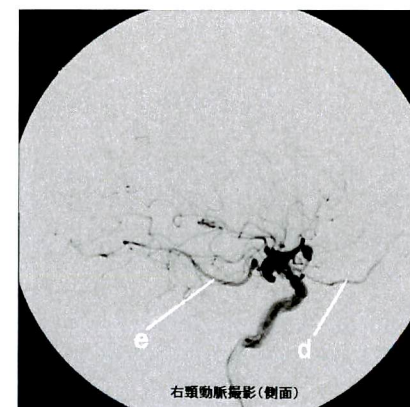
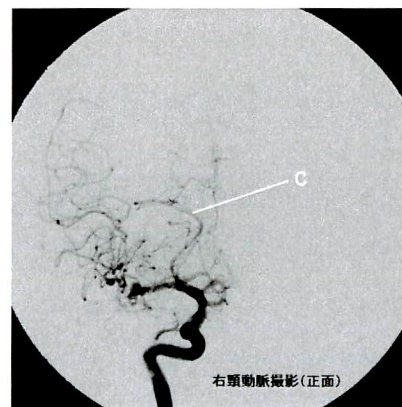


図2：CT検査

11 脳血管造影写真（左頸動脈撮影（斜位・側面像）と右頸動脈撮影（正面・側面像））を示す。

写真に示す記号と画像所見（正常構造と異常所見）の組み合わせとして正しいのはどれか。2つ選べ。

- a a—海綿静脈洞部脳動脈瘤
- b b—内頸動脈—後交通動脈分岐部動脈瘤
- c c—前大脳動脈
- d d—中大脳動脈
- e e—後大脳動脈



12 60歳の男性。C型肝炎ウイルス陽性で、近医にて経過観察をされていた。腹部造影CTで肝腫瘍を指摘され、治療のため当院に紹介された。肝切除術とラジオ波焼灼術は適応とならず、肝動脈塞栓術が検討された。

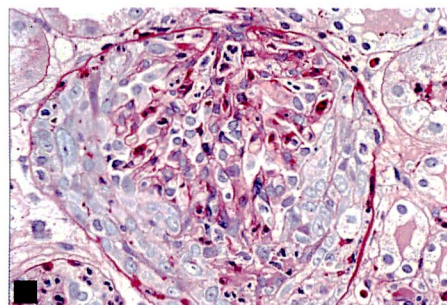
肝動脈塞栓術の適応を判断するのに最も重要なのはどれか。

- a 腫瘍が3個以下であること。
- b それぞれの腫瘍の最大径が3 cm以下であること。
- c 腎機能が保たれていること。
- d 門脈血流が保たれていること。
- e 太い血管（門脈や肝静脈）から離れていること。

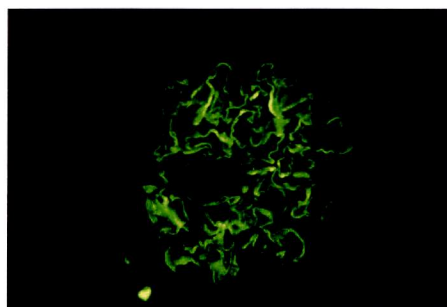
13 55歳の男性。血尿を主訴に来院した。1週間前より微熱と咳嗽、全身倦怠感を自覚。2日前より血尿を認めるようになり来院した。来院時、体温37.5℃、血圧166/92mmHg、脈拍98/分、眼瞼浮腫あり、肺野：清、心雑音なし、両下腿に浮腫あり。検査所見：尿所見：蛋白（2+）潜血（3+）赤血球円柱（+）。血清生化学所見：アルブミン 3.1g/dl、尿素窒素 62mg/dl、クレアチニン 4.2 mg/dl、CRP 2.4mg/dl。腎生検PAS染色標本と蛍光抗体法標本（IgG）を示す。

診断はどれか。

- a 急性糸球体腎炎
- b 顕微鏡的多発血管炎
- c 抗糸球体基底膜抗体腎炎
- d 膜性腎症
- e 膜性増殖性糸球体腎炎

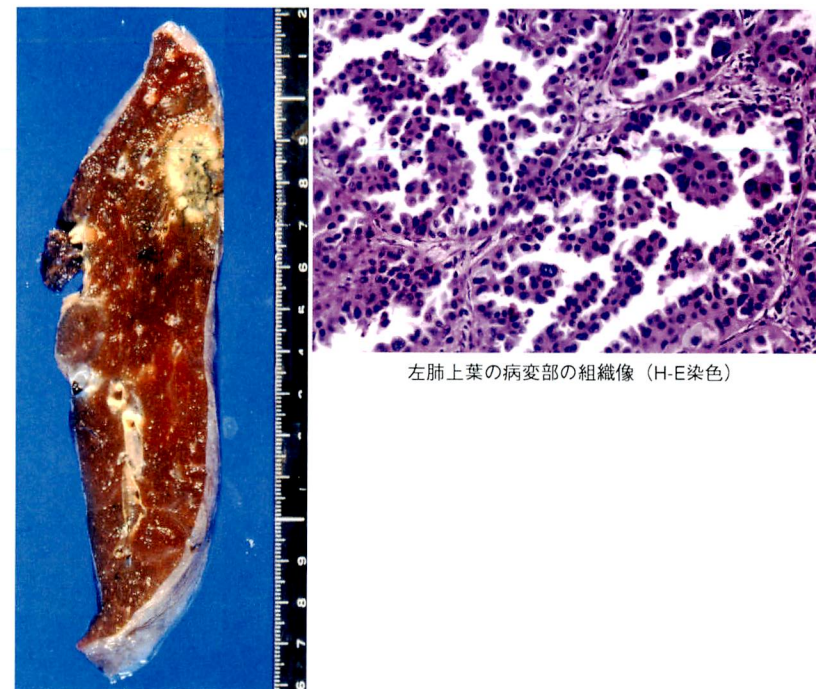


腎生検PAS染色標本



蛍光抗体法標本（IgG）

14 56歳の女性。肺癌により切除された左肺上葉の肉眼所見と病変部の組織像（H-E染色）を示す。



左肺上葉の病変部の組織像（H-E染色）

左肺上葉の肉眼所見

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 最も頻度の高い組織型である。
- b 放射線治療に高感受性である。
- c 抗腫化学療法薬に高感受性である。
- d 異所性ホルモンを産生することが多い。
- e エックス線写真で、腫瘍辺縁の棘状突起が特徴的である。

15 心筋梗塞の治療法に関する臨床研究に関わることになり、研究の計画を作成することになった。
医学研究に関して、被験者の人権尊重、研究の原則、倫理委員会の規定、インフォームドコンセントなどについて定めたのはどれか。

- a ジュネーブ宣言
- b ヘルシンキ宣言
- c リスボン宣言
- d アルマアタ宣言
- e 東京宣言

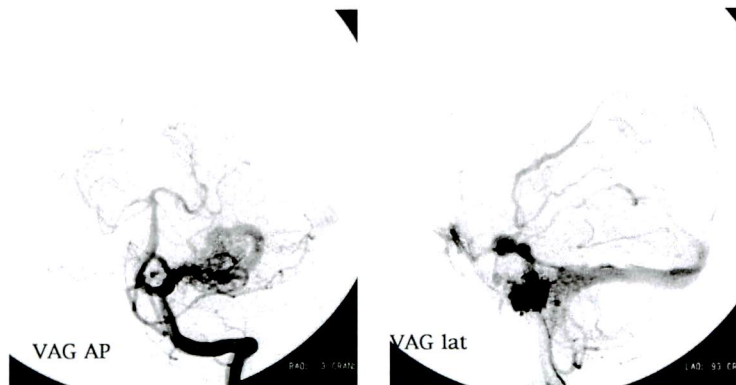
16 左心室に容量負荷のかかる心疾患はどれか。

- a 心房中隔欠損症
- b 心内膜床欠損症
- c ファロー四徴症
- d 大動脈狭窄症
- e 総肺静脈還流異常症

17 18歳の男性。生来健康。強い頭痛で発症し来院した。左手足に運動失調を認め、CTで小脳出血と診断され脳血管造影を行った。左椎骨動脈撮影（VAG）正面像（AP）と側面像（lat）を示す。

診断はどれか。

- a もやもや病
- b 高血圧性脳内出血
- c 海綿状血管腫
- d 脳動静脈奇形
- e 脳動脈瘤



左椎骨動脈撮影（VAG）正面像（AP）

左椎骨動脈撮影（VAG）側面像（lat）

18 片頭痛、群発頭痛の臨床的特徴や対処について正しいのはどれか。

- a 片頭痛発作でみられる頭痛は日常動作にて軽快する。
- b 群発頭痛は痛む側の対側の球結膜が充血し、流涙する。
- c トリプタン系薬剤の効果が全く認められないときは片頭痛ではない。
- d 群発頭痛発作時にはスマトリプタンの皮下注射が効果的である。
- e 片頭痛発作にアスピリンが有効な時もトリプタン系薬剤を処方する。

19 血小板輸血について、正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 健康人からの血小板採取は、体外循環で行う。
- b 血小板輸血は5万以下になったら10単位を輸血するのが基本である。
- c 血小板輸血は、HLA抗体産生を防止するためにも、必要最小限の回数を心がける。
- d 濃厚血小板は、輸血後GVHDを予防するために白血球カラムを通してから輸注する。
- e 日赤から搬入された濃厚血小板バックは、血小板凝集を防ぐために室温で静置する。

20 35歳の男性。会社の健康診断で軽度の白血球増加を指摘され、紹介受診した。

現 症：身長165cm、体重64kg。脈拍98/分、整。血圧128/78 mmHg。心雑音なく、呼吸音も異常なし。肝、脾は触知せず。

検査所見：血液所見：白血球 10,200、骨髓球 1%、後骨髓球 2%、杆状核好中球 3%、分葉核好中球 58%、好酸球 5%、好塩基球 6%、リンパ球 22%、単球 3%、赤血球 490万、Hb 15.4 g/dl、Ht 45%、網赤血球 15‰、血小板 28.8万。生化学所見：総蛋白 7.8 g/dl、アルブミン 4.2 g/dl、総ビリルビン 0.6 mg/dl、GOT 32 IU/l、GPT 24 IU/l、LDH 372 IU/l（正常値140～220）、アルカリホスファターゼ 235 IU/l（正常値 73～248）、BUN 12.6 mg/dl、クレアチニン 0.6 mg/dl。NAPスコア 54（基準158～260）、フェリチン 56 ng/ml（正常値 20～120）。ビタミンB12 >2,000 pg/ml（正常値 250～950）、葉酸 5.2 ng/ml（基準 2.4～9.8）

確定診断に必要な検査はどれか。

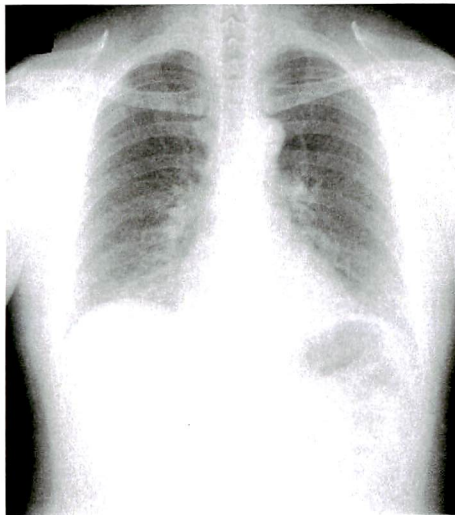
- a FDG-PET検査
- b JAK-2変異検査
- c 血清免疫電気泳動
- d 骨髓液染色体分析
- e 骨髓液フローサイトメトリ検査

21 37歳の男性。咳嗽と呼吸困難を主訴に来院した。1か月前から乾性咳嗽が出現し、近医で抗菌薬を処方されるも軽快せず、1週間前から呼吸困難を自覚するようになった。約1年前の同時期にも咳嗽が続いたことがある。

築30年以上の木造家屋に居住。喫煙歴はない。体温 37.2℃、室内気吸入下でSpO₂ 94%。
胸部エックス線写真を示す。

誤っているのはどれか。

- a 詳細な問診が必要である。
- b ただちにステロイド治療が必要である。
- c 両下肺野でfine cracklesを聴取する。
- d 気管支肺胞洗浄が診断に有用である。
- e 呼吸機能検査では拡散能が低下する。

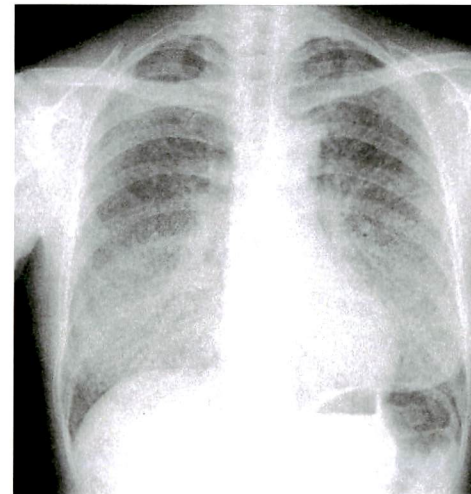


胸部エックス線写真

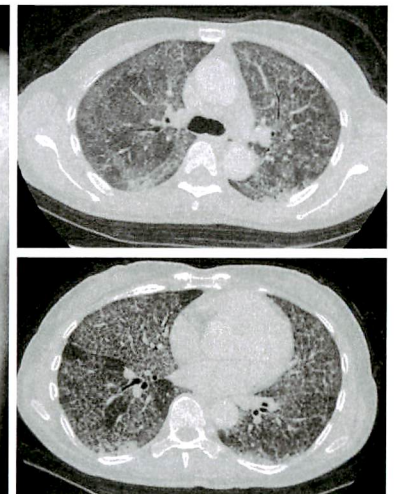
22 50歳の女性、主婦。労作時呼吸困難を主訴に来院した。2年前の健康診断で胸部異常陰影を指摘されたが放置していた。1年前から階段昇降時に息切れを自覚するようになり、徐々に増強。最近ではHugh-Jones Ⅲ度の労作時呼吸困難と咳嗽を認める。

血液検査では、WBC 4,200（分類正常）、RBC 469万、Hb 13.6、血小板23.7万。血液生化学・血清学検査では、LDHの軽度上昇を認めたが、GOT、GPT、Alpは正常。腎機能、CRPも正常であった。空気呼吸下での動脈血液ガス分析は、pH 7.41、PCO₂ 45.5 Torr、PO₂ 58.3 Torr、HCO₃⁻ 28.3 mEq/Lであった。診断確定のため気管支内視鏡検査で気管支肺胞洗浄と経気管支肺生検を実施したところ、気管支肺胞洗浄液は白濁していた。

初診時の胸部エックス線写真と胸部単純CT写真を示す。



胸部エックス線写真



胸部単純CT写真

正しいのはどれか。

- a ステロイド治療が有効である。
- b 肺胞にはPAS陽性物質が充満している。
- c Ⅱ型肺胞上皮の分泌増加が原因である。
- d 経気管支肺生検での確定診断は困難である。
- e 進行すると閉塞性換気機能障害が主体となる。

23 62歳の女性。地域の健診にて高血糖を指摘され、来院した。

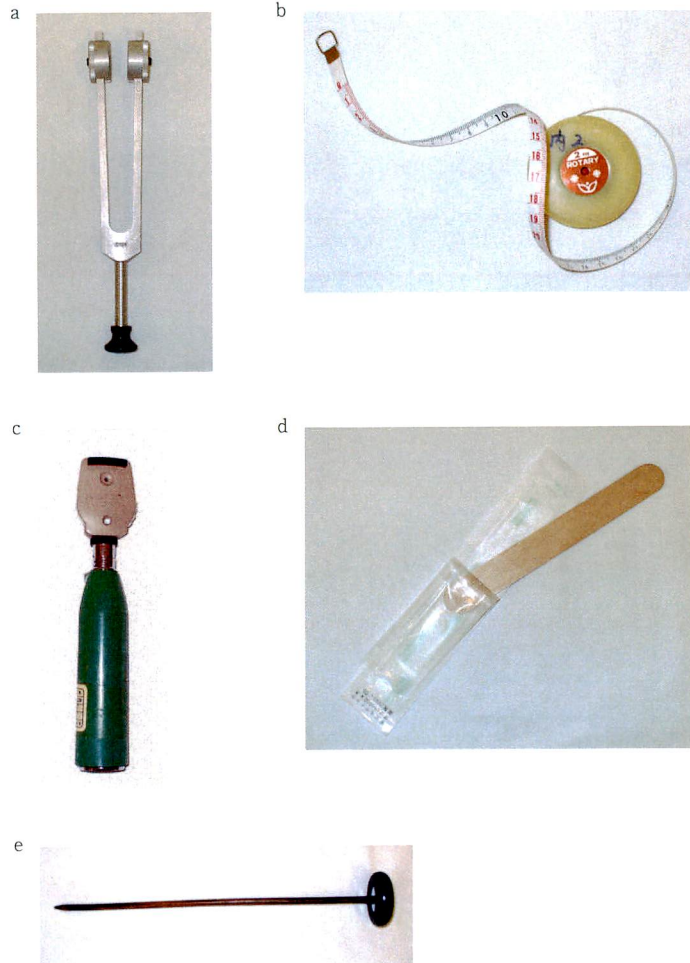
現病歴：8年前に口渇を自覚したことがあるが、最近は無症状である。今回の健診の空腹時血糖値は134mg/dℓであった。

現 症：身長153cm、体重62kg。脈拍88/分、整。血圧158/94mmHg。意識は清明。心肺、腹部に異常なし。

家族歴：母親が糖尿病である。

検査所見：尿所見：蛋白（－）、糖（2＋）、ケトン体（－）、潜血（－）。血液所見：赤血球420万、Hb 13.8g/dℓ、Ht 41%、白血球5,300、血小板15万。血清生化学所見：総蛋白7.2 g/dℓ、アルブミン3.9 g/dℓ、尿素窒素12 mg/dℓ、クレアチニン0.7 mg/dℓ、AST 32 IU/ℓ、ALT 45 IU/ℓ、ALP 350 IU/ℓ（基準260以下）。

糖尿病と診断するために必要な診察用具はどれか。



次の文を読み、24～26の問いに答えよ。

68歳の女性。咳嗽、呼吸困難を主訴に来院した。

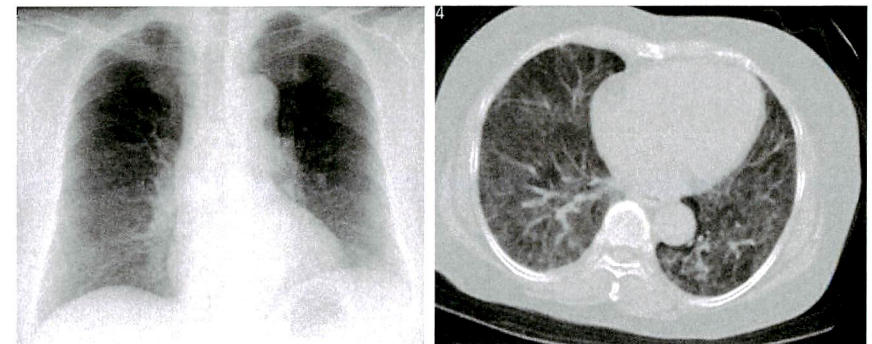
現病歴：2年前より両側手指関節痛、腫脹、及び両足関節の腫脹、疼痛を認め近医受診。関節リウマチの診断にて非ステロイド抗炎症薬、抗リウマチ薬の投与がなされた。しかし半年前から再び両側手指関節、肩、膝、足関節の痛みが持続し紹介され受診した。メトトレキサート、ステロイド薬、非ステロイド抗炎症薬の投与を行ったが効果乏しく、1か月前より抗TNF α モノクローナル抗体（インフリキシマブ）の投与を開始した。初回投与後、関節症状は著しく改善した。その2週間後2回目の投与を行ったところ、投与後2週間後より微熱、咳嗽や喀痰が出現、労作時息苦しさを自覚したため受診した。

既往歴：特になし、生活歴：喫煙10本 30年、家族歴：妹 膠原病

現 症：身長146cm、体重50kg、体温37.5℃、血圧120/70、心音異常なし、呼吸音両側肺野全体に捻発音聴取、腹部異常なし、両側手、足関節に軽度圧痛を認める。

検査所見：血液ガス pH 7.41、PaCO₂ 36mmHg、PaO₂ 48mmHg、HCO₃⁻ 21mmol/L、SpO₂ 86%、白血球3,200、リンパ球300、ヘモグロビン10 g/dℓ、血小板20×10⁴、KL6 528U/ml（基準400>）、 β -Dグルカン198pg/ml（基準10>）。

胸部エックス線写真、胸部単純CT写真を示す。



胸部エックス線写真

胸部単純CT写真

24 まず行うべきことはなにか。2つ選べ。

- a 病室隔離
- b 酸素投与
- c 血液培養
- d 心電図モニター
- e メトトレキサートの中止

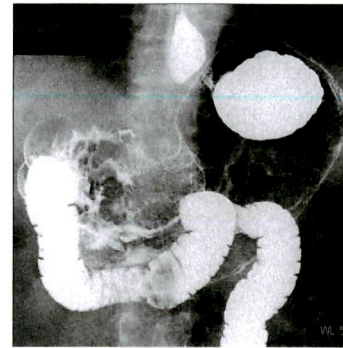
25 この症例の呼吸器合併症の診断はどれか。

- a 肺炎球菌肺炎
- b クラミジア肺炎
- c アスペルギルス肺炎
- d メトトレキサート肺炎
- e ニューモシスチス肺炎

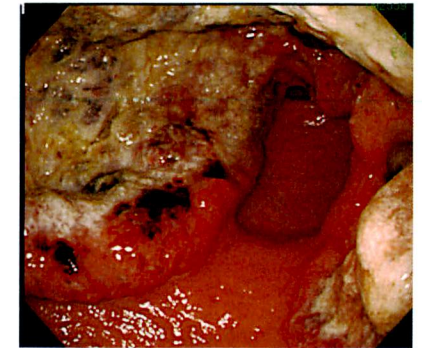
26 行うべき治療はどれか。2つ選べ。

- a スルファメトキサゾール・トリメトプリム
- b アンホテリシンB
- c イソニアジド
- d ニューキノロン
- e プレドニゾロン

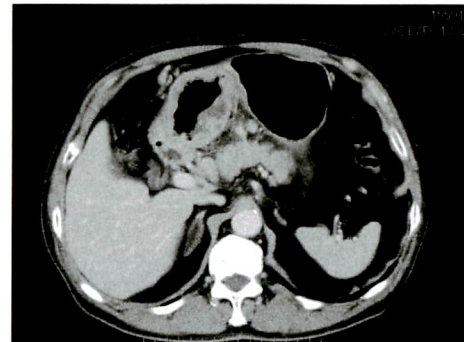
27 63歳の男性。約3週間より食後の上腹部痛が出現したため近医を受診した。胃内視鏡検査で胃癌と診断され当院を紹介された。当院で施行した上部消化管造影写真、胃内視鏡写真、造影CT写真を示す。



上部消化管造影写真



胃内視鏡写真



造影CT写真

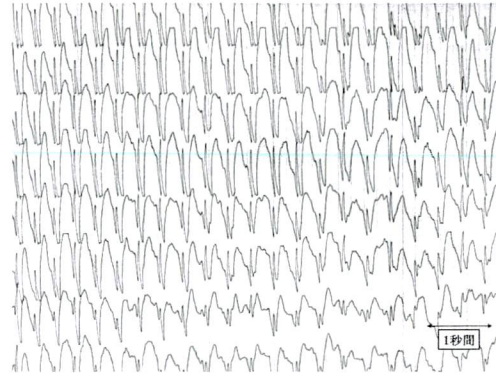
正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 根治術可能な場合は2群リンパ節郭清を行う。
- b 十二指腸浸潤を認めれば根治術は不可能である。
- c 根治術可能な場合は胃十二指腸動脈を切離する。
- d 洗浄細胞診で癌陽性であれば根治術は不可能である。
- e 横行結腸に直接浸潤を認めれば根治術は不可能である。

- 28 6歳の女儿。意識消失を主訴に受診した。
発作間歇期脳波所見を示す。

診断はどれか。

- a 熱性けいれん
- b 憤怒けいれん
- c 小児欠伸てんかん
- d 點頭てんかん (West症候群)
- e 乳児重症ミオクロニーてんかん



発作間歇期脳波所見

- 29 採血後に遠心した検体を2本示す。左側の検体において測定値が上昇するのはどれか。2つ選べ。

- a AST (GOT)
- b BUN
- c Ca
- d γ -GTP
- e K



採血後に遠心した検体

- 30 35歳の男性。交通事故による顔面外傷のため救急車で搬送された。意識は清明で、開口制限はなく咬合状態も良好である。衣服に多数のガラス片が残っていた。

正しい処置を選べ。

- a レントゲン検査で創部へ埋入したガラス片を確認する。
- b レントゲン検査は行わなくても良い。
- c ガラス片は自然に排出されるため、放置して良い。
- d 創部が治癒した後に埋入したガラス片を摘出したほうが、最終的な傷はキレイである。
- e 顔面の変形が危惧されても、徹底的にデブリードマンシ縫合処置をすべきである。

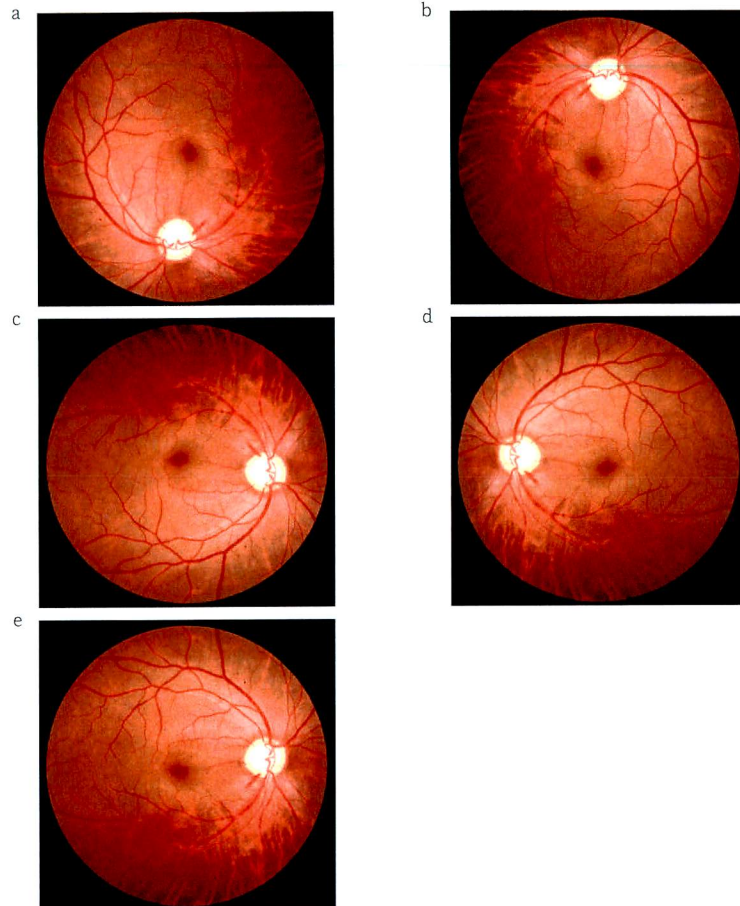
- 31 45歳の女性。10年前より1年に約1回の頻度で浮動性めまいと耳閉塞感を自覚していた。1年前からめまいの発作頻度が増し、3か月前から1週間に1度の頻度で耳閉塞感に加えて聴力の低下と1時間持続する回転性めまいを繰り返すようになった。本日朝から耳閉塞感を感じていたが、昼より聴力が低下し、午後5時頃回転性めまいを認めたため、救急外来を受診した。受診時、定方向的の水平回旋混合性眼振を認めていた。

この疾患の特徴で正しいのはどれか。

- a 麻痺期に足踏み検査を行うと健側に偏倚する。
- b リクルートメント現象陰性の聴力障害である。
- c 病初期の聴力低下は、低音部の障害である。
- d 電気性身体動揺検査では、病側で反応がない。
- e 強い回転性めまいは、連続して2日以上続くことが多い。

32 患者は座位、正面視をした状態で、検者も座位にて倒像鏡を用いて左眼の眼底検査を行った。
観察像を a から e に示す。

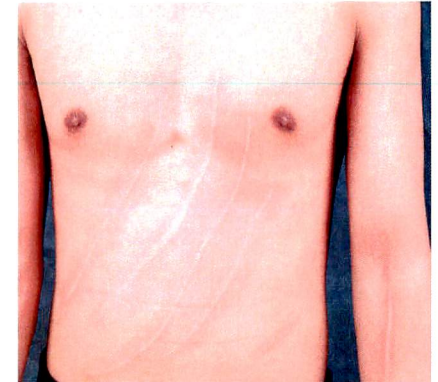
正しい観察像はどれか。



33 32歳の男性。昼食後から全身の掻痒感と嘔気で来院した。体温36.2度、脈拍80/分・整、血圧120/64。掻爬に一致して写真のような皮疹を認め、口唇はやや腫脹している。意識は清明で会話もできる。

適切な処置はどれか。

- a 輸液
- b 胃洗浄
- c 気道確保
- d 抗菌薬投与
- e 抗ヒスタミン薬投与



34 61歳の男性。身長168cm、体重92kg。胆石症に対し、腹腔鏡下胆嚢摘出術が予定された。麻酔は全身麻酔が計画された。気管内挿管後用手換気を行なったところ、皮下脂肪が厚く胸郭の運動はよく確認できなかった。呼吸音は両肺野で聴取できず、上腹部でゴロゴロ音がした。気管内チューブのくもりは確認できなかった。

次にすべきことはどれか。

- a 気管内チューブを浅くする。
- b 気管内チューブを抜去してマスク換気する。
- c 人工呼吸器につなぐ。
- d 気管内チューブをテープで固定する。
- e 手動的に換気を続ける。

- 1 30歳の初産婦。妊娠7週で受診した。経腔超音波検査で、子宮内に胎嚢を認め、心拍を有する胎芽も確認された。右付属器は正常、左付属器の所見を図に示す。同部に圧痛はない。また、今回の妊娠成立直前の周期には認められなかった。

正しいのはどれか。

- a 経過観察
- b 左付属器切除術
- c 左卵巣部分摘出術
- d 経腔的穿刺内容吸引
- e 妊娠中絶後に根治術



左付属器の所見

- 2 34歳の女性。妊娠32週4日。突然性器出血があり来院した。下腹部緊満感はない。出血は少量で腔内に拇指頭大の凝血塊を認めた。

超音波検査では、内子宮口付近に高輝度な塊が見られる。続いて行ったMRI検査を示す。

正しいのはどれか。

- a 再発率は低い。
- b 胎位異常が多い。
- c 喫煙との関連はない。
- d 経産婦より初産婦に多い。
- e 多胎妊娠より単胎妊娠に多い。



MRI検査

- 3 75歳の男性。数か月前からの労作時息切れを主訴に外来を受診した。毎朝散歩をしているが、徐々に息切れがひどくなっており、最近では平地を数十m程度歩くだけでも息が切れるという。息切れのある時に胸痛はなく、冷汗や嘔気も伴わない。20本/日×50年の喫煙歴がある。

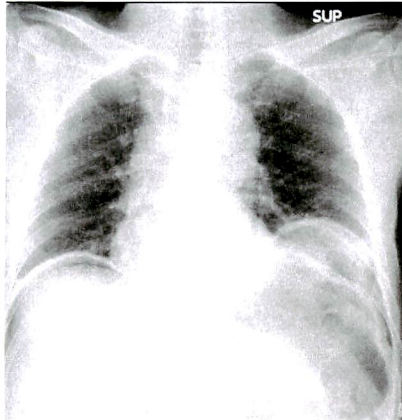
身長150cm、体重40kg。意識は清明、体温36.5℃、呼吸20回/分、血圧120/80 mmHg、脈拍80/分、整。経皮酸素飽和度は94%（室内気）。眼瞼結膜に貧血はない。胸鎖乳突筋が発達しており、安静吸気時に肋間および鎖骨上窩が陥凹する。甲状軟骨と胸骨切痕との間の距離は2cmである。頸静脈圧および波形に異常はない。呼吸音は減弱している。心雑音と過剰心音を認めない。下腿浮腫はない。

この患者のスパイロメトリーの結果として予想されるのはどれか。

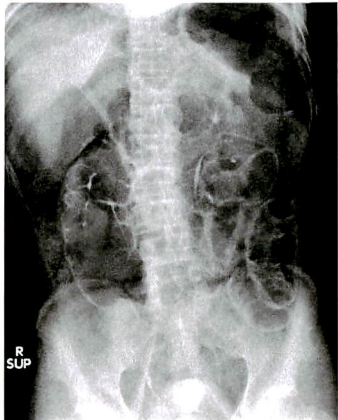
- a FEV1.0 3,000ml、FVC 3,500ml
- b FEV1.0 2,000ml、FVC 3,000ml
- c FEV1.0 1,500ml、FVC 2,500ml
- d FEV1.0 800ml、FVC 2,000ml
- e FEV1.0 400ml、FVC 500ml

次の文を読み、4～5の問いに答えよ。

56歳の男性。日頃より肩関節痛に対し、頻回にNSAIDsを内服していた。夕食後に突然の腹痛を自覚し、救急車にて来院した。来院時、脈拍は110/分、血圧は140/70mmHg、体温は37.3℃であった。腹部には全体的に圧痛、反跳痛、筋性防御が認められた。来院時に行った胸部エックス線写真、腹部エックス線写真を示す。



胸部エックス線写真



腹部エックス線写真

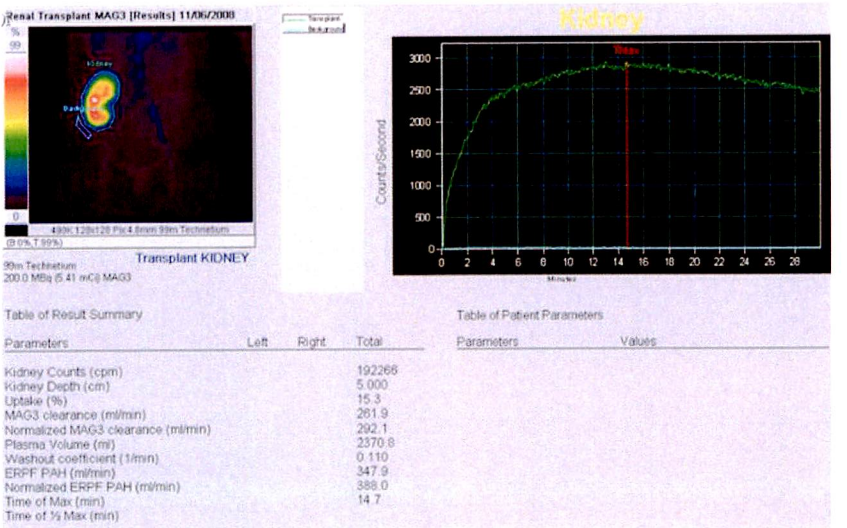
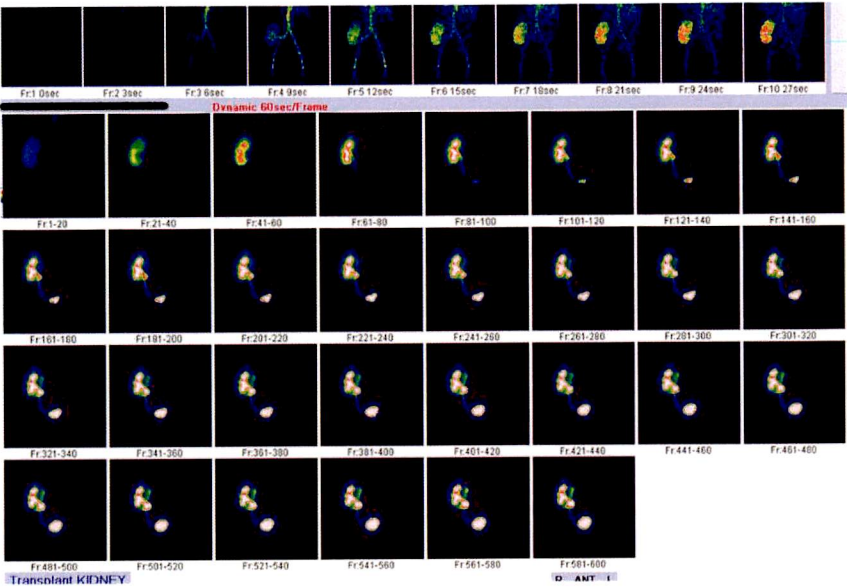
4 他に行う検査として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 腹部CT
- b 腹部超音波
- c 胃洗浄液検査
- d 超音波内視鏡
- e 腹部血管造影

5 適切でない治療はどれか。

- a 禁食
- b 開腹手術
- c 抗菌薬投与
- d プロトンポンプ阻害薬投与
- e 経カテーテル的動脈塞栓術

6 35歳の女性。慢性腎炎より、末期腎不全となり、2年前に血液透析に導入。プレドニゾロン、シクロスポリン、ミコフェノール酸モフェチルにより免疫導入し、母の左腎を生体腎移植施行した。血圧は135/85 mmHg、尿素窒素は20mg/dl、クレアチニン値は2.7 mg/dl。腎移植術後1日目の腎核医学検査を示す。



正しいのを選び。

- a 移植腎の血流は良好だが移植腎の腎盂が拡張し、尿管狭窄が疑われる。
- b 移植腎の血流は低下しており、急性抗体関連型拒絶反応が疑われる。
- c 移植腎の血流は低下し、急性細胞性拒絶反応が疑われる。
- d 移植腎の血流は低下し、一部に腎梗塞が疑われる。
- e 移植腎の血流は良好で、腎機能も正常である。

7 67歳の男性。主訴：胸痛と嘔吐。

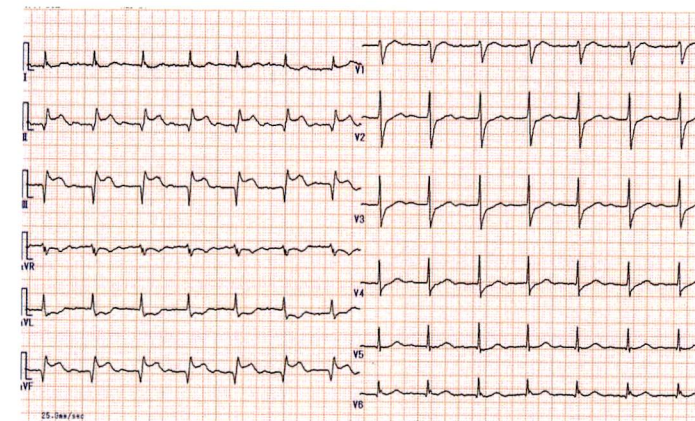
現病歴：1週間前より、重いものを持つと胸部圧迫感があったが、休むと数分で改善するために放置していた。昨日より、胸部圧迫症状が頻回になっていた。本日、農作業中に激しい前胸部痛と嘔吐が数時間持続するために受診した。

既往歴：5年前より、近医にて高血圧、脂質代謝異常の治療を受けている。

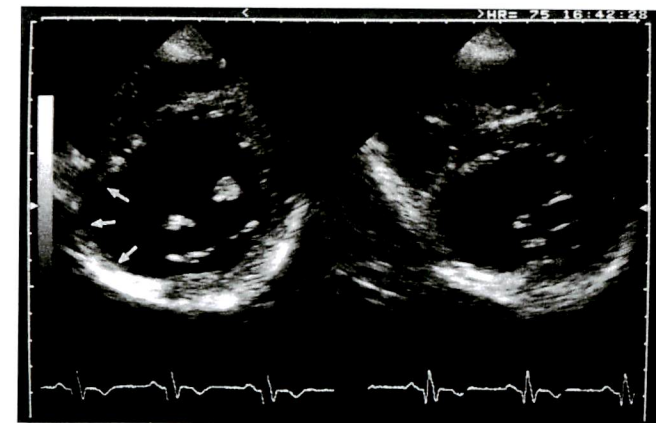
現 症：身長160cm、体重80kg、血圧100/56 mmHg、脈拍数62/分、整、体温36.2℃、呼吸数24/分、冷汗を伴い、四肢は冷たい。心雑音はなく、肺野は清である。腹部は平坦で、肝脾は触知しない。下肢に浮腫はなし。

血液検査所見：白血球10,000、Hb13.4g/dl、血小板20万、クレアチニン1.2mg/dl、AST88 IU/l、ALT24 IU/l、CK540 IU/l、CK-MB68 IU/l（基準25 IU/l未満）

外来処置室で行った心電図および心エコー検査を以下に示す。



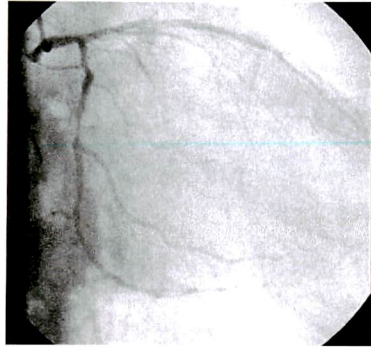
心電図



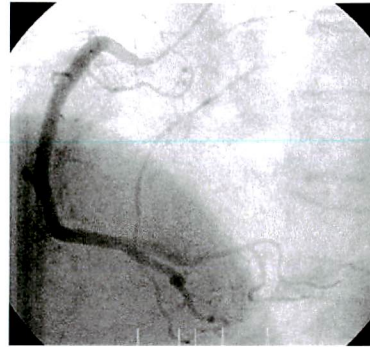
心エコー図

その後に、冠動脈造影を行った。この症例に一致する冠動脈造影を選ぶ。

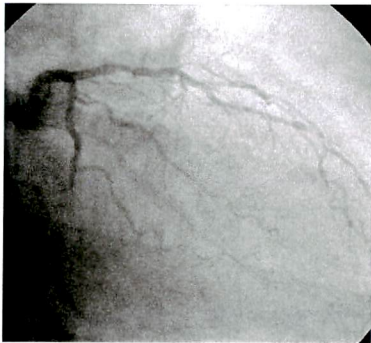
a 冠動脈造影a



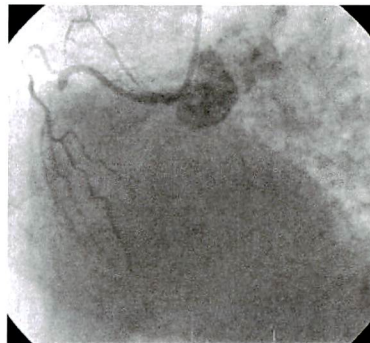
b 冠動脈造影b



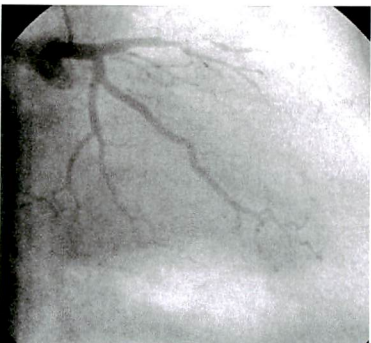
c 冠動脈造影c



d 冠動脈造影d



e 冠動脈造影e



8 22歳の女性。交際相手と頻繁にけんかをし、暴力行為をしたり、物を壊すことが多いという。他人からどう見られるかに対し敏感で、少しでも自分を批判されたと感じると激怒するため高校時代から友達とトラブルになることが度々であった。「子供の頃からいつも空しいと感じている」と言い、抑うつ感や希死念慮を訴えることもしばしばあった。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 薬物療法が有効である。
- b 身体疾患が基礎に存在する。
- c 幻覚妄想を認めることが多い。
- d 発達史と生活歴の聴取は診断上重要である。
- e 治療構造の設定と治療契約の締結が重要である。

9 72歳の女性。CPAで救命救急センターに運ばれた。意思表示カードを所持していた。意思表示カードの内容を示す。

年齢に関係なく採取可能な臓器・組織はどれか。2つ選べ。

- a 眼 球
- b 皮 膚
- c 骨
- d 肺
- e 心 臓



「該当する1.2.3.の番号を○で囲んだ上で提供したい臓器を○で囲んで下さい」

① 私は、脳死の判定に従い、脳死後、移植のために○で囲んだ臓器を提供します。(※をつけた臓器は提供しません)
心臓・肺・肝臓・腎臓・脾臓・小腸・眼球・その他(すべて)

② 私は、心臓が停止した死後、移植のために○で囲んだ臓器を提供します。(※をつけた臓器は提供しません)
腎臓・脾臓・眼球・その他(すべて)

③ 私は、臓器を提供しません。

署名年月日: _____

本人署名(自筆): _____

家族署名(自筆): _____

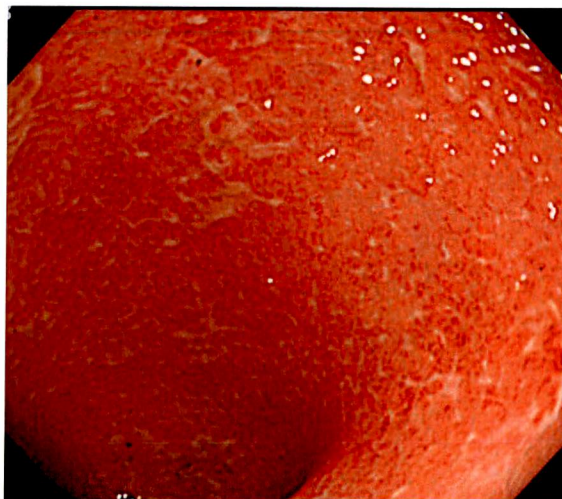
(可能であれば、この意思表示カードをもっていることを知っている家族が、そのことの確認のために署名して下さい。)

意思表示カードの内容

- 10 26歳の女性。3か月前から血便を自覚していた。最近下痢傾向となり、排便時の腹痛も伴うようになり来院した。身体所見では身長168cm、体重 58kg、体温37.3℃。眼瞼結膜に軽度の貧血と左下腹部に圧痛を認めた。血液所見：赤血球数350万、Hb 9.5 g/dℓ、白血球数12,200。血清生化学所見：総蛋白 6.3 g/dℓ、総コレステロール 150mg/dℓ、CRP 1.6mg/dℓ。直腸の内視鏡写真を示す。

適切な診断はどれか。

- a 大腸癌
- b 偽膜性腸炎
- c 大腸ポリープ
- d 潰瘍性大腸炎
- e 過敏性腸症候群



直腸の内視鏡写真

次の文を読み、11～12の問いに答えよ。

30歳の男性。意識障害を主訴に搬送された。

現病歴：歩行中オートバイにはねられて転倒し、左側頭部を強打した。外傷後約15分間は応答があったが、次第に意識障害が悪化した。

既往歴：特記すべきことはない。

現 症：意識 JCS III-100。瞳孔不同（右<左）あり。右片麻痺を認めた。

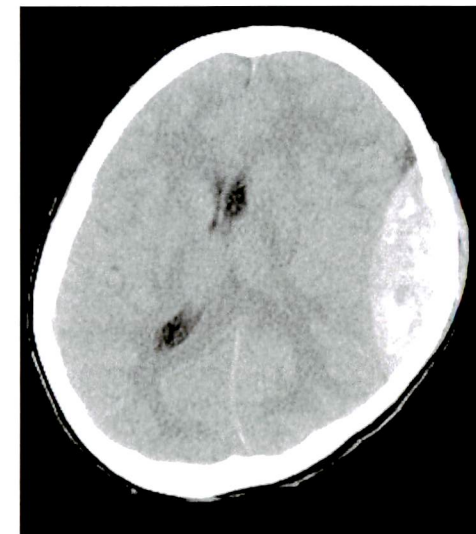
来院時頭部CT写真を示す。

- 11 出血の原因はどれか。

- a 脳表動脈
- b 脳表静脈
- c 内頸動脈
- d 中硬膜動脈
- e 中大脳動脈

- 12 治療として適切なのはどれか。

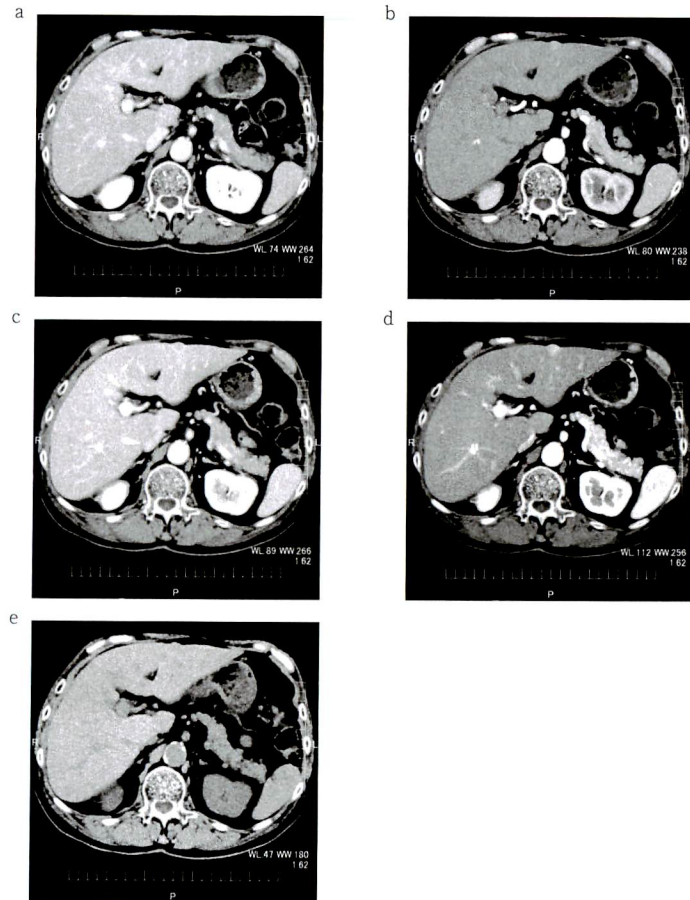
- a 開頭血腫除去術
- b 穿頭術
- c 経過観察
- d 副腎皮質ステロイド投与
- e 血管内塞栓術



来院時頭部CT写真

13 60歳の男性。C型肝炎ウイルス陽性で、近医にて経過観察をされていた。腹部造影CTで肝腫瘍を指摘され、治療のため当院に紹介された。患者が持参した造影CTのフィルムは順番がばらばらであった。腫瘍が撮影されている画像を示す。

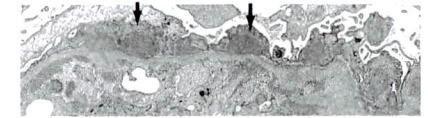
撮影した順番に並べ替えた時、3番目になるのはどれか。



14 65歳の男性。浮腫を主訴に来院した。3か月程前より両下肢のむくみが出現し悪化してきた。来院時、血圧140/90mmHg、脈拍70分、眼瞼浮腫あり、肺野清、心雑音なし、両下腿に浮腫あり。検査所見：尿所見：蛋白（4+）、蛋白定量4.2g/日、潜血（+）、血清生化学所見：アルブミン 2.0g/dl、クレアチニン0.9mg/dl。腎生検電子顕微鏡標本を示す。

矢印に示す高電子密度沈着物の局在部位はどこか。

- a 糸球体基底膜上皮下
- b 糸球体基底膜内皮下
- c 内皮細胞質内
- d 傍メサンギウム領域
- e メサンギウム領域

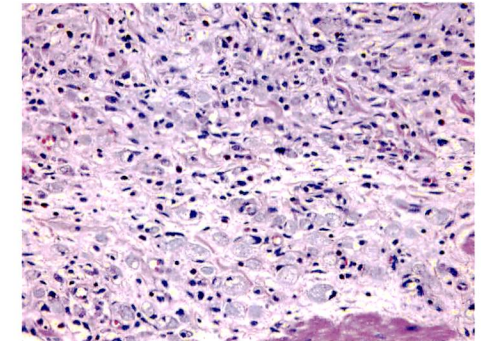


腎生検電子顕微鏡標本

15 30歳の女性。胃部不快感と体重減少を主訴に来院。胃生検の組織像を示す。

診断はどれか。

- a 急性胃炎
- b 再生胃粘膜
- c 腸上皮化生
- d 胃腺腫
- e 印環細胞癌



胃生検の組織像

16 学校伝染病の出席停止期間の基準で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 百日咳：治癒するまで。
- b 麻疹：発疹が消失するまで。
- c 風疹：発疹が消失するまで。
- d 細菌性赤痢：治癒するまで。
- e 腸管出血性大腸菌感染症：治癒するまで。

17 Glenn手術について正しいのはどれか。

- a 新生児期に行われる。
- b ファロー四徴症に対する根治手術である。
- c 術後、上大静脈圧は下大静脈圧より高くなる。
- d 術後、肺血流量は減少する。
- e 術後、チアノーゼは消失する。

18 78歳の男性。食事の際にむせる、痰がよくでるとのことで受診した。顔面は表情乏しく、前傾姿勢で小刻みに歩く。

一般理学所見では体温37.5℃、右下肺野に軽度の水疱性ラ音聴取。神経診察では口蓋垂の偏位はないが挙上不十分、咽頭反射は両側陽性、舌の偏位はなかった。マイアースン徴候陽性、四肢筋固縮あり、振戦なし。深部腱反射は全体的に亢進しているが明らかな病的反射は認めない。明らかな協調運動障害は認めなかった。頭部MRI画像では基底核を含む大脳全体に多発性脳梗塞が認められた。

この症例の嚥下障害につき正しいのはどれか。

- a 原因は（真性）球麻痺である。
- b 多発性脳梗塞は無関係である。
- c 原因はジストニアである。
- d 誤嚥性肺炎をおこしている。
- e 食事は通常のとおりの摂取してかまわない。

19 63歳の男性。膜性腎症のため10年前よりプレドニゾロンを内服していた。

30日前の午後2時、家人が帰宅した際、倒れているところを発見され某病院へ搬送された。

神経学的には、意識レベルJCSⅡ-10と右片麻痺を認めた。頭部CTで左被殻出血と診断され緊急入院となった。

保存的治療後、本日当院へリハビリテーション目的で転院した。

転院時の神経学的所見として、ウェルニッケ失語、軽度の右片麻痺、重度の表在・深部感覚障害を認めた。

この症例で必要性の低い訓練は次のどれか。

- a 起居動作
- b 歩行
- c 発声訓練
- d 両手の動作
- e 言語理解

次の文を読み20～22の問いに答えよ。

45歳の男性。3か月前より左頸部腫瘍および盗汗を自覚するようになり、同部位の生検にて、びまん性大型B細胞性リンパ腫と診断された。

胃内視鏡は異常なかったが、骨髄生検は浸潤ありと診断された。

全身CTおよびFDG-PETでは、左頸部にリンパ節数個の腫脹と同部位へのFDGの取り込みを認めたが、他に異常は認めなかった。

R-CHOP療法を施行する事になった。

20 R-CHOP療法で使用する薬剤で、色のついた薬はどれか。

- a リツキシマブ（リツキサン®）
- b プレドニゾロン（プレドニン®）
- c オンコビン（ビンクリスチン®）
- d ドキソルビシン（アドリアマイシン®）
- e シクロフォスファミド（エンドキサン®）

21 CHOP療法の点滴中に、患者が穿刺部位の痛みを訴えてきたので、薬剤漏れの可能性を考えた。

正しい対応はどれか。2つ選べ。

- a 直ちに皮膚科医師に処置の依頼をする。
- b 直ちに点滴を中止し、血液を5mlほど吸引後抜針する。
- c 直ちに点滴の速度を落として、予定の点滴を終了させる。
- d 薬剤漏れと思われる部位に、ステロイド液を小分けにして皮下注する。
- e CHOP療法の抗がん薬は、血管障害性はないので、鎮痛薬を処方し経過観察する。

22 診断と治療に関して、誤っているのはどれか。

- a 病期は、Stage IVBである。
- b G-CSF投与は、骨髄抑制からの好中球の回復を早める。
- c CD45弱陽性分画でCD19、CD20陽性細胞の増加を認める。
- d 加療後の白血球減少時のリンパ球数は、正常範囲である。
- e リツキシマブ投与前に、解熱剤と抗ヒスタミン剤を服用する。

23 24歳の女性。生来健康。咳嗽と発熱を主訴に来院した。5日前から咳嗽があり、昨夜から悪寒戦慄を伴う発熱、黄褐色の膿性痰と右胸痛を認めている。

体温38.2℃、呼吸数24/分。血圧110/72mmHg。脈拍110/分、整。空気吸入下SpO₂ 97%。右前胸部でcoarse cracklesを聴取する。

白血球15,400（桿状核好中球13%、分葉核好中球77%、好酸球0%、単球3%、リンパ球7%）、CRP 16.2mg/dℓ。

胸部エックス線写真で右上中肺野に気管支透亮像を伴う浸潤影を認める。

病因微生物診断に有用な検体はどれか。2つ選べ。

- a 尿
- b 血清
- c 喀痰
- d 鼻腔吸引液
- e 咽頭拭い液

24 31歳の女性。数年前から手指にしもやけ様の紅斑が出現し近医で外用薬を処方されていた。その後結婚し、第1子を妊娠した。妊娠20週ごろから脱毛および両側頬部紅斑が見られるようになり、次第に顔面と下腿の浮腫が増悪した。検査では尿タンパク3+、尿潜血2+、白血球数3,000/ μ ℓ、赤血球数330万/ μ ℓ、血小板数5.5万/ μ ℓ、血清総タンパク5.4 g/dℓ、血清アルブミン2.1g/dℓ、血清クレアチニン値1.2mg/dℓ、抗核抗体640倍（辺縁型）（基準40倍未満）であり、内科に紹介受診した。

この患者に見られる抗体はどれか。

- a 抗Jo-1抗体
- b 抗DNA抗体
- c 抗Scl-70抗体
- d 抗糸球体基底膜抗体
- e 抗好中球細胞質抗体

25 米飯はこの本のどこに分類されているか。

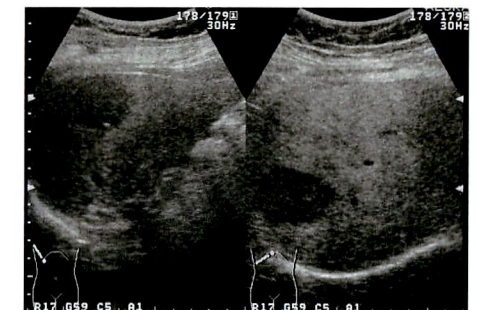
- a 表1
- b 表2
- c 表3
- d 表4
- e 表5



26 62歳の女性。3年前に右の乳癌に対し胸筋温存乳房切除術を施行した。術後病理診断は、浸潤性乳管癌で腫瘍径3.2cmであった。核グレード3、エストロゲン受容体陽性、プロゲステロン受容体陽性、ハーセプチン陽性であった。腋窩リンパ節23個中4個に転移を認めた。術後の補助療法は行っていない。初潮12歳、閉経50歳、妊娠経験3回、出産3回である。家族歴・既往歴に特記すべきものはない。外来での経過観察中に腫瘍マーカーの上昇を認めた。CEA 10.2 ng/ml（正常値5.0 ng/ml以下）。腹部超音波検査写真を示す。

治療として正しいのはどれか。

- a 経過観察
- b 肝切除術
- c ラジオ波焼灼術
- d インターフェロン
- e アロマターゼ阻害薬



腹部超音波検査写真

- 27 生後5日の女児。肉眼的黄疸のため精査を行い、写真に示す治療を開始した。



この治療において正しい記載はどれか。

- a 副作用として貧血が挙げられる。
 - b 交換輸血で効果のなかった症例に行なう。
 - c 生後日数により治療開始の基準値が異なる。
 - d 直接クームテストが陰性の時は無効である。
 - e 直接ビリルビンが上昇したときに有用である。
- 28 生後10日の新生児。在胎30週、出生体重1,400gにて出生した。出生直後より呼吸障害があり、人工呼吸管理を必要とした。日齢3より母乳を開始し、時間経過とともに母乳投与量を増やしていった。日齢8、母の乳汁分泌が不良のために、人工乳に切り替えた。2日後から、胆汁様の嘔吐を繰り返すようになり、腹部膨満が著明となり腹壁が青みがついてきた。活気不良、無呼吸発作を繰り返したため、血液検査、腹部エックス線撮影を行った。白血球 $15,000/\text{mm}^3$ 、CRP 8.0mg/dl と上昇していた。全身写真を示す。



全身写真

この疾患の説明で不適切なのはどれか。

- a 人工栄養より母乳栄養の方が発症が少ない。
- b 在胎30週、出生体重1,500 g未満の未熟児に多い。
- c 腸管の未熟性に加え、低酸素血症が発症に関与している。
- d 急激に増悪化し、腸穿孔、腹膜炎、DICを併発することが多い。
- e 早期発見には造影剤による透視レントゲン撮影が必要である。

- 29 62歳の男性。約20年前から会社健診で高血圧を指摘されていたが、放置していた。最近、一過性の視野障害やめまいを生じるようになり来院した。

まず行うべき検査はどれか。

- a 脳波
- b 脳血管造影検査
- c 頸動脈超音波検査
- d 心臓超音波検査
- e 末梢血管脈波検査 (ABPI/PWV)

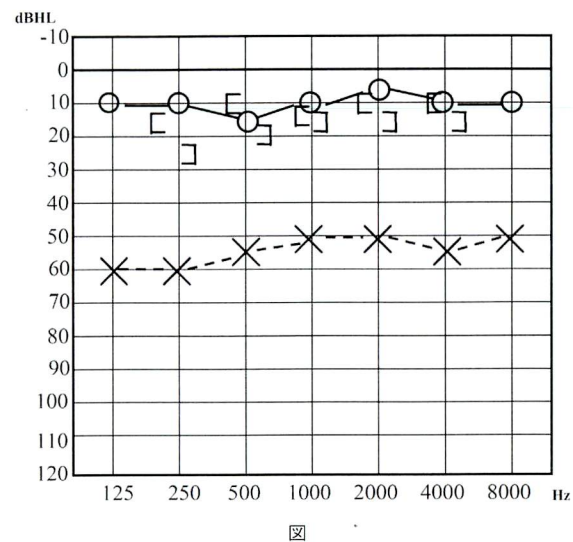
- 30 38歳の男性。15歳頃より胸部・顔面にニキビが多発した。20歳過ぎに炎症は落ち着いたが、ニキビ跡が盛り上がってきた。軽度の掻痒感と疼痛を認めている。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 部分切除生検を行う。
- b 軽微な外傷では発生しない。
- c 外傷の範囲を越えて拡大しない。
- d 肩甲部は好発部位である。
- e 治療は外科的切除を行う。



- 31 25歳の女性。幼少児期より左耳の難聴を自覚していたが、放置していた。純音聴力検査の結果を示す。



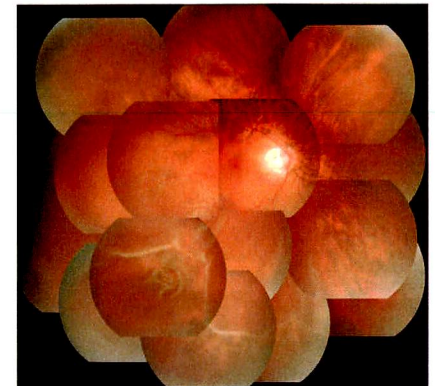
診断に最も有用と思われる検査はどれか。

- a インピーダンスオージオメトリ
- b Bekesy自記オージオメトリ
- c ABR (auditory brainstem response)
- d SISI (short increment sensitivity index)
- e ABLB (alternate binaural loudness balance test)

- 32 56歳の男性。視野異常を主訴に来院した。3週間より右眼の飛蚊症と光視症を自覚している。矯正視力は、右眼 (0.08)、左眼 (1.2) であった。右眼の眼底写真を示す。

適切な治療法はどれか。

- a 網膜光凝固術
- b 光線力学療法
- c ステロイド薬点滴治療
- d マンニトール薬点滴治療
- e 強膜バックリング (内陥) 術



右眼の眼底写真

- 33 52歳の男性。全身の紅斑と水疱を主訴に来院した。1週間前からの感冒症状のためペニシリン系抗菌薬を処方された。その後、熱はさらに高くなり皮膚に紅斑と水疱が出現した。写真を示す。



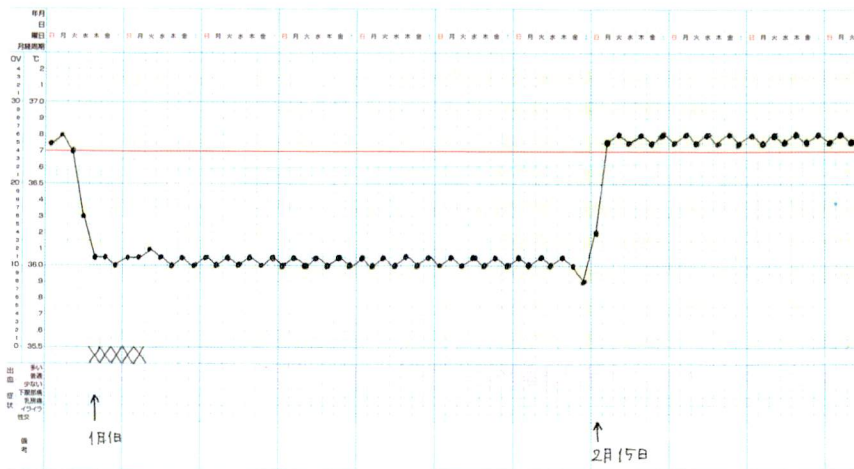
正しいのはどれか。

- a Nikolsky現象が陽性である。
- b 第1度熱傷に準じた局所療法を行う。
- c 皮膚以外の臓器障害は軽微である。
- d 感染予防に他のペニシリン系抗菌薬を投与する。
- e 副腎皮質ステロイド薬の全身投与は禁忌である。

34 合併症のない患者が全身麻酔下に小手術を行う際、標準的モニターとして不適切なのはどれか。

- a 心電図
- b 呼気CO₂濃度
- c 中心静脈圧
- d 血 圧
- e 酸素飽和度

1 妊娠成立周期の基礎体温を示す。



基礎体温

分娩予定日はどれか。

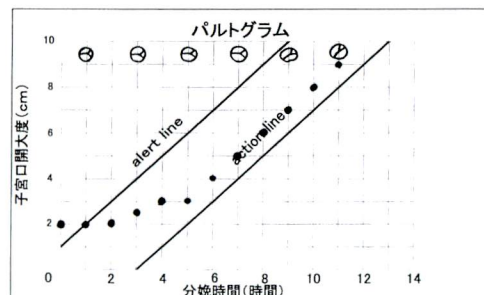
- a 10月8日
- b 10月22日
- c 11月8日
- d 11月22日
- e 12月8日

2 25歳の初産婦。妊娠経過に異常は認めなかった。妊娠39週4日に性器出血と、10分周期の子宮収縮があり入院となる。

入院後2時間で自然破水した。陣痛周期、持続時間は正常で胎児心拍数には異常は認めない。現在内診所見は、頭位で、先進部は小泉門で母体右前方に位置している。stationは+2である。入院からのバルトグラムをしめす。

正しいのはどれか。

- a 前期破水である。
- b 矢状縫合は第二斜径に一致する。
- c 児は第一胎向である。
- d 第二回旋の異常である。
- e 児頭骨盤不均衡である。



3 35歳の男性。数週間前からの倦怠感と盗汗とを主訴に外来を受診した。健康診断は受けていない。渡航歴はない。

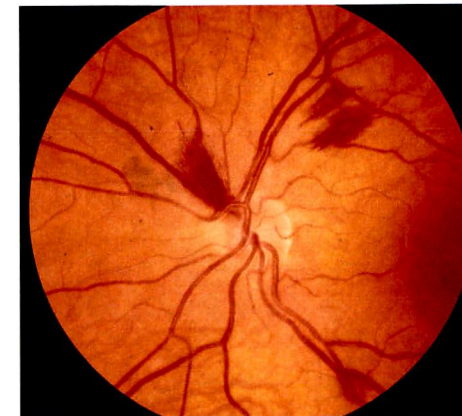
身体診察で、体温 37.8℃、呼吸 20回/分、血圧 120/50mmHg、脈拍 100/分、整。頸静脈圧および波形に異常はない。心尖部に拡張早期雑音を聴取する。指爪、足底、眼底の所見を示す。



指爪の所見



足底の所見



眼底の所見

診断の確定に必須の検査はどれか。2つ選べ。

- a 心電図
- b 血液培養
- c 心臓超音波
- d 頭部MRI検査
- e 胸部造影CT検査

次の文を読み、4～5の問いに答えよ。

60歳の男性。歩行中にバイクにはねられ受傷、高エネルギー外傷ということで搬入された。プライマリーサーベいで気道は開通、発語あり、致死性の胸部外傷なし、循環動態は安定、意識も清明であった。既往歴に特記すべきこと無し。身長160cm、体重70kg。セカンダリーサーベいで右大腿部の変形、腫脹を認めており、激痛を訴えた。末梢の神経、運動には問題なかった。血液所見：白血球9,600、赤血球450万、ヘモグロビン13.5 g/dℓ、血小板25万、総蛋白 7 g/dℓ、BUN 16 mg/dℓ、クレアチニン1.0 mg/dℓ、AST 28、ALT 22、Na 140 mEq/ℓ、K 4.0 mEq/dℓ、CL 100 mEq/ℓ、動脈ガス分析（10ℓリザーバーマスク）PH 7.40、PaO₂ 340 Torr、PaCO₂ 40 Torr、BE 1.2mEq/ℓであった。

レントゲン写真では大腿骨骨幹部骨折を認め、牽引後、3日目に髓内釘の手術を行った。疼痛が強く術後2日目までベット上安静となった。3日目に車椅子移動させたところ急に呼吸困難を訴えた。130/minの頻脈、末梢の冷汗、湿潤があり、意識低下も認めた。

4 適切な検査はどれか。2つ選べ。

- a 心エコー
- b 呼吸機能検査
- c 胸部造影CT
- d 胸部単純MRI
- e 胸部エックス線断層撮影

5 治療に必要な薬剤はどれか。

- a 抗菌薬
- b ヘパリン
- c ステロイド薬
- d キサンチン系薬
- e 吸入β受容体刺激薬

6 65歳の男性。排尿障害を主訴に来院した。国際前立腺症状スコアでは表のような結果であった。身体診察では腹部平坦、軟。腎、肝、脾を触知しない。外陰部は正常で、直腸指診で前立腺は鶏卵大で硬結はない。尿沈渣には異常を認めない。排尿後、超音波断層検査で膀胱内に約30mlの残尿を認める。

血清PSAは3.5 ng/ml（基準値 4 ng/ml以下）である。

国際前立腺症状スコア(I-PSS)

	まったく なし	5回に1回の 割合未満	2回に1回の 割合未満	2回に1回の 割合	2回に1回の 割合以上	ほとんど 常に
1. 最近1ヶ月間、排尿後に尿がまだ残っている感じがありましたか。	0	1	2	3	④	5
2. 最近1ヶ月間、排尿後2時間以内にもう1度いかなばならないことがありましたか。	0	1	②	3	4	5
3. 最近1ヶ月間、排尿途中に尿が途切れることがありましたか。	0	1	2	3	④	5
4. 最近1ヶ月間、排尿を我慢するのがつらいことがありましたか。	0	1	2	3	④	5
5. 最近1ヶ月間、尿の勢いが弱いことがありましたか。	0	1	2	③	4	5
6. 最近1ヶ月間、排尿開始時にいきむ必要がありましたか。	0	1	2	③	4	5
7. 最近1ヶ月間、床に就いてから朝起きるまでに普通何回排尿に起きましたか。	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
	0	1	②	3	4	5
1から7の点合計		22 点				

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 異常なしとして帰す。
- b 前立腺針生検を行う。
- c 経尿道的前立腺切除術を行う。
- d αアドレナリン遮断薬を処方する。
- e 残尿に対し尿道カテーテルを留置する。

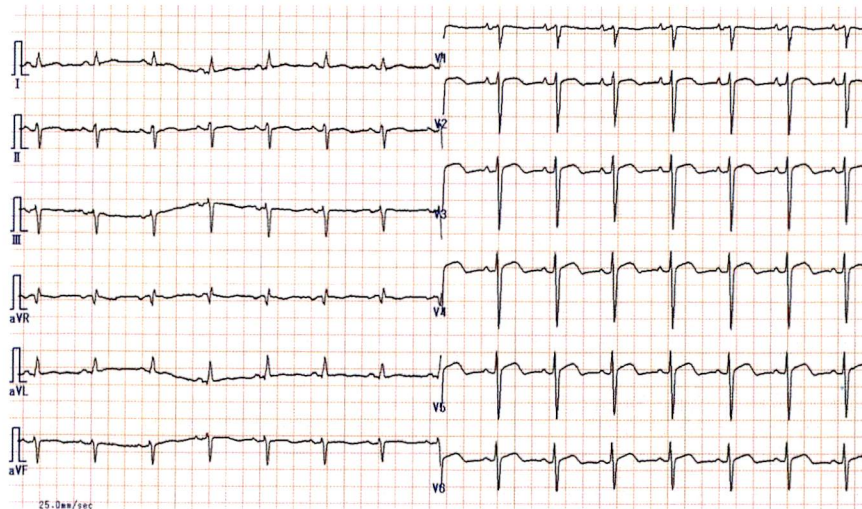
7 36歳の女性。交通外傷による脊髄損傷のため1か月前から歩行不能であった。本日、起床時に突然、胸痛と呼吸困難を自覚した。体温 37.2℃、呼吸数28/分、脈拍数100/分整、血圧90/72 mmHg、II音の亢進を認める。動脈血液ガス分析 (room air) : PH 7.47、PaO₂ 50 torr、PaCO₂ 33 torr。心電図および胸部造影CTを以下に示す。

考えられるのはどれか。

- a 急性大動脈解離
- b 肺動脈血栓塞栓症
- c 急性心筋梗塞
- d 自然気胸
- e 無気肺



胸部造影CT



心電図

8 19歳の男性。大学に入学し、実家を出てアパートに一人住まいを始めたが、半年後から登校しなくなった。心配した両親が様子を見に行くとカーテンを締め切り、外に出るのが怖いと引きこもった生活をしていた。理由を聞いても時々やにやと笑うなど話がかみ合わない。友人には「半年前から世の中が急に変わってしまった」と話していたという。

この症例で誤っているのはどれか。

- a 生涯罹率は約1%である。
- b 環境の変化が原因で症状が現れることが多い。
- c 家族、本人への疾病教育は治療上重要である。
- d 治療を行い症状が消退しても服薬は続けた方がよい。
- e 意欲低下や感情の平板化といった症状が認められる。

9 65歳の男性。50歳時にC型慢性肝炎と診断されたがその後通院していなかった。今回、下腿筋攣縮(つり)を主訴に来院。身体所見では黄疸はなく、心窩部に辺縁鈍の硬い肝を5 cm触知し脾腫が認められた。上部内視鏡検査(食道)を示す。

この患者で予想される検査所見はどれか。

- a γ-グロブリン低値
- b 血小板高値
- c 肝静脈楔入圧低値
- d アルブミン低値
- e 腹部超音波検査でblight liver



上部内視鏡検査所見

次の文を読み、10～11の問に答えよ。

56歳の男性。10年来の高血圧症にて血圧降下薬を服用していた。また約30年の喫煙歴あり。会社で会議中に突然気分不良と頭痛を訴え、意識障害に陥ったため救急車にて病院へ搬送された。病院到着時の意識レベルはJCSⅢ-200、血圧190/95mmHg、脈拍55/分、呼吸は1分間に20回であった。CT画像（単純）を示す。

10 疾患の原因として考えられるのはどれか。

- a 脳梗塞
- b 脳動脈瘤
- c 硬膜動静脈奇形
- d 静脈洞血栓症
- e 脳動静脈奇形

11 検査として行うべきでないのはどれか。

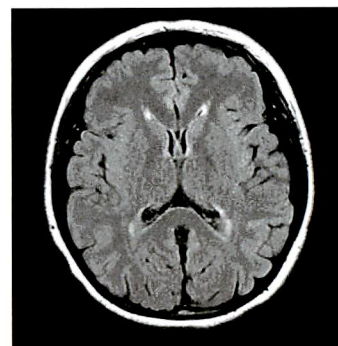
- a 脳血管撮影検査
- b 腰椎穿刺髄液検査
- c 脳血流検査
- d CT-Angiography
- e 脳波検査



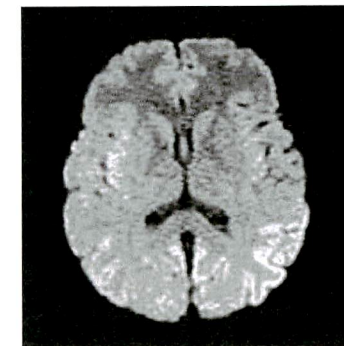
CT画像（単純）

12 頭部MRI像を示す。撮像法の組み合わせで正しいのはどれか。

- a 1：T1強調画像 2：T2強調画像 3：FLAIR画像 4：DWI（拡散強調画像）
- b 1：T1強調画像 2：T2強調画像 3：DWI（拡散強調画像） 4：FLAIR画像
- c 1：FLAIR画像 2：DWI（拡散強調画像） 3：T2強調画像 4：T1強調画像
- d 1：DWI（拡散強調画像） 2：FLAIR画像 3：T1強調画像 4：T2強調画像
- e 1：T2強調画像 2：T1強調画像 3：DWI（拡散強調画像） 4：FLAIR画像



1



2



3



4

13 58歳の男性。15年前にIgA腎炎と診断された。健康診断では、血尿と蛋白尿を毎年指摘されたが放置した。2か月前から浮腫と頭痛が出現している。労作時の息切れのために来院した。血圧172/106mmHg。心濁音界：左側は鎖骨中線1横指外側。尿所見：潜血(3+)、蛋白(2+)。血液所見：Hb 7.2g/dl。血清生化学所見：アルブミン3.6g/dl、クレアチニン8.2mg/dl、カリウム6.8mEq/l、カルシウム7.6mg/dl。

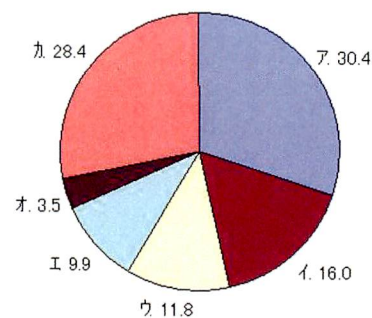
認められるのはどれか。

- a 血清リン低値
- b 血清アルカリフォスファターゼ高値
- c 代謝性アルカローシス
- d 大球性貧血
- e 腎臓超音波正常

14 誤っている組み合わせはどれか。

- a 卵巣甲状腺腫-----サイロキシン
- b 未分化胚細胞腫-----アルファ-フェトプロテイン
- c 絨毛癌-----hCG
- d 顆粒膜細胞腫-----エストロゲン
- e セルトリ・ライディク細胞腫-----アンドロゲン

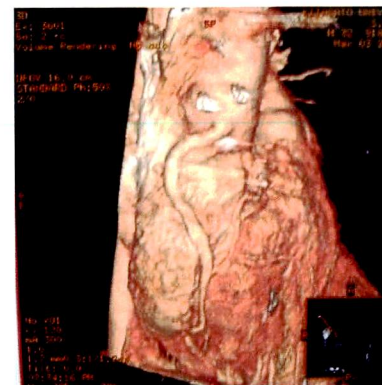
15 下記のグラフは平成18年度の日本人の死因順位を割合で示したものである。



正しい組み合わせはどれか。

- | | | | | | |
|-----------|-------|---------|---------|---------|---------|
| a ア、心疾患 | イ、肺炎 | ウ、不慮の事故 | エ、悪性新生物 | オ、その他 | カ、脳血管疾患 |
| b ア、心疾患 | イ、自殺 | ウ、不慮の事故 | エ、悪性新生物 | オ、その他 | カ、肺炎 |
| c ア、悪性新生物 | イ、肺炎 | ウ、脳血管疾患 | エ、心疾患 | オ、その他 | カ、自殺 |
| d ア、悪性新生物 | イ、心疾患 | ウ、脳血管疾患 | エ、肺炎 | オ、不慮の事故 | カ、その他 |
| e ア、悪性新生物 | イ、心疾患 | ウ、脳血管疾患 | エ、自殺 | オ、不慮の事故 | カ、その他 |

16 27歳の男性。川崎病冠動脈後遺症により7歳時に左心室瘤切除術と冠動脈バイパス手術(1枝バイパス)を受けている。MDCTを示す。



MDCT

冠動脈バイパス術において使用されたグラフトと吻合された冠動脈の正しい組み合わせはどれか。

- a 内胸動脈グラフト-----左冠動脈前下行枝
- b 大伏在静脈グラフト-----左冠動脈前下行枝
- c 大伏在静脈グラフト-----左冠動脈回旋枝
- d 内胸動脈グラフト-----右冠動脈
- e 大伏在静脈グラフト-----右冠動脈

17 ALS患者のベッドサイド写真を示す。写真の中に見られない物品、装置はどれか。

- a 人工呼吸器
- b 吸引器ボックス
- c 酸素吸入装置
- d 心電図モニター
- e パルスオキシメーター (sPo2モニター)



ALS患者のベッドサイド写真

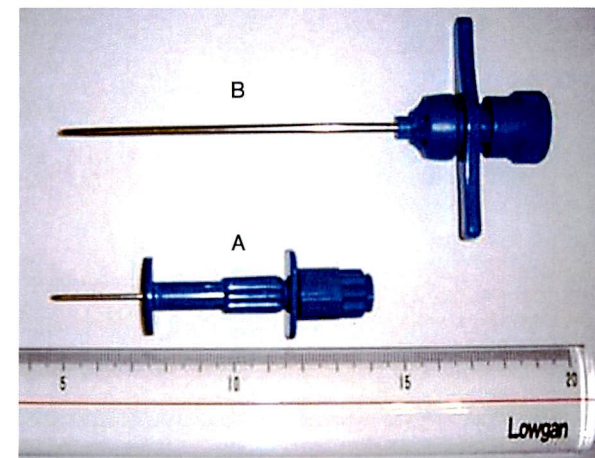
18 36歳の女性。1週間前より感冒症状が出現し、3日前より頭痛、嘔吐を繰り返すようになった。
診察時体温38℃、一般理学所見に異常なく、神経診察で項部硬直を認め腰椎穿刺検査を行うことになった。

腰椎穿刺検査につき正しいのはどれか。

- a 通常第1、2腰椎間で行う。
- b 頸静脈を圧迫すると髄液圧は上昇する。
- c 合併症として検査直後のけん引性頭痛がある。
- d うっ血乳頭があっても問題なく施行できる。
- e 穿刺部に感染巣がある場合は抗菌薬投与下に行う。

19 骨髓検査は、図の2つの器具を使い分ける。誤っているのはどれか。

- a Aは骨髓穿刺用、Bは骨髓生検用である。
- b Aは骨髓穿刺用であるが、Bも骨髓穿刺用として用いることができる。
- c Aは、胸骨用であり、腸骨では用いることはできない。
- d Bは、骨髓移植ドナーからの骨髓液採取にも用いられている。
- e A、Bともに腸骨を穿刺部位とすることができる。



20 急性骨髄性白血病のFAB分類を行うときに用いられる特殊染色はどれか。2つ選べ。

- a 鉄染色
- b PAS染色
- c ミエロペルオキシダーゼ染色
- d ナフトール・ブチレート染色
- e アルカリフォスファターゼ染色

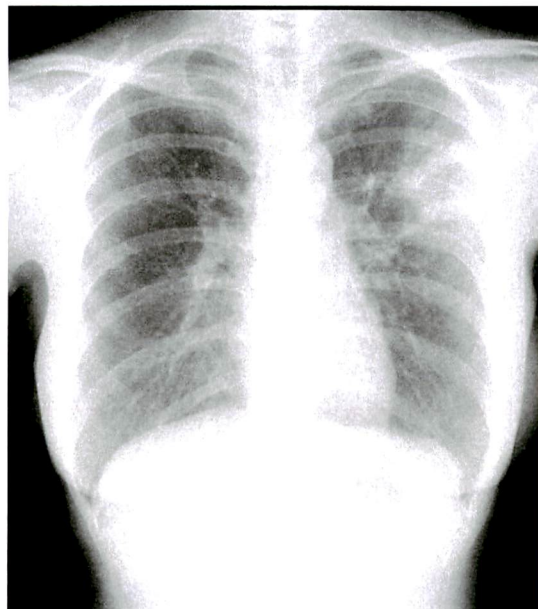
21 23歳の女性。職場の健診にて胸部異常陰影を指摘され来院した。2 か月前から咳嗽、喀痰を自覚している。

胸部エックス線写真を示す。

喀痰塗抹検査の結果を陰圧換気の個室で待つことになった。

患者さんに着用させるべきなのはどれか。

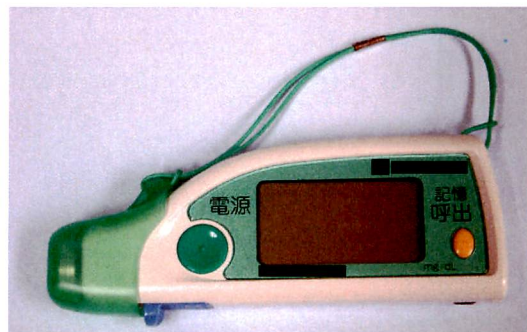
- a N95マスク
- b 衛生マスク
- c サージカルマスク
- d リザーバーマスク
- e ベンチュリーマスク



胸部エックス線写真

22 この機器の用途について適切なのはどれか。

- a 血糖測定
- b インスリン自己注射
- c 成長ホルモン自己注射
- d 血中ケトン体濃度測定
- e 動脈血酸素飽和度測定



次の文を読み、23～25の問いに答えよ。

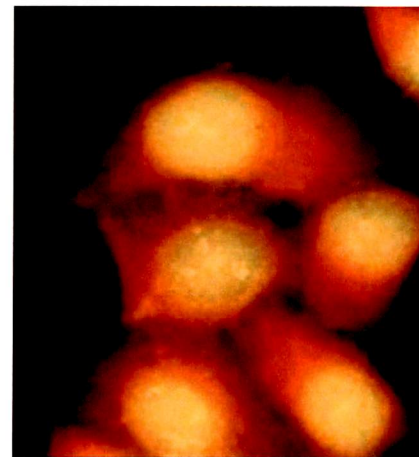
55歳の女性。現病歴4年前より寒冷時両側手指が白色、紫色に変化するようになった。また手指および足指の皮膚のこわばり感出現。その後皮膚のこわばり感は上肢、顔と拡大した。2年前より咳、労作時の息切れが出現。食事の際、食べ物がつかえる感じや下痢も認めるようになった。1年間で3 kg 体重減少した。昨日より悪心、嘔吐を伴った激しい頭痛が生じ来院した。

既往歴：特記すべきことなし。

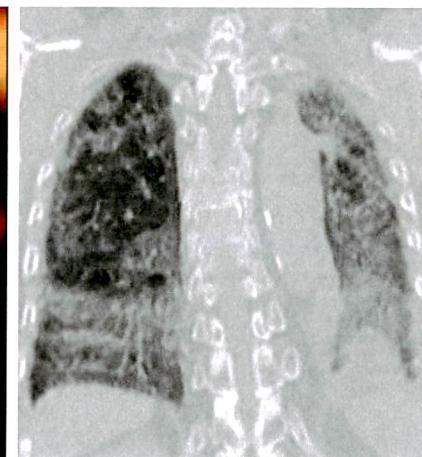
生活歴：喫煙歴20歳より20年間1日10本。飲酒なし。妊娠3回、3挙児。家族歴：特記すべきことなし。

身体所見：身長158cm、体重44 kg、血圧210/110、脈拍100/分整、意識清明、眼瞼結膜：軽度貧血、眼球結膜：黄疸なし、胸部 心音異常なし、両側背側部捻発音を聴取、腹部；上腹部に軽度圧痛、肝脾腫なし、腸音異常なし、皮膚：顔面と両側上腕から手指にかけて皮膚硬化、色素沈着、指尖陥凹、腱反射正常、両手、肘関節に圧痛、軽度腫脹を認める。

検査所見：尿 蛋白(2+)、潜血(1+)、白血球数 6,400、赤血球 380×10^4 、Hb10g/dl、血小板 8×10^4 、抗核抗体640倍(基準40倍未満)、胸部CT写真を示す。



抗核抗体640倍(基準40倍未満)(蛍光抗体法)



胸部単純CT写真

23 この症例において直ちに行うべき検査はどれか。2つ選べ。

- a 筋電図
- b 眼底検査
- c 髄液検査
- d 血清補体価
- e 血漿レニン活性

24 この症例で検出される可能性の高い自己抗体はどれか。

- a 抗DNA抗体
- b 抗RNP抗体
- c 抗Scl-70抗体
- d 抗セントロメア抗体
- e MPO-ANCA (抗好中球細胞質抗体)

25 この症例の適切な治療薬はどれか。

- a アンジオテンシン変換酵素阻害薬
- b ステロイドパルス療法
- c メトトレキサート
- d β 受容体遮断薬
- e D-ペニシラミン

26 36歳の女性。動悸と発汗過多および前頸部腫脹を主訴に来院し、バセドウ病と診断された。抗甲状腺薬の投与を開始するも副作用出現のため内服は中止し、手術治療の方針となった。手術中、深部体温の上昇(40.2℃)と頻脈(160/min)が出現し、大量の発汗が認められた。手術前日の甲状腺刺激ホルモン(TSH)および甲状腺ホルモン(FT4)は、TSH<0.001 μ U/ml(基準値0.27~4.20)、FT4 7.54 ng/dl(基準値1.00~1.80)であった。

治療法として適切でないのはどれか。

- a 大量輸液
- b 全身冷却
- c ヨード投与
- d ステロイド投与
- e カテコラミン投与

27 日齢10の新生児。新生児マススクリーニング検査で17OHプロゲステロン高値を指摘され受診した。外性器の所見を示す。

診察すべき項目で関連のないのはどれか。

- a 紫斑の有無
- b 脱水の有無
- c 体重増加の程度
- d 色素沈着の有無
- e 精巣の触知の有無



外性器の所見

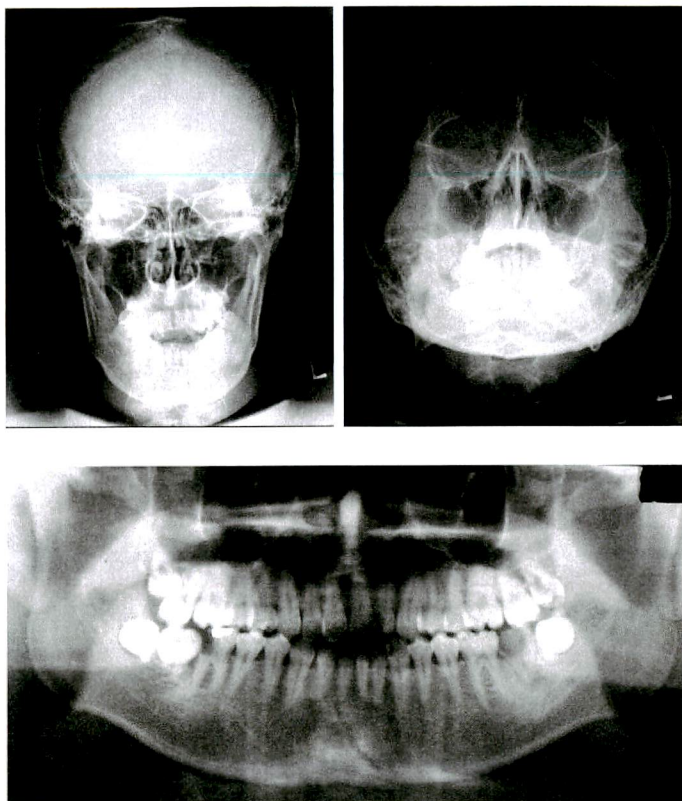
28 輸液療法について正しいのはどれか。

- a 1日必要水分量を年齢で計算し輸液量を決定する。
- b 救急患者は、第1排尿の確認まで3号輸液を用いる。
- c 意識障害の患者には、乳酸塩が添加された輸液を用いる。
- d 低ナトリウム血症の補正は、なるべく急速に行うべきである。
- e 低ナトリウム血症の評価には、血漿と尿浸透圧の比較が有用である。

29 動脈血ガスの採血部位として適当なものはどれか。2つ選べ。

- a 上腕動脈
- b 側頭動脈
- c 鎖骨下動脈
- d 足背動脈
- e 大腿動脈

30 24歳の男性。深夜歩行中、暴走族とケンカとなり顔面外傷を受傷。3枚のXPをしめす。



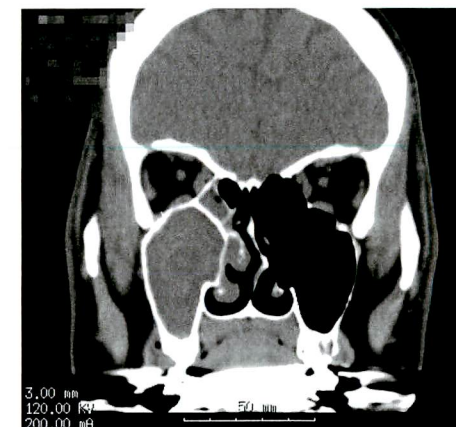
明らかに認められる骨折はどれか。

- a 頬骨骨折
- b 頬骨弓骨折
- c 眼窩底骨折 (blowout fracture)
- d 上顎骨折
- e 下顎骨体部骨折

31 36歳の男性。1週間前からの右頬痛を主訴に受診した。副鼻腔CTを示す。

正しいのはどれか。

- a 放射線療法を行う。
- b 抗真菌薬を投与する。
- c 骨破壊像が顕著である。
- d 抗ウイルス薬を投与する。
- e う歯が原因のことが多い。



副鼻腔CT

32 生後9か月の乳児。左眼付近の腫瘍が徐々に増大し、来院した。顔写真を示す。

認められる可能性のある弱視はどれか。

- a 視覚刺激遮断弱視
- b 屈折異常弱視
- c 不同視弱視
- d 経線弱視
- e 斜視弱視

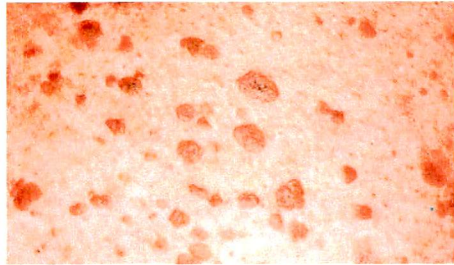


顔写真

33 65歳の男性。3か月前から体幹に軽度の■疹を伴う皮疹が多発してきた。写真を示す。

合併頻度の高い基礎疾患は何か。

- a 胃 癌
- b 肝硬変
- c 肺気腫
- d 慢性腎炎
- e 慢性膵炎



34 78歳の男性。膵臓がんによる上腹部痛のコントロール目的で、緩和ケアチームに紹介された。非ステロイド系消炎鎮痛薬（NSAIDs）は処方されていたが、オピオイドは処方されていなかった。患者は疼痛のため顔をゆがめ、睡眠が全く取れていない。WHO方式がん疼痛治療法の第2段階を試みたが疼痛コントロール不十分のため、第3段階の治療が検討された。

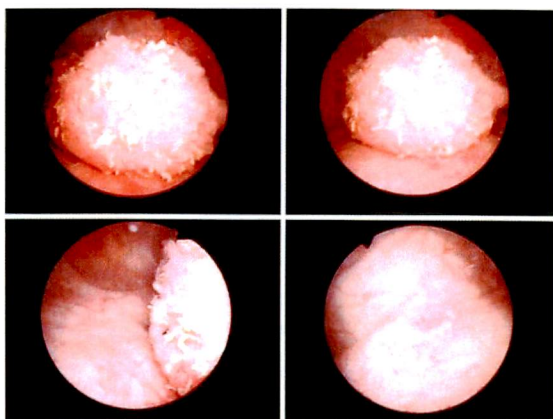
正しいのはどれか。

- a NSAIDsを追加処方する。
- b NSAIDsを中止し、弱オピオイドを処方する。
- c NSAIDsを中止し、強オピオイドを処方する。
- d NSAIDsを継続したまま、弱オピオイドを処方する。
- e NSAIDsを継続したまま、強オピオイドを処方する。

- 1 78歳の女性。無症候性肉眼的血尿を主訴に来院した。6か月前にも同様の所見を認めたが放置。
静脈性腎盂造影で上部尿路に異常は認めなかった。尿細胞診はclassII。膀胱鏡検査の所見を示す。

適切な対応はどれか。

- a 経尿道的膀胱腫瘍切除術
- b 経尿道的膀胱結石破碎術
- c 根治的膀胱全摘除術
- d 尿失禁型尿路変向術
- e 経過観察



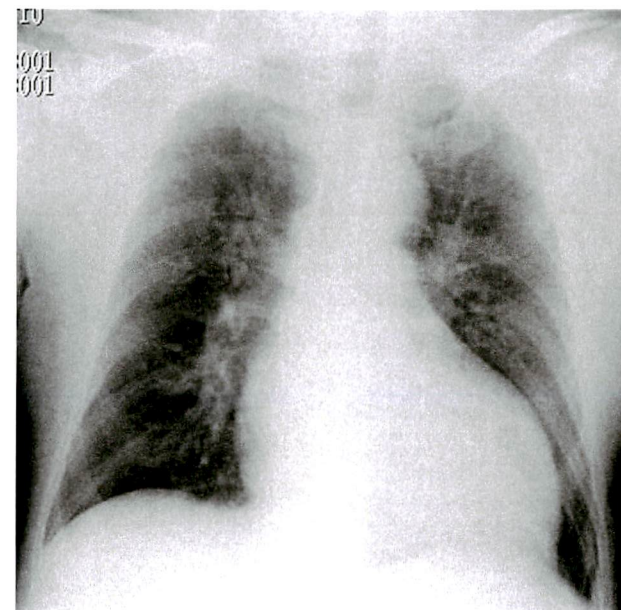
膀胱鏡検査の所見

次の文を読み2～4の問いに答えよ。

52歳の男性。3か月前より坂道を上ると息切れを感じるようになった。徐々に息切れは増強し、3日前より発作性夜間呼吸困難が出現し、起坐呼吸にて入院となった。

入院時身体所見：脈拍 102/分・不整、血圧 152/88 mmHg、呼吸数 22/分。頸静脈怒張と下腿浮腫、肝腫大がみられた。心聴診上第3音と汎収縮期雑音を聴取し、肺ラ音を認めた。
手足の冷感は無かった。

血液検査所見：BUN 18 mg/dℓ、Cre 0.82 mg/dℓ、Na 133 mEq/ℓ、K 3.8 mEq/ℓ、T.Bil 1.3 mg/dℓ、AST 21 IU/ℓ、ALT 19 IU/ℓ、 γ -GTP 89 IU/ℓ、随時血糖 198 mg/dℓ、HbA_{1c} 6.4%、BNP 678 pg/ml（基準18pg/ml未満）、心筋トロポニンT <0.01 ng/ml（基準0.10ng/ml未満）
胸部エックス線を示す。



胸部エックス線

2 本症例の間診および身体所見に関し、正しいのはどれか。

- a 発作性夜間呼吸困難は臥位にて軽減する。
- b 発作性夜間呼吸困難は朝方に生ずる。
- c 頸静脈怒張は臥位で判断する。
- d 頸静脈怒張は内頸静脈で判断する。
- e 第3音は胸骨右縁第2肋間で最も良好に聴取できる。

3 本症例の入院時のスワンガンツカテーテル検査での所見はどれか。

- a 中心静脈圧. 2 mmHg, 肺動脈楔入圧 9 mmHg, 心係数 1.5 l/min/m^2
- b 中心静脈圧. 10 mmHg, 肺動脈楔入圧 25 mmHg, 心係数 2.8 l/min/m^2
- c 中心静脈圧. 2 mmHg, 肺動脈楔入圧 9 mmHg, 心係数 2.8 l/min/m^2
- d 中心静脈圧. 2 mmHg, 肺動脈楔入圧 25 mmHg, 心係数 2.8 l/min/m^2
- e 中心静脈圧. 10 mmHg, 肺動脈楔入圧 25 mmHg, 心係数 1.5 l/min/m^2

4 直ちに行うべき処置はどれか。

- a インスリン持続静注
- b β 遮断薬内服
- c ドブタミン持続静注
- d ニトログリセリン舌下投与
- e 血漿交換

5 24歳の男性。生来健康。3か月前から呼吸困難が徐々に進行した。心エコー図を示す。

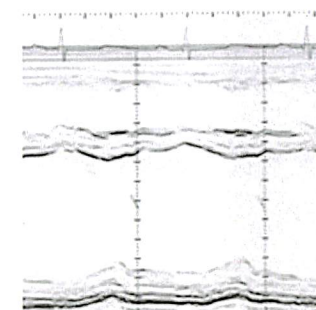
考えられる疾患はどれか。

- a 肺血栓塞栓症
- b 僧帽弁狭窄症
- c 高血圧性心疾患
- d 拡張型心筋症
- e 心房中隔欠損症



拡張末期

収縮末期



傍胸骨長軸

左室断面像

6 推定20代から30代男性。駅前の路上で通りがかりの小学生に対し意味不明のことを怒鳴るなどの奇異な行動があり、警察に保護された。精神疾患が疑われたため、警察から精神保健福祉センターに相談があり当院にて診察となった。身なりはぼろぼろのTシャツとズボンと季節はずれのロングコートという服装で、髪はしばらく手入れしていないような様子ではさばさであった。しばらく入浴していない様子で、路上生活者のようであった。名前を問うと、「やまだ たかし」と答えたが、それ以上は喋らず住所や連絡先などは不明であった。所持品も身元がわかるような物は一切所持していなかった。警察に保護されるときはおとなしく従い、暴言や暴力行為などは認めなかった。診察時、話しかけても視線は合わず、自分の名前以外は質問にまともに答えることはなかった。「今日は何をしていたのですか」という質問に対し、「水道橋で犬が三遍まわってワン」などと答え、まとまりのない言動が認められた。小声で独り言を言ったり、時折下を向いてニヤニヤと場違いに笑っている様子があった。入院させ精査を行うこととなった。

入院形態として正しいのはどれか。

- a 措置入院
- b 任意入院
- c 応急入院
- d 医療保護入院
- e 緊急措置入院

7 68歳の女性。変形性膝関節症の診断で、3か月前から2週間に1回関節内注射を受けている。

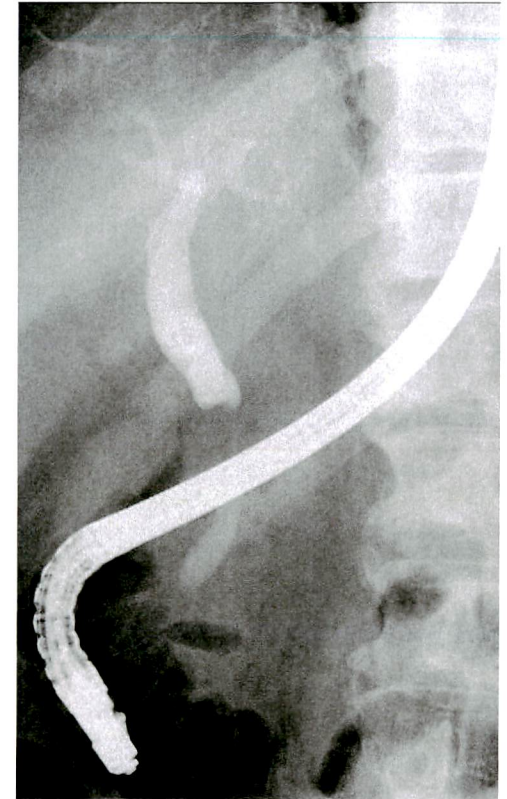
関節内に注射されているのはどれか。

- a 副腎皮質ステロイド
- b II型コラーゲン
- c グルコサミン
- d ヒアルロン酸
- e キシロカイン

8 66歳の男性。昨夜からの発熱・背部痛を主訴に来院した。体温 39℃、脈拍 106/分、整、血圧 94/72mmHg。入院時血液所見：白血球数 18,600/ μl 、赤血球数 420万、Hb 13.4 g/dl、Ht 32%、血小板 11万、総ビリルビン5.8 mg/dl、直接ビリルビン4.8 mg/dl、AST 68 IU/l、ALT 80 IU/l、CRP 20 mg/dl。腹部超音波検査で肝内胆管の拡張を認めた。内視鏡的逆行性胆道造影（ERC）を示す。

直ちに行う治療はどれか。

- a 肝動脈塞栓術
- b 腹腔鏡下胆嚢摘出術
- c 十二指腸乳頭形成術
- d 脾頭十二指腸切除術
- e 内視鏡的逆行性胆道ドレナージ

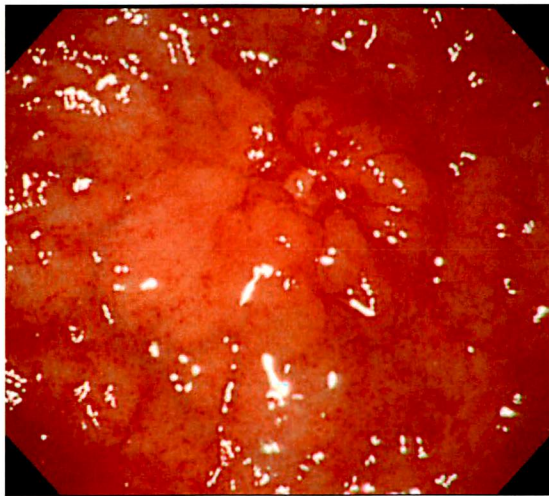


内視鏡的逆行性胆道造影（ERC）

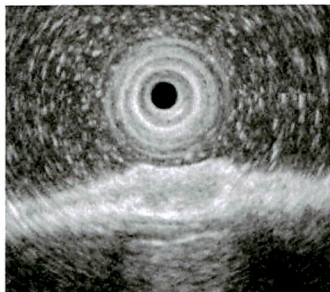
9 62歳の男性。胃体部大弯に病変を指摘され、生検にて分化型腺癌がみられたため受診した。内視鏡写真及び超音波内視鏡写真を示す。尚、腹部CTでは遠隔転移はない。

治療法として適切なのはどれか。

- a 内視鏡的レーザー焼灼
- b 内視鏡的粘膜下層剥離術
- c 化学療法
- d 放射線治療
- e 外科切除



内視鏡写真



超音波内視鏡写真

10 34歳の女性。検診にて卵巣に嚢胞性腫瘍を指摘され、精査のため来院した。MRI所見で正しいのはどれか。



T2強調画像



T1強調画像

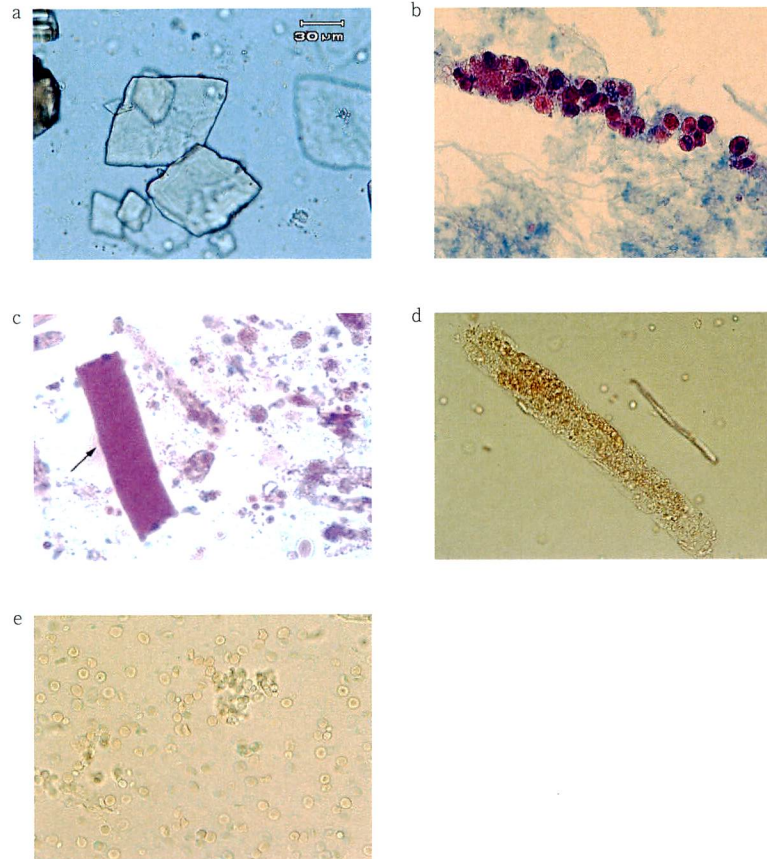


脂肪抑制T1強調画像

- a 脂肪を含みT1強調画像で高信号、脂肪抑制画像で低信号になる。
- b T1強調画像、脂肪抑制画像でいずれも高信号である。
- c T1強調画像、T2強調画像で低信号を示す。
- d 単房性、嚢胞性腫瘍である。
- e 卵巣と接する。

11 45歳の男性。3年前の健診で高尿酸血症を指摘されるも精査は受けていなかった。昨日より右背部痛が出現。同時期より尿の色が赤くなったので受診した。血圧130/80mmHg、体温36.8℃。尿検査：pH 5.5、蛋白(－)、潜血(3+)、亜硝酸(－)、尿沈渣：白血球0～3/HPF、赤血球>100/HPF。血清生化学検査：尿素窒素 20mg/dℓ、クレアチニン1.1mg/dℓ、尿酸8.5mg/dℓ。

この患者の尿沈渣で認められるのはどれか。2つ選べ。



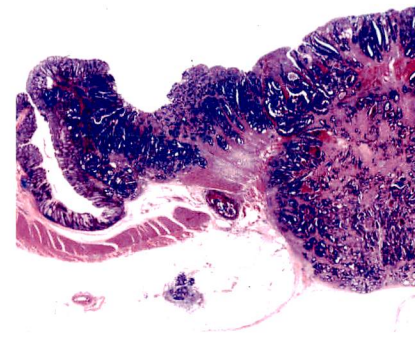
12 S状結腸に認められた腫瘍の肉眼所見及び組織所見（HE染色）を示す。

この腫瘍について正しいのはどれか。

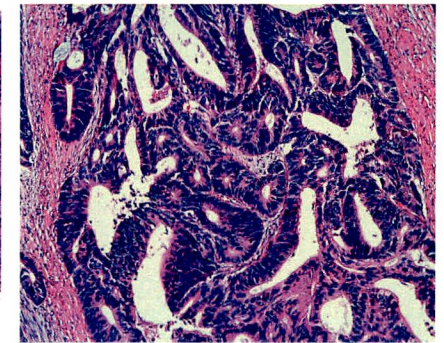
- a 1型である。
- b 腺腫を合併している。
- c 中分化腺癌である。
- d Dukes Aである。
- e 硬癌である。



腫瘍の肉眼所見



腫瘍の組織所見（HE染色）



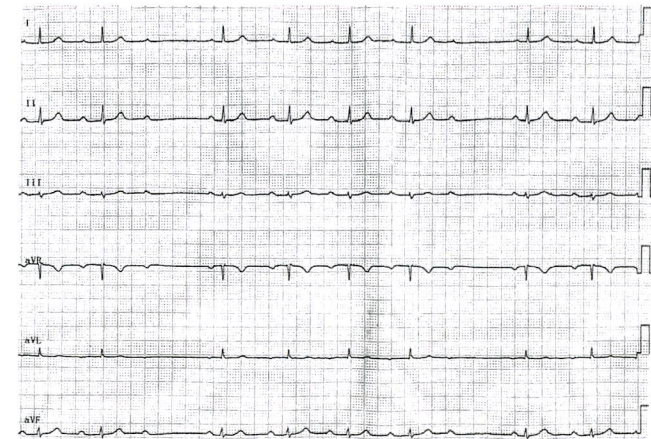
腫瘍の組織所見（HE染色）

13 粉じん作業または粉じんの種類とじん肺の組み合わせで正しいのはどれか。2つ選べ。

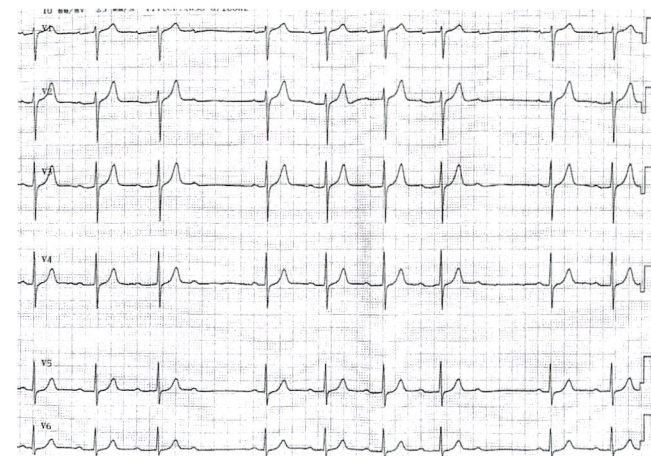
- a ゴム製造作業—————滑石肺
- b 金属ヒューム曝露作業—————けい藻土肺
- c 石炭坑内作業—————石綿肺
- d 研磨作業（グラインダー）—————炭素肺
- e 鉱山の坑内作業—————けい肺

次の文を読み、14～16の問に答えよ。

65歳の女性。5年前検診で高血圧と糖尿病を指摘されたが、自覚症状なく放置していた。3週間前より脈がゆっくりになることがあり来院。3か月前より易疲労感も自覚している。意識は清明。身長158cm、体重62kg、脈拍72回/分、不整。血圧160/88。右肋骨弓下に肝を3cm触知し、下腿浮腫を認める。心電図を示す。



心電図



心電図

14 心電図所見で正しいのはどれか。

- a 洞停止
- b QT延長
- c 心房性期外収縮
- d 心室性期外収縮
- e II度房室ブロック

15 初期治療として正しいのはどれか。

- a 経過観察
- b 抗菌薬投与
- c インスリン投与
- d β ブロッカー投与
- e 一時的ペースメーカー（体外式ペースメーカー）挿入

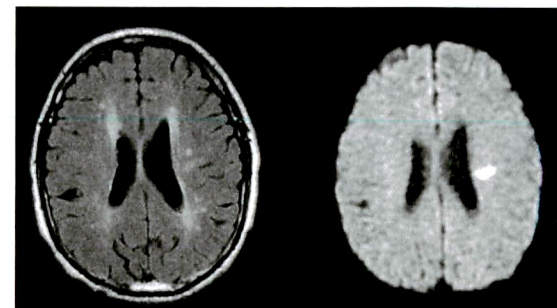
16 最初に鑑別すべき疾患はどれか。

- a 狭心症
- b 心筋梗塞
- c 洞不全症候群
- d 低カリウム血症
- e 甲状腺機能低下症

17 70歳の男性。本日より右上下肢の動きにくさが出現し受診した。頭部MRI画像を示す。（左：FLAIR画像、右：拡散強調画像）

今回の責任病巣はどこか。

- a 運動野
- b 放線冠
- c 内包後脚
- d 内包膝部
- e 大脳脚



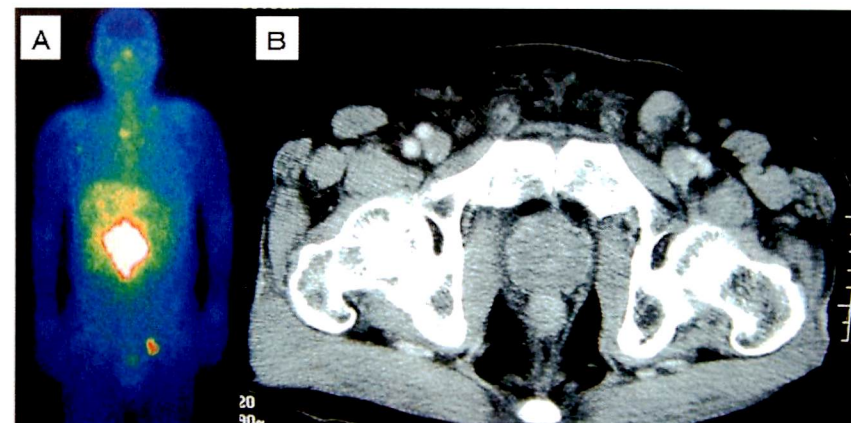
頭部MRI画像（FLAIR画像）

頭部MRI画像（拡散強調画像）

18 悪性リンパ腫のstage分類のためにGaシンチ（図A）と全身CT（図B）を施行した。

誤っているのはどれか。

- a Bは造影CTである。
- b Gaシンチでもっとも強い取り込みは、腹部正中中部である。
- c 肝臓にも取り込みがあるが、生理的取り込みの範囲である。
- d 病変部に取り込まれなかった ^{67}Ga -クエン酸は、尿中に排泄される。
- e Aの左そけい部の取り込みは、Bより判断すると、そけい部リンパ節の取り込みである。



図A：Gaシンチ

図B：全身CT

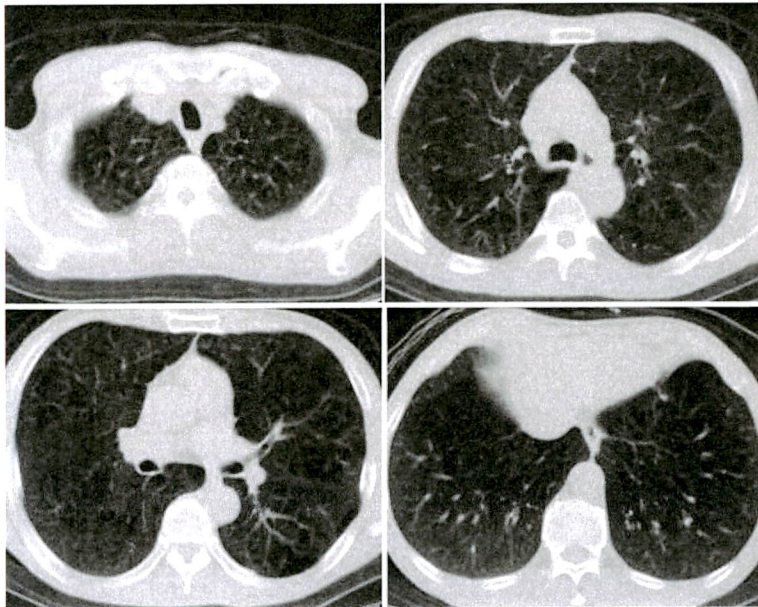
19 64歳の男性。呼吸困難を主訴に来院した。5年前から階段昇降時に呼吸困難を自覚していた。3か月前から平地歩行でも呼吸困難を自覚するようになったために来院した。40本/日、45年間の喫煙歴がある。

体温36.4℃。呼吸数18/分。血圧120/70mmHg。脈拍80/分、整。空気吸入下SpO₂ 91%。ばち指を認める。

胸部単純CTを示す。

副雑音を最も聴取しやすい呼吸相はどれか。

- a 吸気時前半
- b 吸気時後半
- c 吸気呼気移行相
- d 呼気時前半
- e 呼気時後半



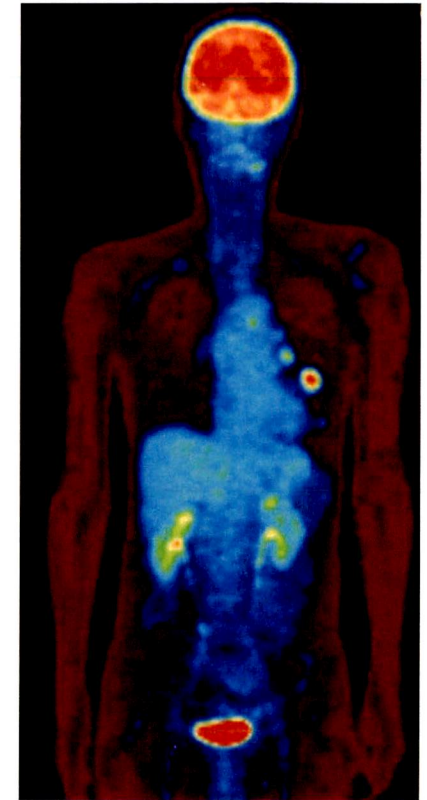
胸部単純CT

20 66歳の男性。検診にて胸部異常陰影を指摘され来院した。気管支内視鏡検査にて肺癌と診断された。

精査で行った検査の画像所見を示す。

正しいのはどれか。

- a 膀胱転移が疑われる。
- b ⁶⁷Gaシンチグラフィーの画像である。
- c 縦隔・肺門リンパ節転移が疑われる。
- d 糖尿病があっても検査に支障はない。
- e 取り込みの強さから腺癌が疑われる。



精査で行った検査の画像所見

21 70歳の女性。発熱を主訴に受診した。

現病歴：1か月前より発熱があり近医受診、抗菌薬等を処方されるも改善しなかった。1週間より両下肢のしびれを自覚している。

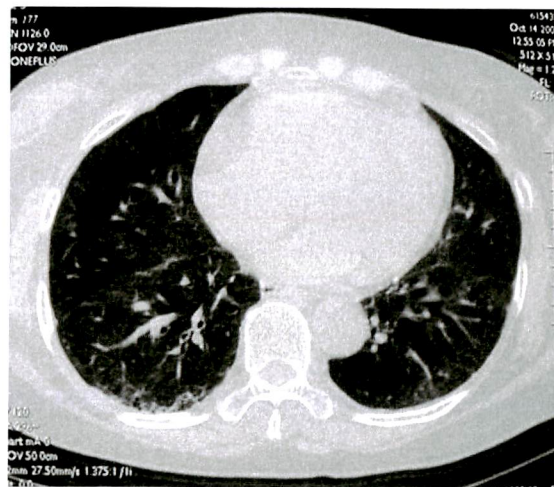
既往歴：高血圧にて内服加療中。

現 症：身長164cm、体重53kg。脈拍110/分、整。体温37.5℃。血圧138/92 mmHg。眼瞼結膜に貧血あり。リンパ節腫大なし。肺野に雑音なし。両下肢に感覚低下あり。

検査所見：尿所見：蛋白(2+)、糖(-)、潜血(1+)。血液所見：白血球18,000(好中球85%)、赤血球265万、Hb 7.3 g/dl、血小板20万。血液生化学所見：BUN 48 mg/dl、Cr 2.2 mg/dl。CRP 10 mg/dl。血液培養検査陰性。血清 β -D-グルカン陰性。胸部単純CT写真を示す。

まず行うべき検査はどれか。

- a 抗核抗体
- b 抗CCP抗体
- c 抗好中球細胞質抗体
- d 骨髓穿刺
- e 気管支鏡検査



胸部単純CT写真

22 52歳の主婦。健康診断で血清カルシウム高値を指摘され、精査のために入院した。

特記すべき自覚症状はない。

既往歴：20年前から高血圧、高脂血症で加療中。

家族歴：内分泌疾患や糖尿病はない。

生活歴：飲酒、喫煙なし。

現 症：身長160cm、体重51kg、体温37.4℃、脈拍94/分、血圧102/54 mmHg、意識は清明。

その他の身体所見に特記すべ所見はない。

検査所見

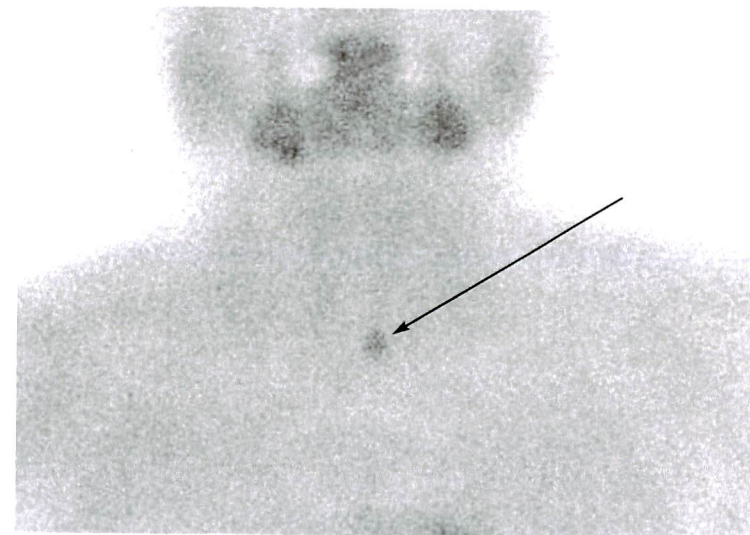
尿所見：比重1.004、pH 6.0、蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)

血液所見：白血球 3,730、赤血球 380万、Hb 11.8 g/dl、Ht 34%、血小板 17万。

血液生化学所見：総蛋白 6.4 g/dl、アルブミン 4.0 g/dl、AST 21 IU/l、ALT 26 IU/l、尿素窒素 10.2 mg/dl、Cr 0.62 mg/dl、ALP 469 IU/l (基準115~359)、グルコース 115 mg/dl、Ca 13.5 mg/dl、イオン化Ca 3.30 mEq/l (基準2.41~2.72)、IP 3.3 mg/dl、Mg 1.6 mg/dl (基準 1.8~2.6)、ACTH 27.8 pg/ml (基準7.4~55.7)、尿中コルチゾール 17.6 μ g/day (基準11.2~80.3)、PTH-インタクト 167 pg/ml (基準10~65)、PTH関連蛋白 $\leq$ 1.0 pmol/l (基準1.1以下)、ガストリン 130 pg/ml (基準200以下)、1,25-(OH)₂ビタミンD 26.2 pg/ml (基準20.0~60.0)。

頸部、腹部CT、頭部MRIには異常所見はなかった。

副甲状腺シンチグラフィを示す。



副甲状腺シンチグラフィ

高カルシウム血症の原因疾患として正しいのはどれか。

- a 低Mg血症
- b ビタミンD過剰症
- c 悪性腫瘍の骨転移
- d 多発性内分泌腫瘍症
- e 機能性副甲状腺腺腫

23 53歳の女性。身長160cm、体重65kg。胆嚢結石症に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した。手術時間は2時間、麻酔時間は3時間、麻酔中に800mlの輸液が行われ、尿量は300mlであった。合併疾患はない。

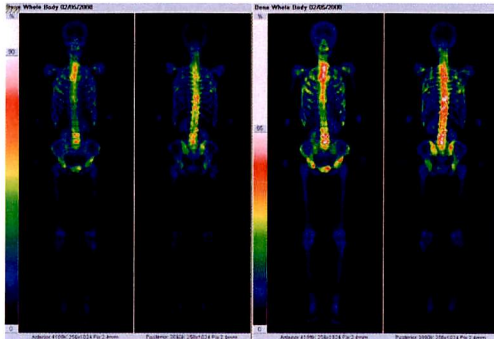
術後に行う輸液組成と術後24時間の輸液量として適切なのはどれか。

	Na (mEq/ℓ)	K (mEq/ℓ)	Cl (mEq/ℓ)	ぶどう糖 (%)	輸液量 (ml/day)
a	154	0	154	0	1,000
b	130	4	109	5	2,000
c	130	4	109	5	1,000
d	35	20	35	4.3	2,000
e	35	20	35	12.5	2,000

24 55歳の女性。腰痛を主訴に来院した。初診時、右乳房に潰瘍を伴う腫瘤を認めた。針生検で浸潤性乳管癌と診断された。エストロゲン受容体陰性、プロゲステロン受容体陰性、ハーセプチン0であった。身長167cm、体重50kg。2経妊、2出産、0流産。骨シンチグラフィ写真と胸椎MRI写真を示す。

正しいのはどれか。

- a stage 0
- b stage I
- c stage II
- d stage III
- e stage IV



骨シンチグラフィ写真



胸椎MRI写真

- 25 生後2時間の女児。在胎週数39週、出生体重2,900 g。分娩が遷延し、アプガースコア1分値2点、5分値5点であった。多呼吸、全身蒼白で経過し、下肢のペダルこぎ様の運動が出現した。

以下の記載で正しいのはどれか。

- a 微細発作の一つと考えられる。
- b 新生児であるため、抗けいれん薬は投与しない方がよい。
- c 熱性けいれんの可能性が高いため、直ちに体温を測定する。
- d 後遺症として脳室周囲白質軟化症に注意しなければならない。
- e 低出生体重のため、けいれんの原因は、低血糖である可能性が高い。

- 26 72歳の男性。肝転移を伴う大腸癌で入院中である。昨日より四肢に紫斑が出現するようになった。

病態を反映する検査所見はどれか。2つ選べ。

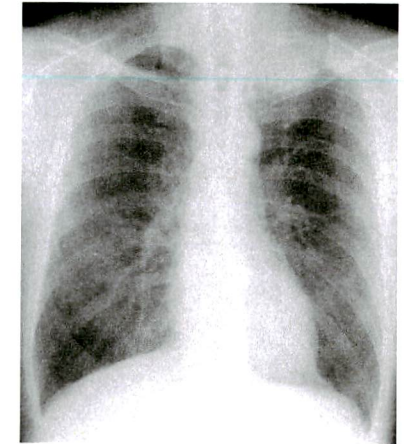
- a PT延長
- b TT増加
- c 血小板増加
- d D-dimer減少
- e Fibrinogen減少

次の文を読み、27～29の問いに答えよ。

50歳の男性。左上背部痛を主訴に来院した。喫煙20本/日を30年間。CEA 20ng/ml（基準5以下）。アスベスト曝露歴はない。胸部レントゲン写真と胸部造影CTとを示す。

- 27 診断を確定するために最も有用な検査はどれか。

- a 喀痰細菌検査
- b 気管支鏡検査
- c 肺動脈造影
- d 縦隔鏡検査
- e 血液ガス分析



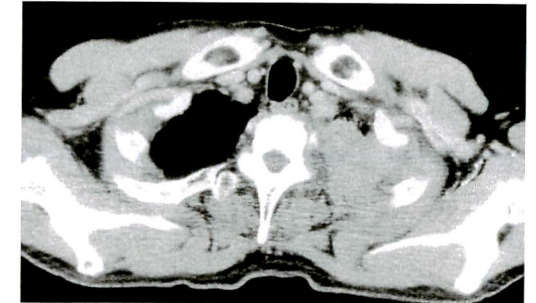
胸部レントゲン写真

- 28 診断として最も考えられるのはどれか。

- a 肺炎
- b 肺癌
- c 胸腺腫
- d 胸膜中皮腫
- e 悪性リンパ腫

- 29 他にみられるのはどれか。

- a ホルネル症候群
- b 呼吸困難
- c 顔面浮腫
- d 嗄声
- e 嚥下困難



胸部造影CT

- 30 35歳の男性。作業中に誤って裁断機に指をはさみ右第1・2指を完全切断し、直ちに病院を受診した。初診時には患部の出血は圧迫によって止まっている。切断指は比較的汚染されずに回収されている。切断指の再接着手術を計画し手術室に緊急手術の申し込みをした。

切断指再接着手術時までの手指の保存について最も妥当な方法はどれか。

- a 乾燥したガーゼにくるんでビニール袋に入れる。
- b 少し湿らせたガーゼにくるんでビニール袋に入れ、37℃の湯で温める。
- c 少し湿らせたガーゼにくるんでビニール袋に入れ、周囲を氷水で冷やす。
- d 生理食塩水の中に浸して、周囲を氷で冷やす。
- e 消毒液に浸して、周囲を氷で冷やす。

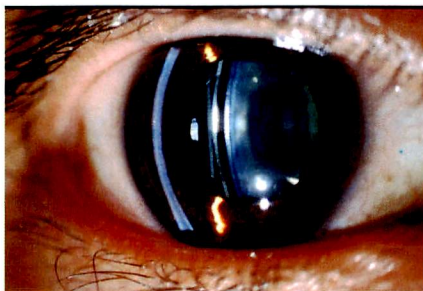
- 31 身長170cmの患者に挿入されている経鼻胃栄養チューブは、一般的に鼻入口部より何cm挿入されているか。

- a 60cm
- b 70cm
- c 80cm
- d 90cm
- e 100cm

- 32 25歳の女性。視力低下を主訴に来院した。視力は両眼とも0.04 (1.0×-10.00D) であった。この患者に対し、近視矯正手術を施行した。手術後の右眼写真を示す。左眼も同様の所見である。

術式はどれか。

- a 全層角膜移植術 (PKP)
- b 超音波乳化吸引術 (PEA)
- c 有水晶体眼内レンズ挿入術 (ICL)
- d レーザー角膜内切削形成術 (LASIK)
- e レーザー屈折矯正角膜切除術 (PRK)



手術後の右眼写真

- 33 52歳の男性。小児期より足底に色素斑あり放置していた。3か月前より拡大してきたため来院した。写真を示す。

その疾患について誤っているのはどれか。

- a 遠隔転移を起こしやすい。
- b 皮膚以外からも発症する。
- c 日本人では掌蹠に発症しやすい。
- d 爪の黒色線条として発症することがある。
- e 皮膚生検による組織学的診断を行うことが多い。



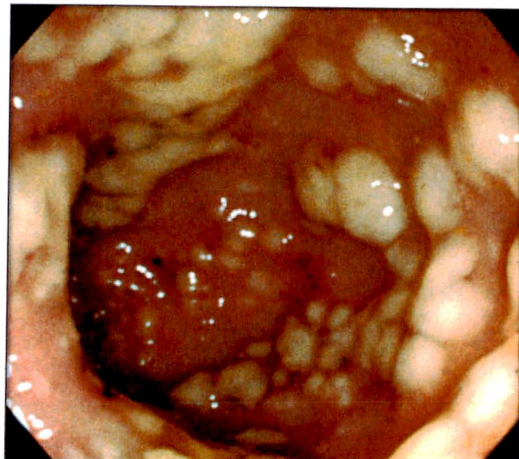
- 34 全身麻酔施行時、シリンジポンプで持続投与するのはどれか。

- a レミフェンタニル
- b 臭化ベクロニウム
- c フェンタニル
- d 塩酸モルヒネ
- e エフェドリン

- 1 65歳の女性。右季肋部痛を認め、急性胆のう炎の診断で入院の上加療を受けていた。1週間後症状の改善を認め食事開始となったが、この後20行/日以上の水様性下痢、腹痛を認めた。身体所見：腹部は平坦・軟。圧痛なし。ゲル音の亢進を認める。血液所見：白血球 11,000、赤血球 360万、Hb 12.8 g/dl、T.P 5.8 g/dl、GOT 15 U/l、GPT 24 U/l、ALP 315 U/l、 γ GTP 24 U/l、CRP 0.68mg/dl。止痢薬の投与にても改善がなく、精査目的で行った大腸内視鏡検査を示す。

治療として正しいのはどれか。

- a イソニアジド
- b アンピシリン
- c プレドニゾロン
- d クラリスロマイシン
- e 塩酸バンコマイシン



大腸内視鏡検査

- 2 正常胎児の臍帯動脈血pHはどれか。

- a 7.40
- b 7.35
- c 7.25
- d 7.20
- e 7.05

- 3 59歳の男性。

既往歴：なし

経過：1981年 検診で蛋白尿を指摘される。

1986年 腎生検で膜性増殖性腎炎の診断。

1989年 血液透析導入となる。

1990年 妻をドナーとした生体腎移植術施行。

術後、免疫抑制薬はプレドニゾロン、シクロフォスファミド、シクロスポリンを使用。

術後経過は良好で血清クレアチニン値1.3mg/ml前後で推移していた。

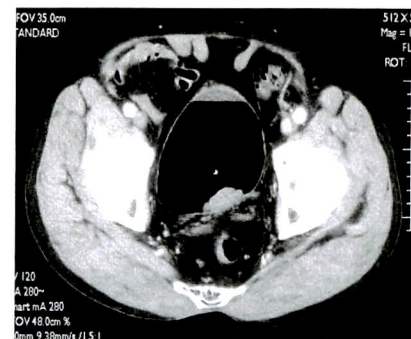
2003年 肉眼的血尿を自覚したため精査目的で入院となる。

入院時身体所見：身長 165cm、体重 60.9kg、体温 36.2℃、血圧 142/72mmHg、脈拍数 92/min

眼球結膜：貧血なし、腹部：平坦軟

入院時検査所見：

[血液学検査]		[生化学]		[尿検査]		[尿細胞診]	
WBC	6,400 / μ ℓ	AST	18 U/ ℓ	比重	1.002	Class 5	
RBC	373×104 / μ ℓ	ALT	25 U/ ℓ	pH	6.5	[腹部造影CTを示す]	
Hb	11.4 g/dℓ	ALP	150 U/ ℓ (基準値5～40)	糖/蛋白定量	－/2＋	膀胱後壁に広基性の	
Ht	34.6 %	T-Bil	0.5 mg/dℓ	潜血	3＋	腫瘍あり	
Plt	14.8×104 / μ ℓ			LDH	390 mg/dℓ (基準値119～229)		
		TP	6.1 g/dℓ				
		Alb	3.4 g/dℓ				
		BUN	21 mg/dℓ				
		Cr	1.23 mg/dℓ				
		Na	141 mEq/ ℓ				
		K	4.0 mEq/ ℓ				
		CRP	0.15 mg/dℓ				



腹部造影CT

適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b 抗菌薬投与
- c 移植腎摘出術
- d 経尿道的膀胱腫瘍切除（TUR-Bt）
- e 経尿道的前立腺切除術（TUR-P）

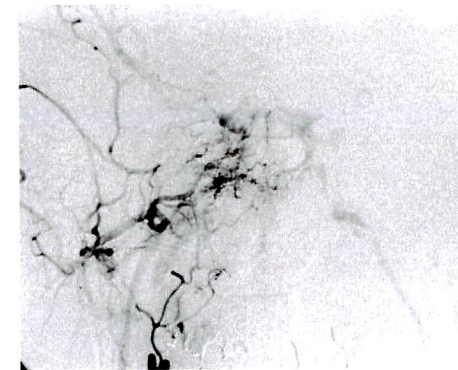
4 じん肺の合併症と認められない疾患はどれか。2つ選べ。

- a 原発性肺がん
- b 胸膜斑（ブランク）
- c 結核性胸膜炎
- d 続発性気管支炎
- e 間質性肺炎

5 70歳の男性。1週間前の起床時に右眼の羞明を自覚し、近医眼科で結膜炎の診断をうけた。その後羞明は軽快せず、夜間に右側の耳鳴りを自覚するようになった。脳神経外科を受診し、脳血管造影検査を行った。右外頸動脈撮影正面像を示す。

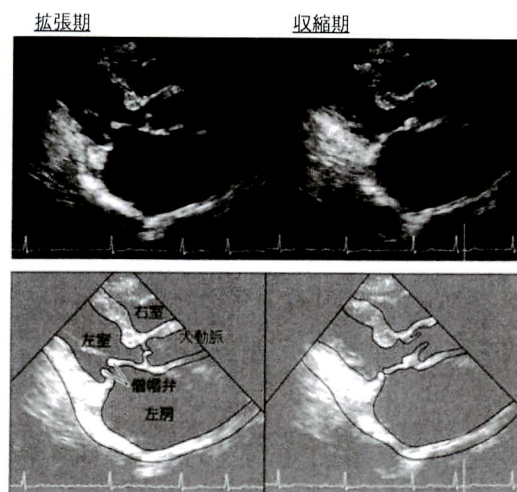
この疾患について正しいものはどれか。2つ選べ。

- a 中年以降の男性に多い。
- b 出血、梗塞は稀である。
- c 複視は稀である。
- d 自然治癒は稀ではない。
- e 治療は開頭手術である。



右外頸動脈撮影正面像

- 6 68歳の女性。以前より弁膜症を指摘されていたが、日常生活に不自由を感じなかったため、放置していた。昨日旅行から帰った時より動悸を自覚していた。今朝右半身の脱力を自覚し、救急外来を受診した。心エコー図を示す。



心エコー図

胸部の聴診をする際に部位と使用聴診器の正しい組み合わせはどれか。

- a 胸骨右縁第2肋間—————膜型で聴診
- b 胸骨左縁第4肋間—————ベル型で聴診
- c 胸骨左縁第4肋間—————膜型で聴診
- d 心尖部—————ベル型
- e 心尖部—————膜型

- 7 53歳の男性。4時間持続する前胸部痛のために搬入された。

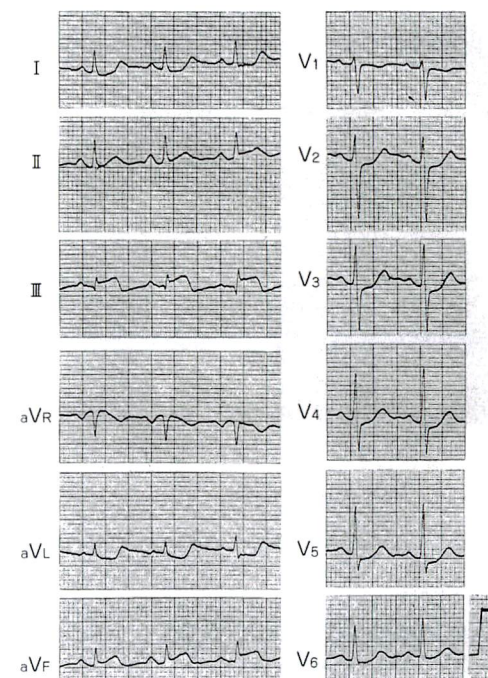
現病歴：1か月前から駅の階段を上った際に前胸部絞扼感を自覚し、安静にすると消失するので放置していた。本日、早朝に前胸部絞扼感で覚醒した。しばらく我慢していたが次第に増強してきた。

既往歴：5年前から高血圧で降圧薬を服用している。

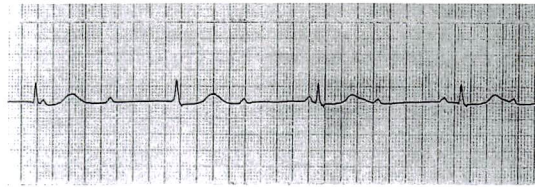
現 症：意識清明。身長164cm、体重75kg、腹囲87cm、血圧152/78mmHg、脈拍数50/分、呼吸音に異常はなく、腹部は平坦、肝脾腫大なし、四肢に浮腫を認めない。

検査所見：白血球 10,400、血小板 16万、AST 78 IU/ℓ、ALT 98 IU/ℓ、CPK 1,200 IU/ℓ、CK-MB 124 IU/ℓ（基準 25 IU/ℓ 未満）、トロポニンT陽性。

以下に来院時の心電図（心電図1）を示す。直ちに冠動脈造影を行い、カテーテル治療中に心電図2を認め、突然、意識を消失し、脈拍は触知不能となった。



心電図1



心電図 2



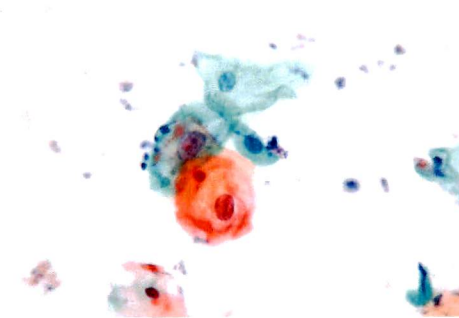
冠動脈造影

直ちに行う処置はどれか。

- a 大動脈内バルーンパンピング
- b 血栓溶解療法
- c 冠動脈形成術
- d 電氣的除細動
- e 一時的ペースメーカー

8 22歳の女性。子宮頸癌検診の細胞像を示す。治療方針はどれか。

- a 経過観察
- b 子宮腔部円錐切除術
- c 単純子宮全摘出術
- d 抗真菌薬投与
- e エストロゲン陰錠の投与



子宮頸癌検診の細胞像

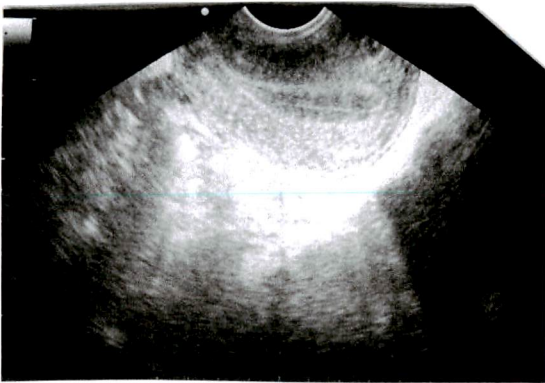
9 67歳の男性。昨日の夕食後より右上腹部痛が出現。本日38℃の発熱を認め、痛みも増強したため来院した。腹部超音波検査を示す。

- 最も考えられる疾患はどれか。
- a 胆嚢癌
 - b 肝膿瘍
 - c 肝細胞癌
 - d 急性胆嚢炎
 - e 胆嚢腺筋腫症

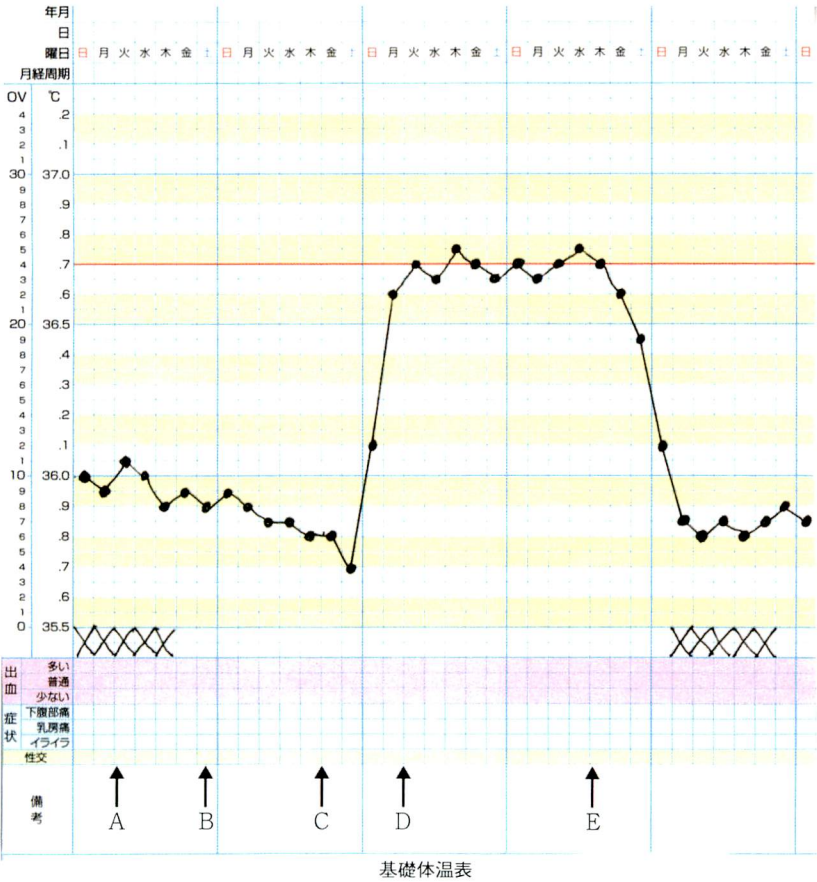


腹部超音波検査

10 28歳の女性。経膈超音波断層法による子宮の所見を示す。



経膈超音波断層法による子宮の所見



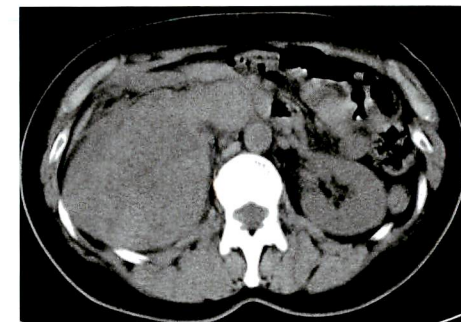
この検査が行われたと推定されるのは基礎体温上、どの時期に相当するか。

- a A
- b B
- c C
- d D
- e E

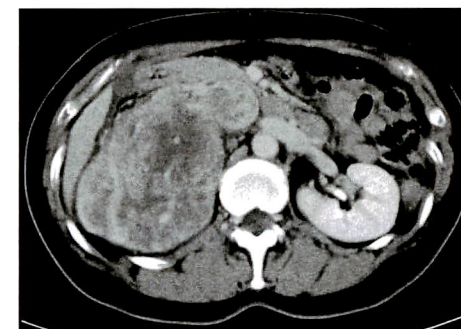
11 60歳の男性。6か月前より疲労感と体重減少とを自覚したが放置していた。2日前に尿が赤いことに気づき近医を受診し、腹部超音波検査にて右腎に径10cmを越える充実性腫瘍を認めたため精査目的で紹介受診となった。尿沈渣：白血球 1-3/1視野、赤血球 多数/1視野。単純CT、および造影CT検査を示す。

対応として正しいのはどれか。

- a 経過観察
- b 腎動脈塞栓術
- c 単純腎摘除術
- d 根治的腎摘除術
- e 腎尿管全摘膀胱部分切除術



単純CT画像



造影CT画像

12 56歳の女性。2 か月前より歩行時に左側にふらつくようになり、徐々に悪化したため来院した。

頭部MRIT 2 強調画像を示す。

右半身（病変と反対側）の症状として最もみられやすいのはどれか。

- a 聴力障害
- b 小脳失調
- c 顔面の触覚障害
- d 上肢の痛覚障害
- e 末梢性の顔面神経麻痺



頭部MRIT 2 強調画像

次の文を読み、13～14の問いに答えよ。

68歳の男性。昨日尿管癌の手術を腹腔鏡下で施行した。本日トイレ歩行を開始したとき意識消失した。意識はJCS300、呼吸は認めず、頸動脈も触知しなかった。そのときのモニター心電図を図1に示す。

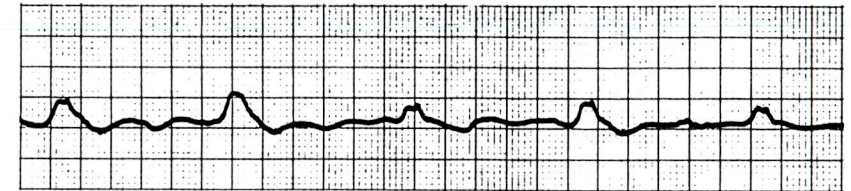


図1 モニター心電図

13 処置として誤っているのはどれか。

- a 胸骨圧迫
- b 気管挿管
- c 静脈路確保
- d 電氣的除細動
- e エピネフリン静注

14 この患者は心拍再開が得られたが、このときの心電図を図2に示す。

診断に最も適した検査はどれか。

- a 脳 波
- b 頭部CT
- c 頭部MRI
- d 胸部造影CT
- e 肺血流シンチグラフィ

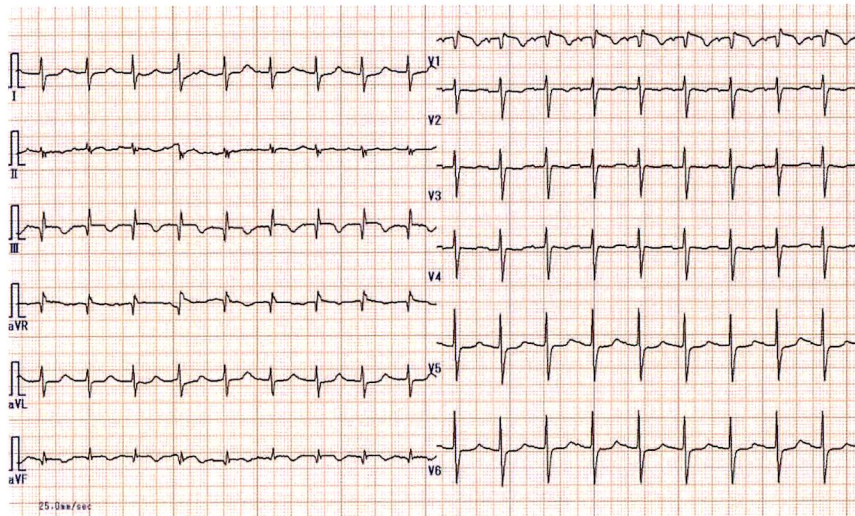
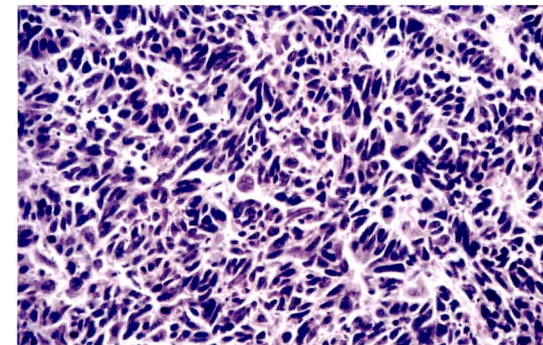


図2 心電図

15 71歳の男性。咳嗽と血痰を主訴に来院した。右肺上葉気管支入口部より採取された生検検体のH-E染色標本を示す。

この疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 男性に多い。
- b 末梢肺野に好発する。
- c 喫煙との関係は乏しい。
- d 抗癌化学療法薬に低感受性である。
- e 抗利尿ホルモン不適切分泌症候群（SIADH）を合併することある。



生検検体のH-E染色標本

16 神経学的診察法について正しいのはどれか。

- a 眼底を観察するときは、患者の眼と験者の同側の眼を使用する。
- b 眼球の輻輳を観察するときには、手指を患者の顔面に接触するまで近づける。
- c 三叉神経（感覚）を検査するとき、後頭部の皮膚も検査する。
- d 顔面神経の検査の時には、咬筋の評価も行う。
- e 患者の右の胸鎖乳突筋を検査する場合、頸部を右に回旋させる。

17 拡散強調画像で高信号を呈する疾患はどれか。

- a 多発性硬化症
- b 片頭痛
- c 脳出血
- d ジストニア
- e 脳膿瘍

18 骨髓穿刺について正しいのはどれか。2つ選べ。

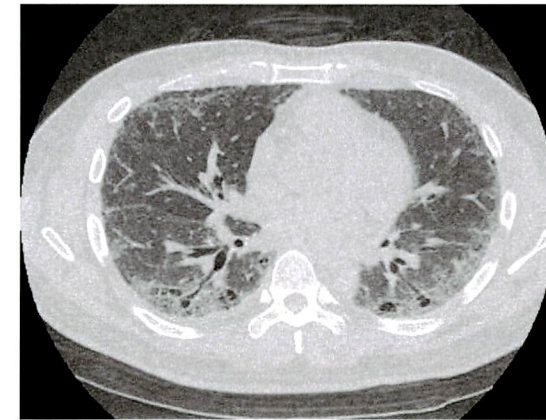
- a 骨髓液は0.5ml程度吸引するのがよい。
- b 骨髓液の塗末標本をヘマトキシリン・エオジン染色し、骨髓像を判読する。
- c 吸引不能（dry tap）のときは、原因精査のため同部位から骨髓生検する。
- d 骨髓の正常な有核細胞数は、1～2万/ μl である。
- e 骨髓巨核球数は、フックス・ローゼンタール血算盤でカウントする。

19 54歳の男性。乾性咳嗽を主訴に来院した。半年前より乾性咳嗽を認め、2か月前より労作時に呼吸困難も自覚するようになった。近医で胸部エックス線検査を受けたところ異常陰影を指摘され、精査・加療目的にて当院を紹介されて来院した。

両側下肺野で細かい断続性ラ音を聴取。ばち指を認めた。

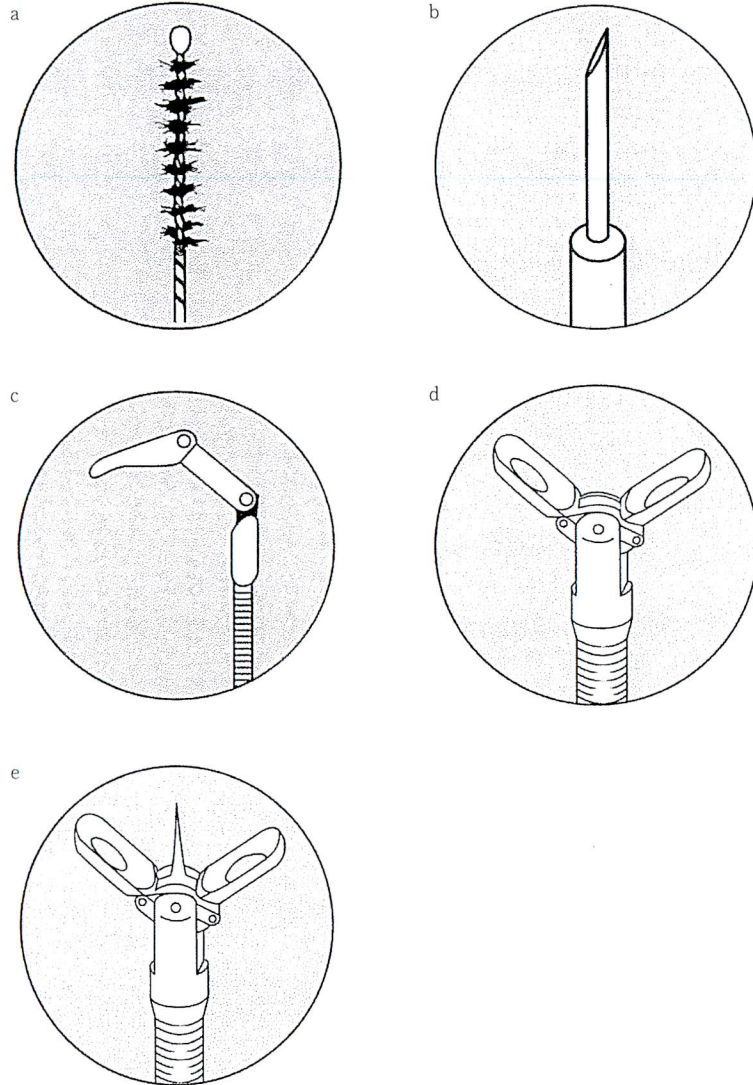
胸部単純CTを示す。

この患者に気管支内視鏡検査を行い、経気管支肺生検を行った。



胸部単純CT

使用する鉗子はどれか。



20 自己血糖測定器について正しいのはどれか。

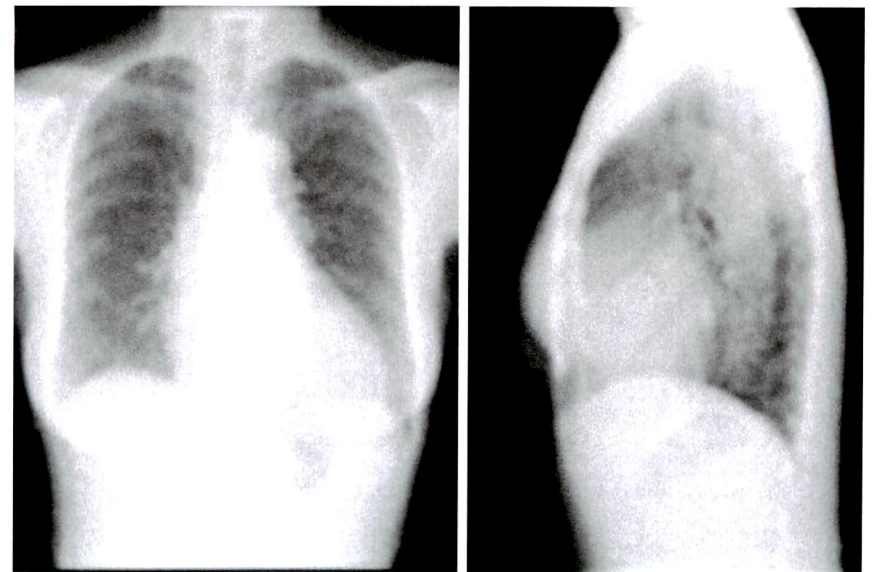
- a 血清を使用する。
- b 静脈血を使用する。
- c 血液量は5 ml必要である。
- d 穿刺部は必ず消毒する。
- e 腹壁を穿刺部として血液を採取する。

21 59歳の女性。8年前に詳細不明ながら心臓の手術を受けている。

2週前から38℃台の発熱と咳嗽、喀痰を認めたため来院した。頭痛や腹痛、下痢や嘔吐はない。当院受診時に血液培養を施行したところグラム陽性球菌を認めた。胸部聴診上胸骨左縁第3肋間にLevineⅢ度の収縮期雑音を聴取した。当院受診時の胸部エックス線写真を下に示す。

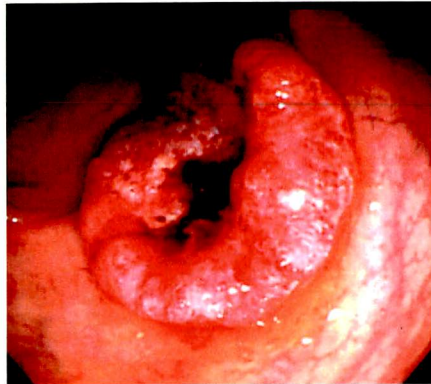
まず行うべき検査はどれか。

- a 胸部CT検査
- b 心臓カテーテル検査
- c 心臓超音波検査
- d 胃液培養検査
- e 髄液検査



当院受診時の胸部エックス線写真

- 22 50歳の男性。S状結腸癌に対して手術を施行した。病理組織検査では、摘出リンパ節20個中、腸管傍リンパ節に転移を1個認めた。遠隔転移や腹膜播種は認めなかった。術前的大腸内視鏡写真を示す。



大腸内視鏡写真

診断と標準治療の正しい組み合わせはどれか。

- a 早期S状結腸癌———腹腔鏡下S状結腸切除術——術後化学放射線療法
 - b 早期S状結腸癌———開腹S状結腸切除術——術後化学療法
 - c 進行S状結腸癌———腹腔鏡下S状結腸切除術——術後化学放射線療法
 - d 進行S状結腸癌———開腹S状結腸切除術——術後化学療法
 - e 進行S状結腸癌———開腹S状結腸切除術——術後化学放射線療法
- 23 生後1か月の母乳栄養児。出生体重は3,100g。母乳不足が考えられるのはどれか。
- a 体重4,200g
 - b 授乳後すぐに就眠する。
 - c 便が柔らかく回数が多い。
 - d 1回の授乳に40分ほどかかる。
 - e 3時間おきに母乳をほしがる。
- 24 小児の診察について正しいのはどれか。
- a まず頭頸部の診察で、口腔内を診察する。
 - b 腹部の診察で、触診は聴診よりも先に行うべきである。
 - c ちじれた毛髪をみたら、フェニルケトン尿症を鑑別すべきである。
 - d 胸部の聴診で、rhonchiはwheezeよりも高い音として聴取される呼吸音である。
 - e 腹部の診察で、オリーブ様腫瘍を触れたら肥厚性幽門狭窄症を鑑別すべきである。

- 25 梅毒生物学的偽陽性反応（biological false positive）を示す疾患はどれか。

- a 肝硬変
- b 心筋梗塞
- c 抗リン脂質抗体症候群
- d II型糖尿病
- e 後天性免疫不全症候群

- 26 57歳の女性。約2年前より右母趾の爪が黒く変色していることに気づいた。放置していたが徐々に拡大して爪以外の皮膚部にまで広がったために外来受診した。初診時の現症を示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 部分切除生検を行う。
- b 遠隔転移することはない。
- c 放射線治療が第一選択である。
- d 手術の治療と化学療法が有効性が高い。
- e 軟膏治療が奏効する。



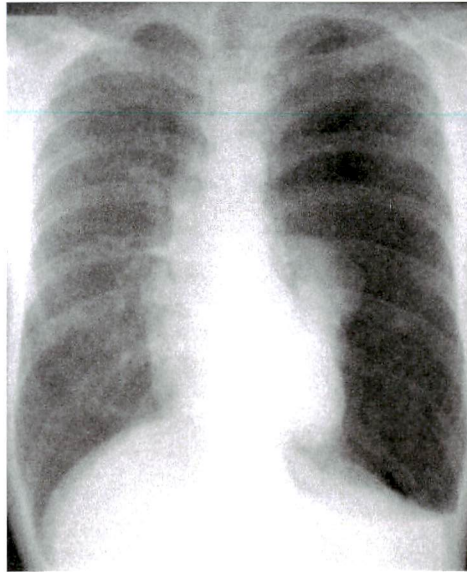
初診時の現症

次の文を読み、27～29の問いに答えよ。

25歳の男性。歩行中に突然の胸痛を発症し、次第に呼吸困難を生じたため搬入された。不穏状態である。呼吸数38/分。脈拍120/分、整。血圧93/62mmHg。胸部エックス線写真を示す。

27 診断はどれか。

- a 肺 癌
- b 奇形腫
- c 緊張性気胸
- d 肺 炎
- e 膿 胸



胸部エックス線写真

28 まず行うのはどれか。

- a 胸腔ドレーン挿入
- b 鎮静薬投与
- c 昇圧薬投与
- d 緊急手術
- e 人工呼吸

29 本疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 身長の高い人に多い。
- b BMI 20前後の人に多い。
- c 再発例では手術適応となる。
- d 手術は開胸下に行うのが一般的である。
- e 術後の再発率は40～50%である。

30 ①48歳の女性。めまいを主訴に来院した。今までに、めまいと耳鳴りを3回起こしている。今回、2日前から右耳鳴りを自覚し、右耳の閉塞感も認める。今朝から突然回転性めまい・嘔吐を認め来院した。神経症状は認めない。

②65歳の男性。起床時に起き上がったり、右下頭位にすると回転性めまいがするという。めまいは20秒程度でおさまるが、頭位変換の度に起こる。耳鳴り、難聴などの自覚症状はない。また、神経症状も認めない。

③70歳の男性。以前より右難聴を認めており、ふらつきを自覚している。最近めまいがひどくなり、舌のしびれ、顔面の知覚異常を訴えて来院した。頭部MRI検査で右小脳橋角部に腫瘍性病変を認めた。

①、②、③で最も起る可能性がある眼振所見はどれか。

- a ①水平性 ②純回旋性 ③水平回旋混合性
- b ①純回旋性 ②水平回旋混合性 ③注視方向性
- c ①水平性 ②水平回旋混合性 ③垂直性
- d ①水平回旋混合性 ②純回旋性 ③注視方向性
- e ①垂直性 ②純回旋性 ③水平回旋混合性

31 83歳の女性。顔面の皮疹と発熱を主訴に来院した。2日前から悪寒とともに左顔面に発疹が出現し拡大してきた。

体温39℃、赤血球400万、白血球13,000、CRP3.9mg/dℓ。顔面の写真を示す。

第1選択薬はどれか。

- a 抗菌薬
- b 抗真菌薬
- c 免疫抑制薬
- d 副腎皮質ステロイド薬
- e 非ステロイド性抗炎症薬



顔面の写真

32 72歳の男性。腰痛を主訴に来院した。

現病歴：一週間前より腰痛出現。自宅にて安静にしていたが増悪し、疼痛のため寝返りがうてなくなった。

既往歴：52歳時より高血圧を指摘され、内服加療中。70歳時に前立腺癌に対し、前立腺全摘術。

家族歴：特記すべきことは無い。

現 症：身長162cm、体重55kg。呼吸数28回。脈拍80/分、整。血圧152/75mmHg。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟、肝・脾を触知しない。第二腰椎上に圧痛・叩打痛を認める。下肢筋力・知覚に低下を認めない。両下肢深部腱反射に軽度の低下を認める。

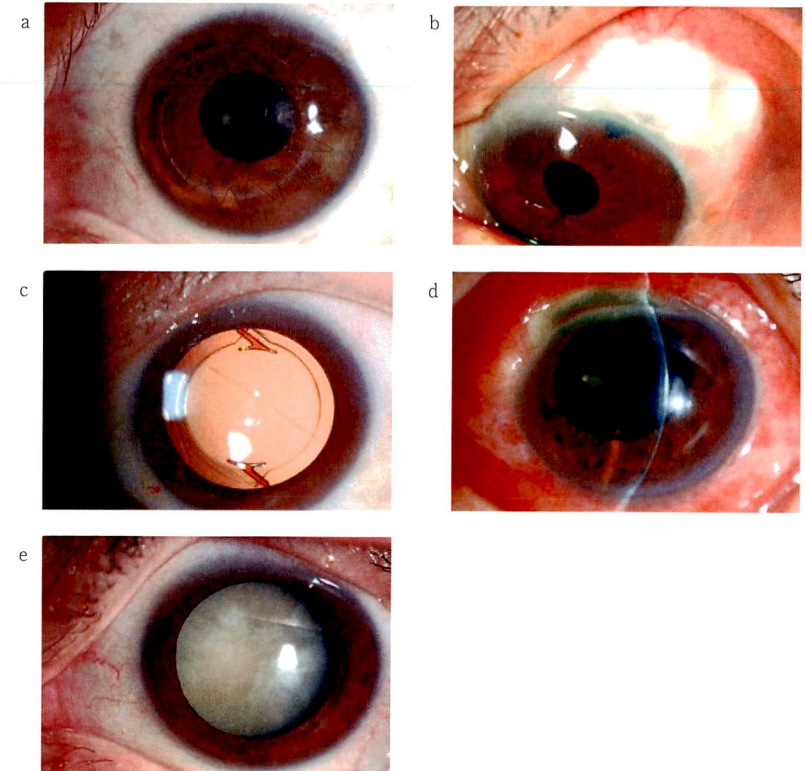
検査所見：血液所見：赤血球374万、Hb 11.6 g/dℓ、Ht 34.9%、白血球 9,300、血小板 26.9万。
血清生化学所見：BUN 21mg/dℓ、Cr 0.49mg/ℓ、AST 37 IU/ℓ、ALT 33 IU/ℓ、LDH 153 IU/ℓ
(基準値120～240)、ALP 504 IU/ℓ (基準値115～359)、CRP 0.55mg/dℓ。

必要でない検査はどれか。

- a 血清PSA検査
- b 動脈血ガス分析
- c 骨シンチグラフィー
- d 腰椎磁気共鳴映像 (MRI)
- e 腰椎単純エックス線検査

33 78歳の女性。視力低下を主訴に来院した。白内障を認め、手術を施行した。手術後の写真を a から e に示す。

正しいのはどれか。



34 上肢血圧の測定方法について誤っているのはどれか。

- a 原則的に触診法から行う。
- b マンシエットは指が1～2本入る程度の余裕をもたせる。
- c マンシエットは肘窩をすべておおうように巻く。
- d Korotkoff音が聞こえ始めるまで、水銀柱を2 mmHg/秒ずつ下げる。
- e Korotkoff音が聞こえ始めたら、水銀柱を2 mmHg/1心拍ずつ下げる。

- a 深部感覺障害
- b 錐體路障害
- c 自律神經障害
- d 小腦障害
- e 錐体外路障害

No. _____																																	
姓 名	殿 路																																
号 室	男 女																																
入 院	成 職 業																																
年 月 日	年 月 日																																
B C D <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">黒</td> <td style="width: 5%;">点</td> <td style="width: 5%;">青</td> <td style="width: 85%;"></td> </tr> <tr> <td>70</td> <td>170</td> <td>41</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60</td> <td>150</td> <td>40</td> <td></td> </tr> <tr> <td>50</td> <td>130</td> <td>39</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40</td> <td>110</td> <td>38</td> <td></td> </tr> <tr> <td>30</td> <td>90</td> <td>37</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>70</td> <td>36</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>50</td> <td>35</td> <td></td> </tr> </table> A E		黒	点	青		70	170	41		60	150	40		50	130	39		40	110	38		30	90	37		20	70	36		10	50	35	
黒	点	青																															
70	170	41																															
60	150	40																															
50	130	39																															
40	110	38																															
30	90	37																															
20	70	36																															
10	50	35																															
△ 乙	○ 甲																																

3 区画Aで、グラフ化されているデータが3つある。

正しい組み合わせはどれか。

- a 体温———血 圧———脈拍数
- b 体温———呼吸数———脈拍数
- c 体温———尿 量———呼吸数
- d 呼吸数———尿 量———血 圧
- e 呼吸数———尿 量———脈拍数

4 使用中の抗がん薬の種類、量、使用期間の情報を記載する区画はどこか。

- a 区画A
- b 区画B
- c 区画C
- d 区画D
- e 区画E

5 温度板記載に関して誤っているのはどれか。

- a 血液検査値は、重要な項目は、正常範囲であっても記載する。
- b 「DNR」と記載されている場合、患者の蘇生術はおこなわない。
- c 「PC10U」という記載は、凍結血漿10単位を輸注という意味である。
- d 化学療法を行っている患者の「Day 1」は、化学療法を開始した日を意味する。
- e 自己末梢血幹細胞移植を行っている患者の「Day 0」は、幹細胞を患者に戻した日を意味する。

6 65歳の男性。胸部異常陰影精査・加療のために紹介され来院した。3か月前から咳嗽、喀痰が増悪し、近医を受診したところ、胸部異常陰影を指摘された。胸部CTで右上葉に長径36mmの腫瘍影と同側に少量の胸水を認める。気管支内視鏡検査で腫瘍影は腺癌であることが判明し、胸腔穿刺でも腺癌が検出された。その他の全身検索では転移は認められなかった。Performance statusは0、肝機能・腎機能などの臓器機能は良好に保たれている。20歳から1日20本の喫煙歴がある。

治療法として適切なものはどれか。

- a 手 術
- b 免疫療法
- c 化学療法
- d 放射線療法
- e 化学放射線療法

7 58歳の男性。以前より健診にて、脂肪肝、高コレステロール血症を指摘されていたが放置していた。

健診にて、食後血糖の高値を指摘されて来院した。

身長167cm、体重68kg。1年前に禁煙して以来、体重が2 kg増加した。

自覚症状は特にない。

家族歴では父親が糖尿病である。

糖尿病の診断のため、75 g 経口ブドウ糖負荷試験を行った。

負荷前血糖108mg/dl、負荷後2時間血糖154mg/dlであった。

正しい判定はどれか。

- a 正常型
- b 境界型
- c 糖尿病型
- d 1型糖尿病
- e 二次性糖尿病

次の文を読み、8～9の問いに答えよ。

24歳の女性。左下腿の腫張と疼痛を主訴に来院。

現病歴：16歳時に全身性エリテマトーデスと診断された。ステロイド治療により病状は落ち着き、

18歳以降はステロイドを内服していない。時々、片頭痛に悩まされている。

1週間前から、左脚の膝から下が赤黒く腫れて痛いため受診した。患者は、「ふくらはぎが、歩いたときや、揉んだときに特に痛い」と話していた。

既往歴と家族歴：特記事項なし。

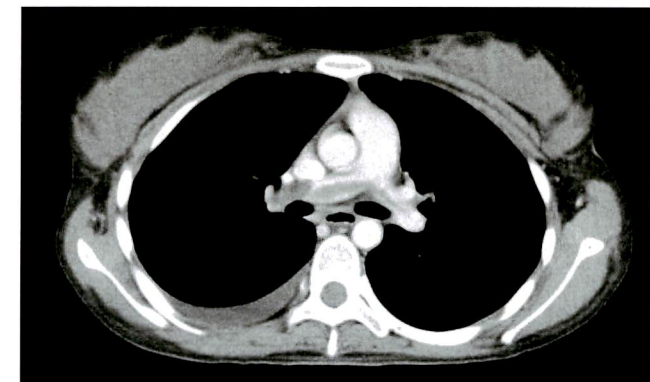
生活歴：喫煙歴なし、飲酒歴なし。

入院時現症：意識清明。身長172cm、体重75kg。体温36.6℃。血圧122/80mmHg、脈拍88（整）。眼

瞼結膜：貧血なし、眼球結膜：黄疸なし。蝶型紅斑を認める。呼吸音と心音は正常。

肝脾腫なし。関節所見なし。左下腿前脛骨部を圧迫すると圧痕が残り、触診では熱感が認められた。表在静脈の怒張と蛇行は認められなかった。

入院時検査所見：尿検査：蛋白（+/-）、潜血（-）。血液検査：赤沈10mm/1時間値。赤血球465万、ヘモグロビン14.2g/dl、ヘマトクリット42.1%、白血球5,200、血小板14万。凝固検査：プロトロンビン時間10.3秒（基準 10～13秒）、活性部分トロンビン時間 54秒（基準 25～40秒）。血清生化学検査：総蛋白 7.1g/dl、アルブミン4.1g/dl、クレアチニン0.81mg/dl、CK 47（基準 32～180）単位。CRP 0.03mg/dl、CH50 31 U/ml（基準値30～40）、抗核抗体160倍（Homogenous）（基準 40倍未満）、抗DNA抗体16（基準値7以下）。左膝窩の血管エコーでは、膝窩静脈内に高エコー信号の構造物を認め、血流は途絶えていた。胸部造影CTを示す。



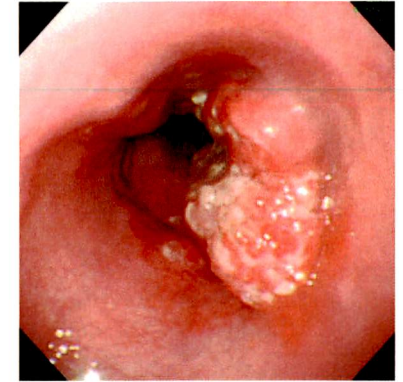
胸部造影CT

- 8 本症例で誤っているのはどれか。
- a Homan's signが陽性である。
 - b ルーブス抗凝血素が陽性となる。
 - c 胸部CTで胸水が認められる。
 - d 胸部CTで上行大動脈内に造影欠損を認める。
 - e 肺血流シンチグラムで右肺に欠損像が見られる。
- 9 本疾患で正しいのはどれか。2つ選べ。
- a fluorescent treponemal antibody-absorption (FTA-ABS) 法が陽性になる。
 - b Treponema pallidum hemagglutination (TPHA) 法が陽性になる。
 - c rapid plasma reagin (RPR) 法が陽性になる。
 - d 再発予防にステロイド薬が有効である。
 - e 習慣性流産をきたすリスクが高い。

- 10 65歳の男性。2か月前から食物のつかえる感じを覚え、次第に増悪してきたため来院した。入院後、根治手術を予定した。上門歯列から30cmの食道内視鏡写真を示す。

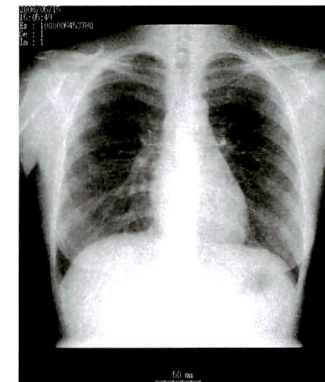
正しいのはどれか。

- a 手術は左開胸で行われる。
- b 切除後の再建経路として、後縦隔経路が最短である。
- c 腹部リンパ節への転移は省略してよい。
- d リンパ節郭清の目的で反回神経を合併切除することが多い。
- e 切除後の再建臓器として、結腸が用いられることが最も多い。

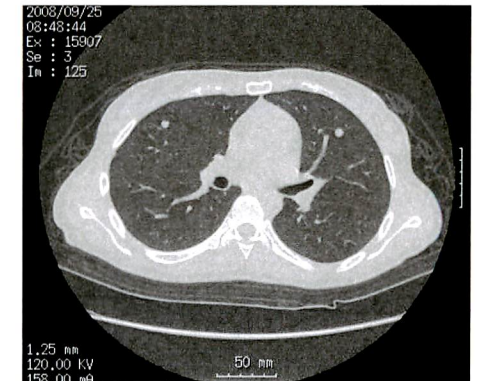


食道内視鏡写真

- 11 42歳の女性。左頸部腫瘍を主訴に来院した。甲状腺左葉に4×3cmの充実性腫瘍を認め、穿刺吸引細胞診にて甲状腺乳頭癌と診断された。左頸部には腫大したリンパ節を複数認める。合併症はなく、全身状態は良好である。術前の胸部単純エックス線写真と胸部CT写真を示す。



胸部単純エックス線写真



胸部CT写真

治療方針として正しいのはどれか。

- a 甲状腺全摘除術と術後化学療法
- b 甲状腺全摘除術と肺部分切除術
- c 甲状腺左葉切除術と術後化学療法
- d 甲状腺全摘除術と頸部リンパ節郭清
- e 甲状腺左葉切除術と頸部リンパ節郭清

12 小児の水分や栄養評価で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 摂取水分量は、飲水量と代謝水で評価する。
- b 人工乳と母乳のカロリーは食品交換表上の1単位である。
- c 1歳までの摂取カロリーは、体重当り100~120kcal/日で評価する。
- d 必要摂取カロリーは、食事摂取基準（2005年版）で体重により決定する。
- e 離乳食は5~6か月より開始し、口腔機能の発達にも欠かせないものである。

13 30歳の女性。血液検査の結果を示す。

動脈血pH 7.32、 $p\text{CO}_2$ 28mmHg、 HCO_3^- 14 mEq/ℓ

静脈血 Na 133mEq/ℓ、K 5.8mEq/ℓ、Cl 97mEq/ℓ BUN 130mg/dℓ、Cr 11.4mg/dℓ

正しいのはどれか。

- a 腎性代償がある呼吸性アシドーシスである。
- b 腎性代償のない呼吸性アシドーシスである。
- c 呼吸性代償がある代謝性アシドーシスである。
- d 呼吸性代償のない代謝性アシドーシスである。
- e 正anion gapの代謝性アシドーシスである。

14 咬合異常がみられないのはどれか。

- a 下顎骨体部骨折
- b 上顎骨骨折
- c 眼窩底骨折
- d LeFortⅢ型骨折
- e 齒槽骨骨折

15 73歳の男性。1年前より嚥声があったが放置しており、受診時には進行した喉頭癌であった。

治療として喉頭全摘術を行った。

日常生活に復帰する前に伝えることはどれか。

- a 水分で誤嚥しやすい。
- b 入浴は不可能である。
- c 身体障害3級に該当する。
- d 食道発声が唯一の代用発声法である。
- e 気管切開孔は術後6か月で閉鎖できる。

16 23歳の女性。ピアス部に写真のような皮疹が出現した。行うべき検査はどれか。

- a 皮内試験
- b 貼布試験
- c Tzank試験
- d 最少紅斑量試験
- e リンパ球刺激試験



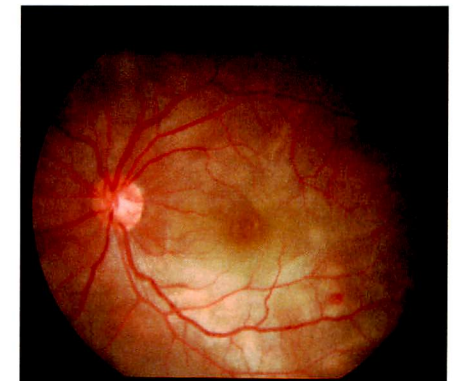
17 複合性局所疼痛症候群の診断基準にないのはどれか。

- a 皮膚・爪・毛の萎縮性変化
- b 発汗の亢進または低下
- c 不釣り合いな疼痛
- d 浮腫
- e 両側性

18 30歳の女性。2週間前から軽い頭痛と耳鳴りとを認め、徐々に両眼の視力が低下し来院した。矯正視力は右眼（0.3）、左眼（0.1）であった。左眼の眼底写真を示す。右眼も同様の所見であった。

診断はどれか。

- a 糖尿病網膜症
- b 虚血性視神経症
- c サルコイドーシス
- d Vogt-小柳-原田病
- e 網膜中心動脈閉塞症



左眼の眼底写真

19 36歳の男性。健康診断で肝機能障害を指摘され来院。腹部は平坦、軟で肝脾触知せず。腹部超音波検査では肝辺縁は鈍、肝表面平滑であり、占拠性病変および脾腫は認められなかった。HBs抗原陰性、HCV抗体陽性、HCV RNA定量 360 KIU/ml（基準0.5未満）、セロタイプグループ1。抗核抗体陰性、抗ミトコンドリア抗体陰性。

最も適切な治療はどれか。

- a ラミブジンとインターフェロン
- b プレドニンとインターフェロン
- c サイクロスポリンとグリチルリチン製剤
- d ラミブジンとグリチルリチン製剤
- e リバビリンとインターフェロン

20 婦人科診察において正しいのはどれか。

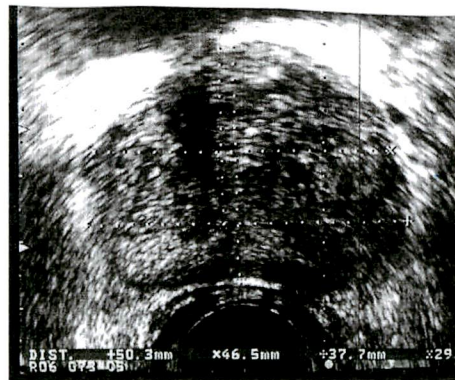
- a 視診は双合診の後に行う。
- b 腔鏡診は外陰部に異常がなければ行わない。
- c 双合診にて正常な子宮は鶏卵大である。
- d 直腸診では卵管の状態を確認する。
- e 経腔走査超音波法では膀胱を充満して行う。

21 68歳の男性。頻尿を主訴に受診。直腸診で鶏卵大以上、弾性軟な前立腺を触知した。

PSA 2.86 ng/ml（基準4.0以下）、尿流測定では最大尿流量は12.1 ml/s、排尿時間も遷延し、残尿量も110 mlあった。国際前立腺症状スコアは20点、QOLスコアは4点であった。既往歴は特にない。経直腸的前立腺超音波検査を示す。

治療として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 放射線療法
- b 抗癌化学療法
- c α -blocker 投与
- d 腹腔鏡下前立腺摘除術
- e 経尿道的前立腺切除術



経直腸的前立腺超音波所見

22 10歳の男児。1週間前から頭痛、嘔吐を繰り返すようになった。反応が鈍くなったため家族に連れられ今日来院した。頭部MRI（T1強調造影画像）写真を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 血管芽腫
- b 脳幹膠腫
- c 胚細胞腫
- d 頭蓋咽頭腫
- e 下垂体腺腫



頭部MRI（T1強調造影画像）写真

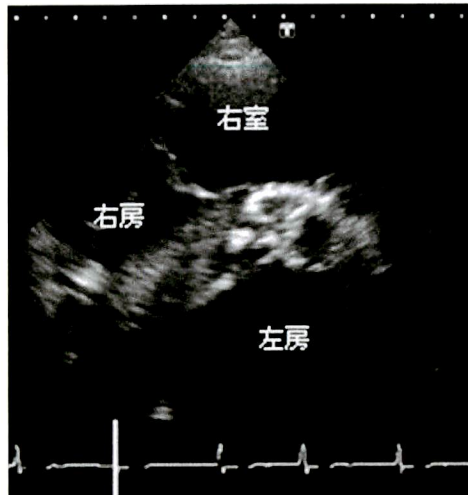
23 56歳の女性。3か月前から不正性器出血を認め、産婦人科を受診し、細胞診の結果classVの診断をうけ精査加療目的にて来院した。初診時の子宮頸部の視診所見では、腔壁への浸潤を認めない易出血性の隆起性病変を認めた。内診にて右の傍子宮組織浸潤は骨盤壁まで達し、左は傍子宮組織浸潤を認めなかった。隆起性病変からの生検組織では扁平上皮癌の診断であった。膀胱鏡所見では膀胱浸潤はなく、尿路造影では右の軽度の水腎症を認めた。

この癌の最大のリスクファクターはどれか。

- a 飲 酒
- b 喫 煙
- c 肥 満
- d 単純ヘルペスウイルス感染
- e ヒトパピローマウイルス感染

次の文を読み24～26の問いに答えよ。

78歳の男性。リウマチ熱の既往はない。15年前より心雑音を指摘されていたが、無症状のため放置していた。1年ほど前から労作時のみに生ずる胸痛を感じるようになった。胸痛は安静にて2～3分で消失した。1か月前から失神を時に起こし、息切れを感じるようになった。心エコー図所見を示す。



心エコー図所見

24 本症例の身体所見に関し、正しいのはどれか。

- a 遅脈を認める。
- b 速脈を認める。
- c 奇脈を認める。
- d 交互脈を認める。
- e 二峰性脈を認める。

25 本症例に対して行うべきでない検査はどれか。

- a 胸部CT
- b トレッドミル運動負荷心電図
- c 頸動脈エコー
- d 心音図
- e 冠動脈造影

26 本症例に対して望ましい治療はどれか。

- a 静注強心薬
- b β 遮断薬
- c 大動脈弁置換術
- d ニトログリセリン舌下投与
- e 恒久式人工ペースメーカー植込術

27 60歳の男性。検診にて1.8cm大の平板状隆起性病変を認めた（図1、図2）。生検組織学的には高分化型腺癌と診断された。内視鏡写真（左：通常観察、右：インジゴカルミン散布後）

治療方針として正しいのはどれか。

- a 内視鏡的粘膜切除術
- b 腹腔鏡的胃切除術
- c レーザー治療
- d 放射線療法
- e 化学療法



図1 通常観察



図2 インジゴカルミン散布後

28 胎児心拍数陣痛図所見を示す。



胎児心拍数陣痛図所見

正しいのはどれか。

- a CST (コントラクションストレステスト) 陰性
- b ノンリアクティブNST (ノンストレステスト)
- c 早 発一過性徐脈
- d 変 動一過性徐脈
- e 遅 発一過性徐脈

29 22歳の男性。今年大学を卒業し、一流企業に就職した。入社後2か月ごろから、「周囲の人が自分の悪口を言っている」と言うようになった。「上司や同僚が自分のことを見張っていて、影で批評している」と感じるようになり、出社しても仕事に集中できなくなった。入社後3か月ごろから、仕事を度々休むようになり、家中のカーテンや、雨戸を閉め切って生活するようになった。両親が心配し、本人を連れて精神科へ受診となった。診察時、「上司がしょっちゅう家の前にきていて自分の悪口を言っている。その上司の声が聞こえる」と盛んに訴え、「自分の考えていることが、周りの人に知られている」と言っていた。しかし、話は脈絡がなく、まとまりを欠いていた。

この症例に認められないのはどれか。

- a 幻 聴
- b 被害妄想
- c 思考伝播
- d 思考奪取
- e 連合弛緩

30 7歳の男児。鉄棒から転落し右肘部に激痛を訴えて来院した。右肘部には変形、強い腫脹を認める。来院時の単純エックス線写真真正面及び側面像を示す。徒手整復、ギプス固定を受けたが、2時間後肘部から手にかけて強い痛みを訴え始めた。手部に感覚鈍麻を認め、指尖部には循環障害を認める。

この状態を放置した際に生じる可能性がある障害はどれか。

- a Dupuytren拘縮
- b Volkmann拘縮
- c Madelung変形
- d Heberden変形
- e 三角筋機能不全



単純エックス線写真真正面像



単純エックス線写真側面像

- 31 戦前のマッチ製造従事者の顎骨部のエックス線写真を示した。
この従事者は貧血を訴えていた。

この病理変化及び全身症状の原因となっている化学物質は何か。

- a 黄リン
- b エーテル
- c ベンゼン
- d ベンジジン
- e ナフチルアミン

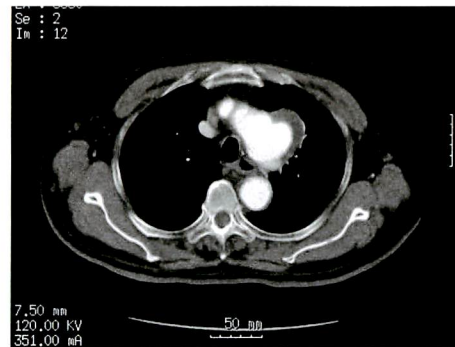


顎骨部のエックス線写真

- 32 65歳の男性。住民検診の胸部エックス線にて異常を指摘され来院した。胸部CTを示す。

今後予想される症状を説明する場合に、適切でないのはどれか。

- a 胸痛
- b 血痰
- c 嗄声
- d 心不全
- e 突然死



胸部CT

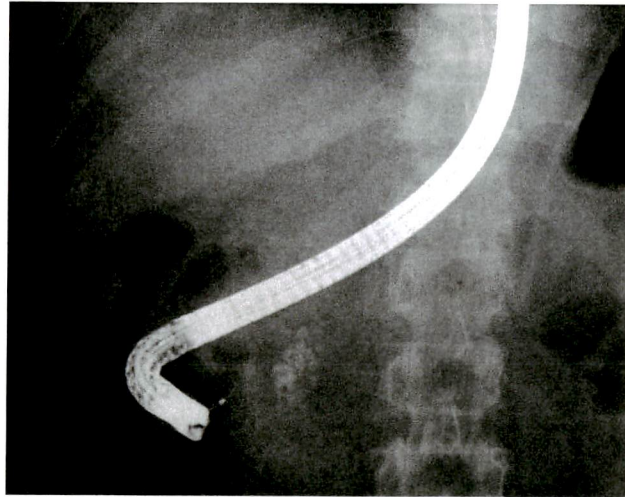
- 33 尿試験紙法検査においてアスコルビン酸の内服で偽陰性となることがあるのはどれか。

- a 蛋白
- b 潜血
- c ケトン体
- d ウロビリノーゲン
- e 亜硝酸

- 34 病理組織染色法について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a HE (hematoxylin-eosin) 染色は核を赤く細胞質を紫色に染め出す。
- b PAS (periodic acid-Schiff) 染色は糖質を赤紫色に染め出す。
- c Grocott染色はアミロイドを橙赤色に染め出す。
- d EvG (elastica-van Gieson) 染色は血管・漿膜の同定に有用である。
- e 免疫染色で、上皮性腫瘍はcytokeratin陰性でvimentinが陽性を示す。

- 1 ERCP画像の症例について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 膵癌である。
 - b 慢性膵炎である。
 - c 膵仮性嚢胞が認められる。
 - d 治療薬は、Gemcitabineである。
 - e 晩期合併症は、糖尿病と消化不良である。



ERCP画像

- 2 32歳の女性。精神科で処方されていたベンゾジアゼピン系薬を計約100錠内服した。内服時間は不明。来院時意識はJCS300で、気道確保のため気管挿管を行った。
- 写真(1)(2)(3)は中毒患者の処置に一般的に用いるものである。



この患者の処置に用いるもの

この患者の処置として正しいのはどれか。

- a (3)を挿入し、(1)を注入
 - b (3)を挿入し、同時に(1)を静注
 - c 催吐させた後(3)を挿入し、(1)を注入
 - d (3)を挿入し、胃洗浄を行った後、(1)を注入
 - e (3)を挿入し、1時間毎に(1)を注入
- 3 45歳の男性。22歳で大学卒業後、自動車会社で設計の仕事をしている。6か月前から新しいプロジェクトに携わり、連日残業で多忙を極めていた。3か月前から、入眠困難、中途覚醒がみられるようになった。1か月前から、意欲の低下、抑うつ気分出現し、仕事中に動悸や息苦しさを感ずるようになった。1週間前から、「この世からいなくなりたい」と希死念慮を訴え、仕事に行けなくなったため、精神科へ初診となった。この3か月間で食欲低下も著明で、7kgの体重減少がみられた。朝が不調で動くことができず、夕方にやや気分の改善がみられ、気分の日内変動が認められた。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 休職と自宅療養を勧めた。
- b 気分転換に旅行を勧めた。
- c 家族が励まして出社させるように勧めた。
- d 抗うつ薬、睡眠導入剤を用いた薬物療法を開始した。
- e 性格の問題があり、薬物療法は効果が出にくいと説明した。

- 4 32歳の女性。内科で全身性エリテマトーデスと診断され副腎皮質ステロイドによる治療を2年間受けている。4週前から、左股関節から股部の痛みを訴えるようになり来院した。単純エックス線写真では、明らかな異常を認めない。

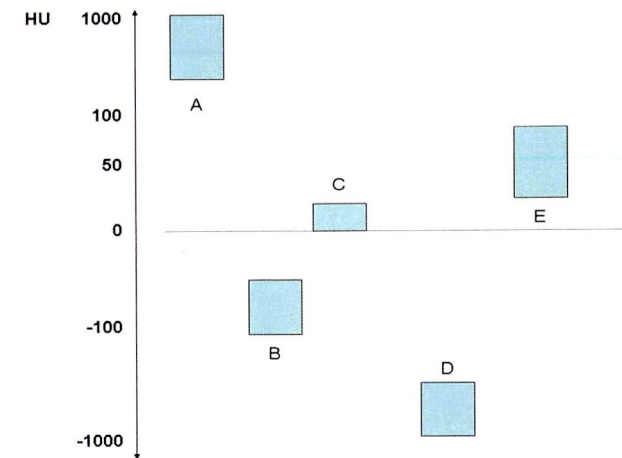
股関節病変の早期診断に最も有用な検査はどれか。

- a 骨生検
 - b 単純MRI
 - c 股関節造影
 - d 血液学検査
 - e 骨シンチグラフィ
- 5 2種類の降圧剤Aと降圧剤Bの安全性を比較するために、降圧剤Aを服薬中の患者10,000名と降圧剤Bを服薬中の患者10,000名を登録し、1年間の観察期間中における副作用の発生割合を比較することとした。

この研究はどれに属するか。

- a 無作為化比較対照試験
- b メタアナリシス
- c 症例対照研究
- d コホート研究
- e ケースシリーズ研究

- 6 下図のA～Eのうち、単純性腎嚢胞内のCT値を表しているもっとも近いのはどれか。

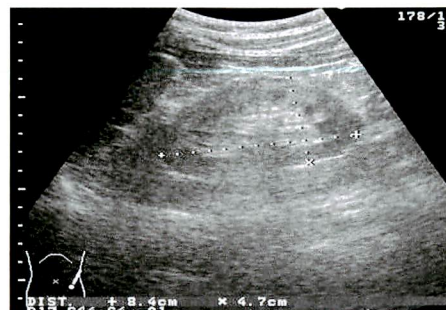


- a A
- b B
- c C
- d D
- e E

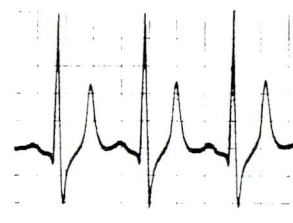
7 55歳の男性。健康診断で血清クレアチニン値高値を指摘され来院。10年以上前に尿蛋白と高血圧を指摘されたことがあるが放置していた。血圧180/100mmHg。下腿に浮腫を認める。血清生化学所見：尿素窒素70mg/dℓ、クレアチニン5.3mg/dℓ。腎臓超音波検査写真と心電図を示す。

認められるのはどれか。

- a K 3.0mEq/L
- b Ca 10.2mg/dℓ
- c P 2.9mg/dℓ
- d HCO_3^- 33mmol/L
- e Hb 7.8g/dℓ

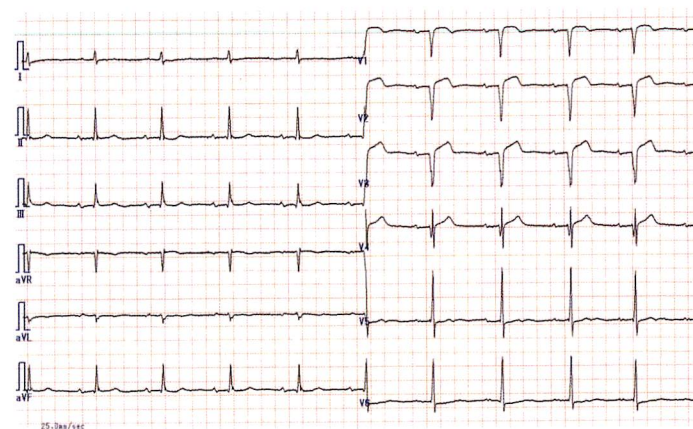


腎臓超音波検査

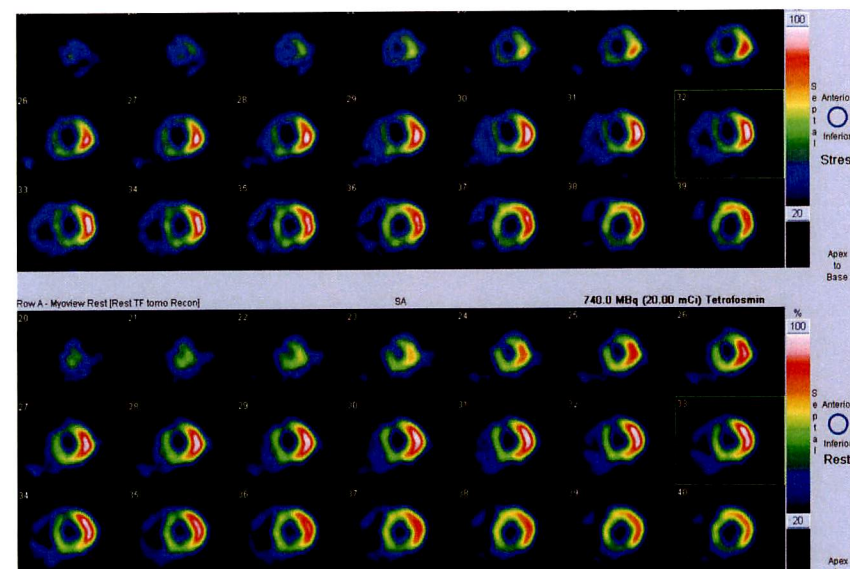


心電図所見

8 68歳の男性。畑仕事に重いものを持って歩いたり、畑を耕すと胸部に違和感を覚えていたが、すぐ消失していたので放置していた。最近、マンションの階段を3階まで上ると、前胸部全体が圧迫される症状が出現したために来院した。圧迫感は休息をとると2から3分で軽快する。安静時に同症状は生じたことはない。健康診断では、糖尿病、高血圧を指摘されていたが放置していた。以下に、来院時の心電図、その後に施行した薬物負荷心筋シンチグラフィを示す。



心電図



薬物負荷心筋シンチグラフィ

正しいのはどれか。

- a 不安定狭心症であり、直ちに緊急入院させる。
- b 胸部圧迫感の原因は、狭心症というより不整脈の可能性が高い。
- c 安定狭心症であり、心臓カテーテル検査の入院適応がある。
- d 薬物負荷心筋シンチグラフィーでは異常がないので、薬物治療を開始する。
- e 急性心筋梗塞を既に発症しており、直ちに緊急入院させる。

次の文を読み9～11の問いに答えよ。

25歳の男性。数時間前からの腹痛を主訴に受診した。初めは腹部正中の圧迫されるような痛みであったが、次第に嘔気を伴い、右下腹部も痛くなってきたという。嘔吐はしていない。便の性状変化や排尿随伴症状はない。

9 診断を考える上で重要な病歴はどれか。2つ選べ。

- a 数時間前からの腹痛。
- b 圧迫されるような痛み。
- c 嘔気を伴うが嘔吐はない。
- d 右下腹部への疼痛部位の変化。
- e 便の性状変化や排尿随伴症状がない。

10 患者に特記すべき既往歴はない。身体所見は、意識清明、体温37.6℃、呼吸 20回/分、血圧 110/70 mmHg、脈拍 90/分、整。頭頸部および胸部に異常を認めない。腹部膨隆は無く、腸雑音を聴取する。右下腹部に圧痛があり、直腸指診で10時方向に圧痛を認める。

この患者で腹膜刺激徴候の有無を確認するのに適さない診察手技はどれか。

- a 右下腹部を手拳で直接叩く。
- b 咳払いをさせ、疼痛誘発の有無およびその部位を尋ねる。
- c 左側臥位にし、右股関節を他動的に過伸展させ、痛みの誘発をみる。
- d 左下腹部を数秒圧迫した後、急に手を離し、右下腹部に痛みが誘発されるかみる。
- e 仰臥位で右股関節と膝関節とを屈曲し、右股関節を他動的に内旋させ、痛みの誘発をみる。

11 この患者には腹膜刺激徴候が認められた。血液検査では、白血球数 12,000、貧血はなく、肝機能・腎機能・電解質に異常を認めない。右下腹部の超音波所見を示す。

治療として適切なのはどれか。

- a 緊急手術
- b 帰宅させ経過観察
- c 入院させ経過観察
- d アンピシリンを点滴投与
- e マクロライド系抗菌薬を経口投与



右下腹部の超音波所見

12 24歳の男性。通勤中の電車に乗っているときに、突然、動悸、発汗、息苦しさが出現。また、強度の不安も出現したため、次の停車駅で下車。駅員により救急車が要請された。しかし、救急車で搬送中に不安は改善し、受診後の血液検査、心電図検査でも異常所見を認めなかった。ところが、その後も電車に乗ると、同様の症状が出現している。

治療として正しいのはどれか。

- a 炭酸リチウム
- b ハロペリドール
- c 塩酸ドネペジル
- d 塩酸パロキセチン
- e バルプロ酸ナトリウム

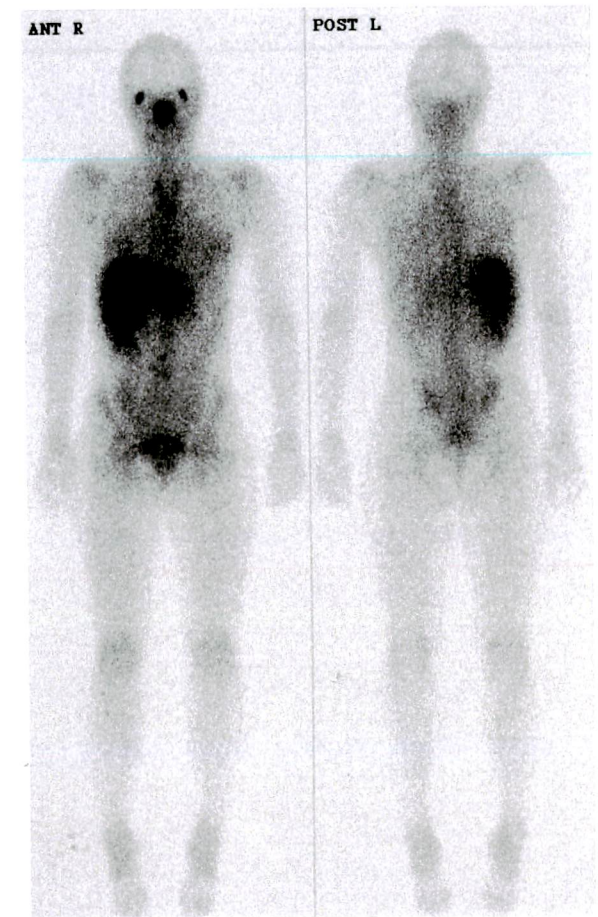
13 12歳の男児。左股関節痛で来院した。単純エックス線写真で左大腿骨頭すべり症を認める。

この患者に認められる身体所見はどれか。

- a Allis sign
- b click sign
- c Tinel sign
- d telescope sign
- e Drehmann sign

14 核医学画像を示す。この画像診断が最も有用な疾患はどれか。

- a 胃 癌
- b 肝細胞癌
- c 卵巣癌
- d 悪性リンパ腫
- e 転移性骨腫瘍



核医学画像

15 26歳の女性。1年前の健診で検尿異常はなかった。1か月前から微熱があり、関節痛を認めた。12日前に咽頭痛が出現し、5日程持続した。昨日朝、コーラ色の尿が出て、午後には下肢に浮腫が出現した。浮腫と頭痛を訴えて来院した。血圧146/92 mmHg。尿所見：潜血(3+)、蛋白(3+)。血液所見：Hb 13.6 g/dℓ。血清生化学所見：アルブミン 3.7 g/dℓ、クレアチニン1.4mg/dℓ。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 急性腎炎症候群
- b 急速進行性腎炎症候群
- c 慢性腎炎症候群
- d ネフローゼ症候群
- e 慢性腎不全

16 68歳の女性。多嚢胞腎による慢性腎不全のため5年前より血液透析を受けている。石灰化を伴う大動脈弁狭窄症(圧差80mmHg)・上行大動脈の拡張(直径38mm)と診断され、大動脈弁人工弁置換術の予定である。

人工弁(生体弁・機械弁)を選択する際に考慮すべき点はどれか。2つ選べ。

- a 年齢
- b 性別
- c 上行大動脈の拡張
- d 大動脈弁の石灰化
- e 血液透析患者であること。

17 49歳の女性。1か月前から頭痛が出現した。肩こりと思っていたが、1週間前から動くとき頭痛が増悪し、夜間に頭痛で目覚めるようになった。鎮痛剤を服用し対処していたが、歩行時にふらつきと目のかすみも出現した。昼間から頭痛が増強し、嘔吐も出現したため夜間救急外来を受診した。

来院時患者は苦悶上で、嘔吐を繰り返し、やや非協力的であった。血圧は150/95、脈拍86/分、整、体温37.2℃。

安静が保てず眼底は十分見えなかった。髄膜刺激徴候は陰性。DTRは右上下肢で亢進していた。

直ちに行うべき検査はどれか。

- a 腰椎穿刺
- b 脳波
- c 脳血流SPECT
- d 頭部CT
- e 筋電図

18 急性骨髄性白血病の予後因子のひとつに染色体核型がある。

予後良好因子とされる核型はどれか。2つ選べ。

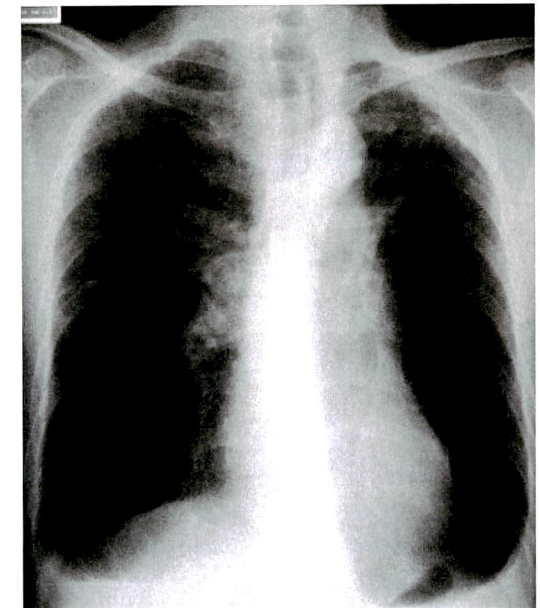
- a -7
- b inv(16)
- c normal(核型正常)
- d t(8;21)(q22;q22)
- e t(9;22)(q34;q11)

19 60歳の男性。5年前から軽度の労作時呼吸困難を自覚していたが、放置していた。約2週間前から呼吸困難が増悪し、階段の昇降時や入浴時に呼吸困難を著しく自覚するようになったため、来院した。20歳より30本/日、40年間の喫煙歴がある。

動脈血ガス分析は空気吸入下で、pH 7.35、Pco₂ 54.6 Torr、Po₂ 54.0 Torr、HCO₃⁻ 29.8 mmol/ℓ、BE 3.1 mmol/ℓ。BNP 12.1 pg/ml(基準：18.4 pg/ml以下)。胸部エックス線写真を示す。

診察所見として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 打診清
- b 肋間陥凹
- c 呼吸音減弱
- d 声音振盪増強
- e 表在静脈拡張



胸部エックス線写真

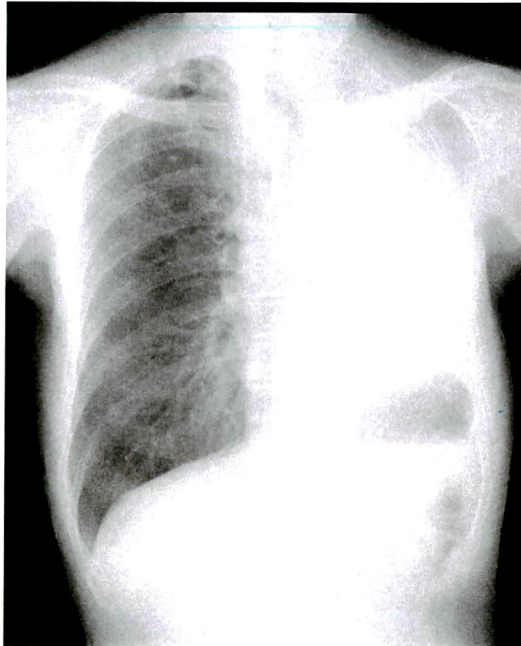
- 20 70歳の男性。血痰を主訴に来院した。2 か月前より咳嗽が出現し、2 週間前より血痰を認めるようになった。

胸部聴診では左全肺野で呼吸音が減弱していた。

受診時の胸部エックス線写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 肺水腫
- b 右自然気胸
- c 大葉性肺炎
- d 左大量胸水
- e 左主気管支閉塞



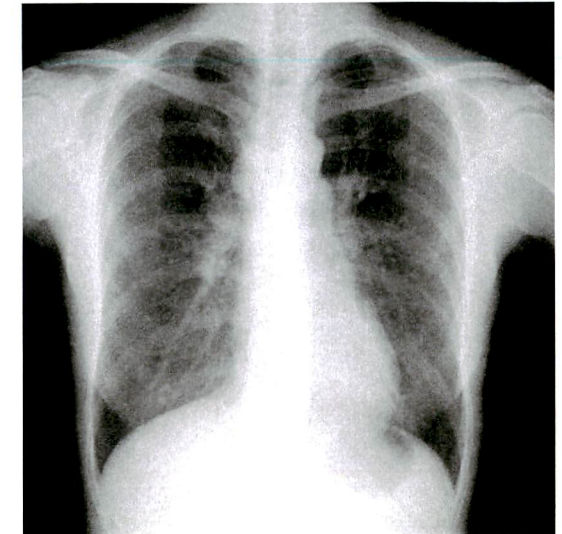
胸部エックス線写真

- 21 52歳の女性。霧視を主訴に眼科を受診し、ぶどう膜炎と診断された。血液生化学検査ではACEが上昇していた。

胸部エックス線写真を示す。

有用でない検査はどれか。

- a 気管支洗浄
- b 胸部造影CT
- c 経気管支肺生検
- d ツベルクリン反応
- e ^{67}Ga シンチグラフィー



胸部エックス線写真

- 22 60歳の男性。両足のしびれを主訴に受診。

現病歴：1 か月前に近医で施行した血液検査にて白血球増多を指摘された。また同時期より両手の関節痛が出現した。2 週前から両足のしびれを自覚している。

既往歴：56歳時より気管支喘息で近医通院加療中。

現 症：体温36.8℃、身長170cm、体重64kg。脈拍60/分、整。血圧126/80mmHg。肺野に雑音なし。両下腿に軽度の筋力低下を認める。両アキレス腱反射の減弱あり。両側足底部の感覚低下。両下腿に径3～5mm大の紫斑を数個認める。

検査所見：尿所見：蛋白（－）、糖（－）。便潜血陰性。血液所見：白血球13,000（好酸球35%）、赤血球374万、Hb 11.2 g/dℓ、血小板45万。血液生化学所見：GOT 26 IU/ℓ、GPT 39 IU/ℓ、LDH 198 IU/ℓ（基準120~240）、BUN 18 mg/dℓ、Cr 0.7 mg/dℓ。CRP 2.1 mg/dℓ。

最も考えられる診断はどれか。

- a 成人Still病
- b 関節リウマチ
- c 多発性硬化症
- d Guillain-Barré症候群
- e アレルギー性肉芽腫性血管炎

23 53歳の男性。

現病歴：3か月ほど前から食べ物のつかえ感を感じるようになったため来院した。

既往歴：特記すべきことはない。

生活歴：会社経営者である。離婚歴が1回で、現在は独身。多数の性交渉のパートナーがいる。

現 症：身長173cm、体重85kg、体温36.3℃、脈拍88/分、整。血圧134/78mmHg。口腔粘膜・舌に

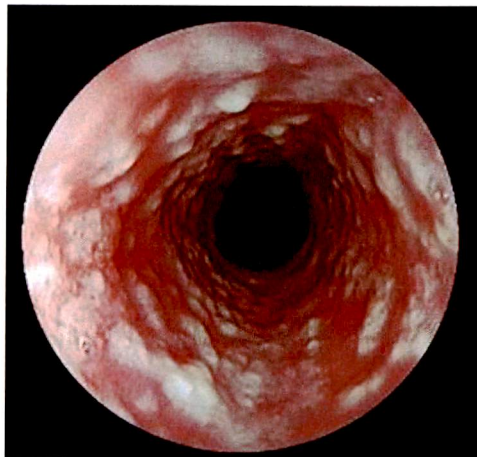
白苔あり。胸腹部に異常を認めない。神経学的異常なし。皮膚にも異常所見はない。

検査所見：HIV-RNA 定量値96,000 copies/mL、CD4陽性T細胞数 39/μL。

上部消化管内視鏡写真を示す。

この症例にみられる食道病変はどれか。

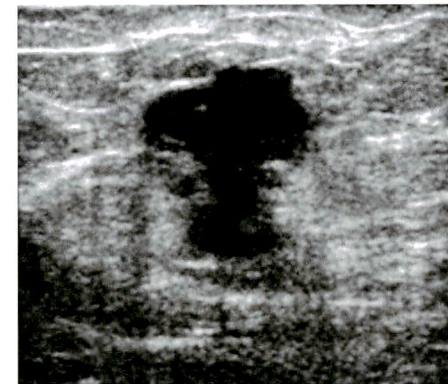
- a 食道癌
- b 食道憩室症
- c 逆流性食道炎
- d 食道カンジダ症
- e 食道アカラジア



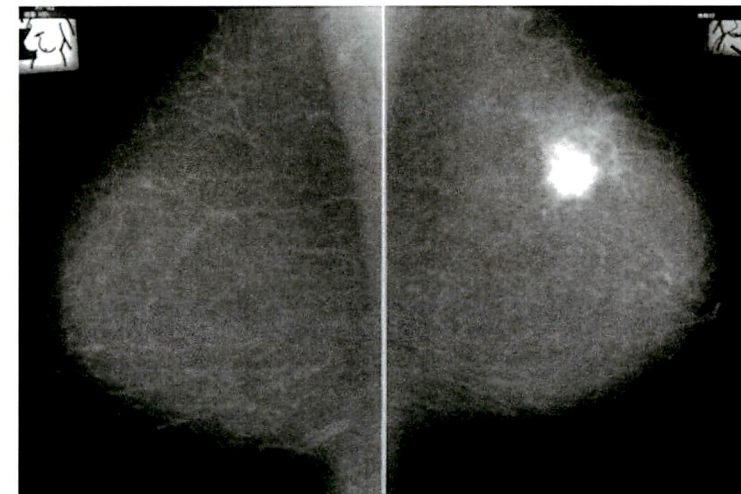
上部消化管内視鏡写真

次の文を読み、24～25の問いに答えよ。

60歳の女性。左乳房腫瘍を主訴に来院した。左乳房C領域に3cm大の可動性良好で硬い腫瘍を触知した。乳房腫瘍間距離は3cm、乳頭からの分泌はなく、dimpling signは認められなかった。左腋窩に可動性良好で母子頭大の硬いリンパ節を触知した。身長152cm、体重74kg。2経妊、2出産、0流産。超音波検査写真とマンモグラフィ写真を示す。



左乳房C領域の超音波検査写真



マンモグラフィ写真

24 治療方針の決定に必要でないのはどれか。

- a 針生検
- b 頭部CT
- c 胸腹部CT
- d 骨シンチグラフィ
- e マンモトーム生検

25 最初に行うべき治療はどれか。

- a 手術
- b 化学療法
- c 緩和療法
- d 放射線治療
- e ホルモン療法

26 生後3日の新生児において異常なのはどれか。

- a 吸綴反射陽性
- b 1日尿量30ml
- c 6%の体重減少
- d 1日哺乳量回数8回
- e 右肋骨弓下に肝を1cm触知

27 小児の胸部単純エックス線写真について正しいのはどれか。

- a Sail signは胸腺のエックス線所見である。
- b 心胸郭比は吸気より呼気の方が小さくなる。
- c 乳児では吸気、呼気どちらで撮影しても良い。
- d Holtzknecht signはクループ症候群でのエックス線所見である。
- e 乳児の場合、管球の位置は鎖骨が第6胸椎にあれば適切な位置である。

28 58歳の男性。以前より会社健診で耐糖能異常を指摘されていたが放置していた。工作中に突然生じた前胸部痛で救急外来を受診した。心臓カテーテル検査で右冠状動脈に狭窄性変化が認められPTCAが行われた。今後、抗凝固療法が必要と考えられる。

治療の指標として適切なのはどれか。

- a HPT
- b APTT
- c PT-INR
- d 血小板凝集能
- e Rumpel-Leede 試験

29 小児の手の先天性疾患を示す。エックス線写真に基づいて分類で正しいのはどれか。

- a WasselのⅠ型
- b WasselのⅡ型
- c WasselのⅢ型
- d WasselのⅣ型
- e WasselのⅤ型

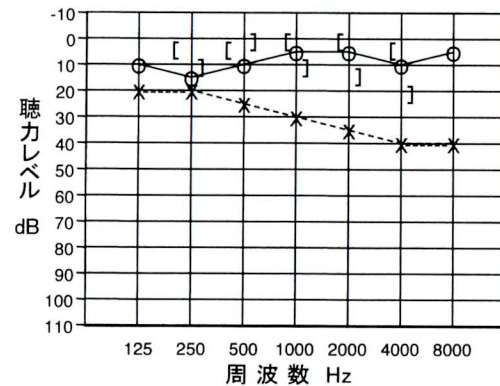


エックス線写真

30 5歳の女兒。いびきと左耳の難聴を主訴に母親に連れられて来院した。4歳時よりいびきがあり、アデノイドのためと言われていた。最近になり左耳の難聴が増悪してきた。左耳の純音聴力図を示す。

診断のために有用な検査はどれか。

- a 音叉検査
- b 語音聴力検査
- c 聴性脳幹反応
- d 自記オーディオメトリ
- e インピーダンスオーディオメトリ



左耳の純音聴力図

31 20歳の女性。1週間前から感冒症状出現。昨日から両下腿に紫斑が出現し来院した。紫斑は浸潤を触知した。写真を示す。

診断はどれか。

- a Kaposi肉腫
- b うっ滞性皮膚炎
- c 慢性色素性紫斑
- d 血小板減少性紫斑病
- e シェンラインヘノッホ紫斑病 (Schönlein Henoch)



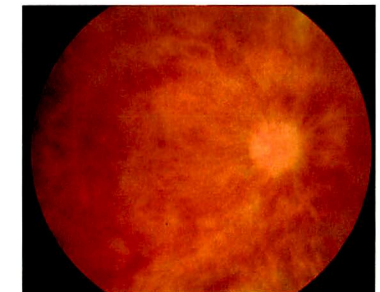
32 硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔で正しいのはどれか。

- a 分離麻酔が可能である。
- b 硬膜外麻酔の方より発現が早い。
- c 止血、凝固異常がある場合脊髄くも膜下麻酔は安全である。
- d 頸椎レベルで行うと頭頸部手術が可能である。
- e 術後鎮痛に利用可能である。

33 72歳の男性。3週間より右眼の視力低下を主訴に来院した。矯正視力は右眼 (0.08)、左眼 (1.2) であった。右眼の眼底写真を示す。左眼の眼底に異常は認められなかった。

最も考えられるのはどれか。

- a 加齢黄斑変性症
- b Vogt-小柳-原田病
- c 裂孔原性網膜剥離
- d 網膜静脈分枝閉塞症
- e 網膜中心静脈閉塞症



右眼の眼底写真

34 63歳の男性。7日前からの嘔声を主訴に受診した。喉頭ファイバースコープで左声帯の運動障害を認める。

嘔声の原因検索として必要でないのはどれか。

- a 頸部CT
- b 胸部CT
- c 腹部CT
- d 頸部超音波検査
- e 上部消化管内視鏡検査